SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。

トップメッセージ

サステナビリティ
マネジメント

サステナビリティ
基本方針 ›

推進体制 ›

重点課題 ›

サステナビリティ
目標 ›

サステナビリティ活動

資源の有効活用・循環

- 食品ロスの削減・有効活用
- プラスチックの削減・再利用
- 水資源の持続的利用

気候変動への対応

- CO_2排出量の削減

生物多様性の保全

- 生物多様性の保全活動

食と健康への貢献

- 健康寿命延伸への貢献

持続可能な調達

- 持続可能な調達の推進

人権の尊重

- 人権尊重への取り組み

・子どもの心と体の健康支援

・多様な人材の活躍
・健康経営・労働安全衛生

キーワードから見る取り組み

再生可能エネルギー　循環型経済　サプライチェーン
食を通じた社会貢献　健康　ユニバーサルデザイン
コンプライアンス　ダイバーシティ

キユーピーグループ オフィシャルブログ

2026/09/07　食育

「野菜が食べられた!」最高の笑顔に出会える五霞工場

2026/09/03　食育

自分でつくると、野菜がもっとおいしい!「ポテトサラダで野菜チャレンジ!」を開催@マヨテラス

2026/09/01　食育

【後編】中国3工場の挑戦!"食の楽しさと安心"を届ける工場見学(杭州・北京・広州)

2026/08/31　食育

【前編】中国3工場の工場見学を統括して～これまでの歩みと想い

更新情報

› 一覧を見る

2026/04/27

› 「サステナビリティ」を年次更新しました

ニュースリリース

› 一覧を見る

2026/07/22　No.51

› 子どもの"サラダ好き"を育む体験型イベント「サラダを楽しむ!キユーピーとヤサイな仲間たちパーク」を 8月31日の「野菜の日」にあわせて今年も開催

2025/09/30

> 「キユーピーの自由研究」2025年度受賞作品をアップしました

2025/07/07

> 「食生活アカデミー キユーピーの自由研究」を更新しました

2025/05/29

> 「サステナビリティ」を年次更新しました

2024/11/28

> 「キユーピーグループ環境ビジョン2050」を策定しました

2026/07/21　No.49

> キユーピー、ESG投資指数「FTSE4Good Index Series」など3つの構成銘柄に継続選定

2026/06/25　No.42

> 「SOMPOサステナビリティ・インデックス」に8年連続で選定

2026/06/11　No.41

> 食品ロス削減に向けた取り組みを学び、実践へとつなげる小学生向け教材「食品ロス・ゼロチャレンジ大作戦!」を制作

2026/06/05　No.38

> 「自然の恵み」を次世代へ。アヲハタとJERA Cross、オフサイト型コーポレートPPAを 活用したクリーンエネルギー調達を本格始動

サステナビリティ情報

- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 社外からの評価 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >

- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ オフィシャルブログ >
- グループ各社の サステナビリティ活動 >

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

トップメッセージ

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
おいしさ・やさしさ・ユニークさをもって
サステナビリティに取り組むことで、
社会価値と経済価値を創出し、
社会と企業の持続的成長をめざします

キユーピー株式会社 代表取締役 社長執行役員
髙宮 満

キユーピーグループは、サステナビリティという概念ができる以前から創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という考えのもと、社会課題の解決に取り組んできました。「めざす姿」「2030ビジョン」を将来のありたい姿とし、2025-2028年度中期経営計画では、“Change & Challenge”をテーマに、活動をさらに進化させていきます。

キユーピーグループのサステナビリティ活動は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を参考にサステナビリティに向けた6つの重点課題を特定して、2030年度目標を設定しています。中期経営計画においては、「協業、投資、グローバル」をテーマに、食と健康や地球環境にまつわる課題に積極的に取り組みます。

食と健康への貢献においては、サラダの魅力をさらに広げる「サラダファースト」の取り組みとして、世界中でサラダの健康価値や情緒的価値を発信し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。また、次世代に笑顔をつなぐ食育活動や社会貢献活動を積極的に推進します。また、世界的な課題である食品ロス削減やプラスチックの削減・再利用については、他企業や地域社会と協業することで資源循環ができる社会をめざします。食品ロスは、廃棄量の削減から再資源化・有価値化へと取り組みのステージを上げていきます。プラスチックの削減・再利用は、グローバル規模で取り組みを強化します。海外ではドレッシング容器に再生PET樹脂を30%含むボトルの採用が始まっており、日本国内では使用済みマヨネーズボトルとドレッシングボトルの資源循環（ボトルtoボトル）に向けた取り組みを開始しました。

持続可能な社会の実現に向け、キユーピーグループはサラダ、ウェルネス、サステナビリティを価値創造のドメインと定めてグローバル視点での取り組みや投資を進め、社会価値と経済価値を創出します。

› サステナビリティ目標

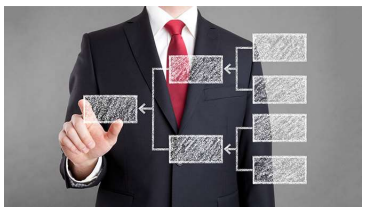
サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
重点課題と推進体制
環境マネジメント
ステークホルダーとの対話
社外からの評価
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史

サステナビリティマネジメント

キユーピーグループは、持続可能な社会への貢献とグループの持続的な成長をめざし、「キユーピーグループ サステナビリティ基本方針」をはじめとした各種方針に基づき、積極的に活動を推進しています。私たちは、ステークホルダーの皆様との対話を大切にしながら、「キユーピーグループ 2030ビジョン」そして「めざす姿」の実現に向けて邁進しています。

2030年までの経営の基本的な考え方として、「サラダ」「ウェルネス」「サステナビリティ」という3つのドメインを軸に、社会価値と経済価値の創出を両輪とし、キユーピーらしい新たな価値を生み出していきます。



重点課題と推進体制

キユーピーグループのサステナビリティ基本方針や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。

環境マネジメント

キユーピーグループは、環境方針のもと事業活動における環境影響に配慮した取り組みを行っています。

ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。

社外からの評価

キユーピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

キユーピーグループ
オフィシャルブログ

グループ各社の
サステナビリティ活動

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
  - 重点課題と推進体制
  - 環境マネジメント
  - ステークホルダーとの対話
  - 社外からの評価
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史

重点課題と推進体制

キユーピーグループ サステナビリティの考え方　キユーピーグループ サステナビリティ基本方針
サステナビリティ推進体制　サステナビリティに向けての重点課題
重点課題特定のプロセス　サステナビリティ目標　従業員への浸透

キユーピーグループ サステナビリティの考え方

キユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を持って世界の食と健康に貢献することで、社会に貢献し続ける企業でありたいと考えています。サステナビリティ活動を重要な活動と位置づけ、グループ理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤として、活動を推進します。

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、
解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、
笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献

- サラダとタマゴを中心に、食生活に関わる栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
- 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

- 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
- 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
- プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。
- 水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。
- 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。

気候変動への対応

- 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO_2排出量削減をめざします。

生物多様性の保全

- 生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。

持続可能な調達

- 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

人権の尊重

- 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

2022年制定、2024年12月改訂

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年4回委員会を開催しています。
重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。
また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。

サステナビリティに向けての重点課題

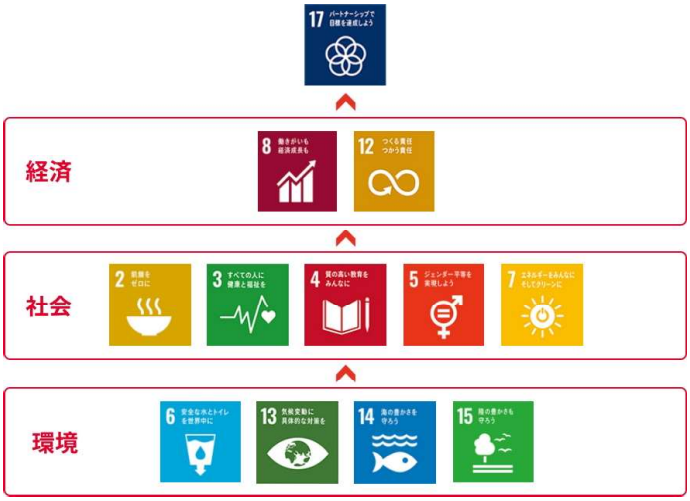
キユーピーグループでは、「キユーピーグループ 2030ビジョン」の実現やSDGs※への貢献など、2030年からバックキャスト思考で検討し、以下のサステナビリティに向けての重要課題を特定しました。

- 食と健康への貢献
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重

サステナビリティに向けての重点課題は、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざす上で、事業と社会の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重点課題の見直しを行います。

※　持続可能な開発目標（SDGs）
SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

キユーピーグループが貢献するSDGs項目



重点課題特定のプロセス

ステップ 1

社会課題の抽出

SDGsをはじめとしてさまざまなサステナビリティ国際基準や各種ESG評価などをもとにキユーピーグループが取り組むべき社会課題を抽出しました。

ステップ 2

事業と社会に与える影響を確認

ステップ1で抽出した社会課題をバリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え事業と社会へ与える影響について重要度評価を行いました。

ステップ 3

重点課題の特定・サステナビリティ目標策定

実績や進捗や社会・地球環境の変化を鑑み関連部署および専門家や有識者の意見を反映させています。

ステップ 4

サステナビリティ委員会にて承認

特定したサステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標はサステナビリティ委員会で承認されています。

キユーピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

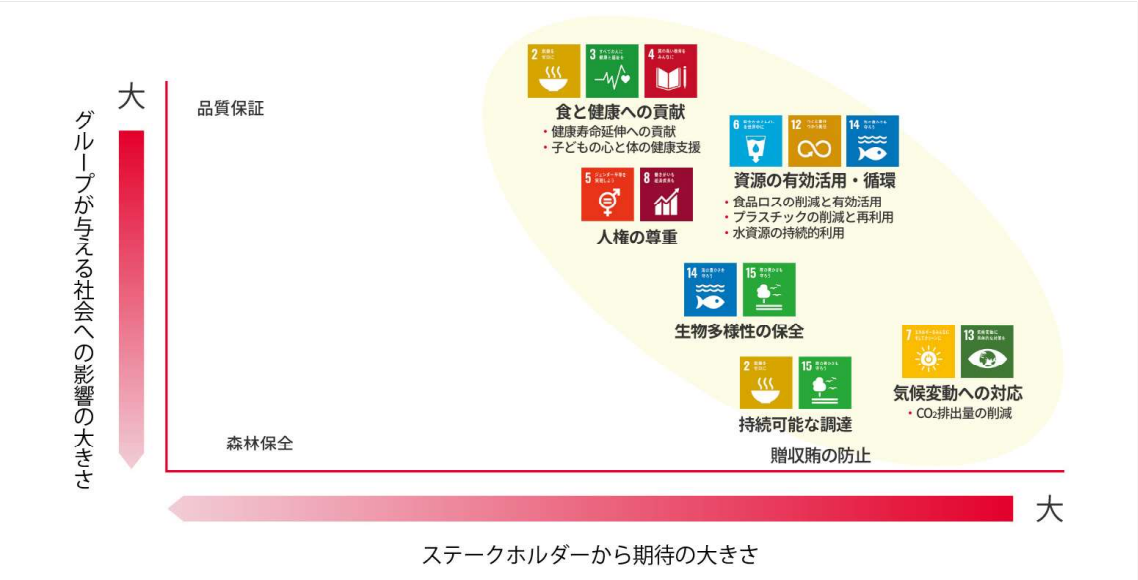
キユーピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題は、持続可能な開発目標（SDGs）、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に抽出しています。

事業と社会に与える影響

バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会課題ごとにステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価しサステナビリティに向けての重点課題を特定しました。

バリューチェーンにおけるリスクと機会

サステナビリティに向けての重点課題の特定



サステナビリティ目標

サステナビリティ目標は、サステナビリティに向けた重点課題にひも付け、キユーピーグループとして取り組むテーマを指標化したものです。
従業員一人ひとりが、サステナビリティの意識と視点を持ち、キユーピーグループの理念と規範の実践により、目標達成に向けて取り組んでいきます。

サステナビリティ目標と実績

重点課題	取り組みテーマ	指標	2025年度実績	2028年度目標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	お客様の健康な食生活に貢献するため、サラダの喫食機会向上、タマゴの付加価値化を中心に取り組みを推進			
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数（2019年度からの累計）	60.3万人	80万人以上	100万人以上
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率（2015年度比）	61.4%	63%以上	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）	84.3%	88%以上	90%以上
		商品廃棄量削減率（2015年度比）	53.1%	70%以上	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率（2018年度比）	26.9%	25%以上	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量（原単位）削減率（2020年度比）	9.7%	8%以上	10%以上
気候変動への対応	CO_2排出量の削減	CO_2排出量削減率（2013年度比）	50.6%	46%以上	50%以上
生物多様性の保全	生物多様性の保全	持続可能な紙の調達率2025年度までに100%（容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品）	100.0%	100%	100%
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進			
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キユーピーグループ 人権方針」を推進			

※「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」を含む

※サステナビリティ目標の対象範囲は国内

※実績値に基づき表示単位未満を四捨五入

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書などを従業員教育へ活用しています。また、社内広報ではキユーピーグループ社内報でサステナビリティ情報を発信しています。

統合報告書

キユーピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キユーピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステビリティへ共感することをめざしています。

› キユーピーグループ オフィシャルブログ

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
  - 重点課題と推進体制
  - 環境マネジメント
  - ステークホルダーとの対話
  - 社外からの評価
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史

環境マネジメント

環境マネジメントの考え方　キユーピーグループ 環境方針
環境マネジメント推進体制　環境マネジメントシステム　環境法規の遵守
環境監査　事業活動における環境影響　地域への環境配慮
環境コミュニケーション

環境マネジメントの考え方

キユーピーグループの事業は、豊かな自然の恵みに支えられています。しかし、地球温暖化、プラスチックによる海洋汚染、生物多様性の喪失など環境問題は深刻化し、企業活動にも大きな影響を及ぼしています。キユーピーグループは長年、「品質第一主義」を土台に、事業活動の環境負荷低減に取り組んでいます。

環境ビジョン

2025年から始まる11次中期経営計画を機に「キユーピーグループ 環境ビジョン2050」を策定しました。脱炭素社会の実現、循環型社会の構築、生物多様性の保全を柱に環境活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

キユーピーグループ 環境ビジョン2050

キユーピーグループ 環境方針

環境理念・行動指針からなるキユーピーグループ 環境方針は、国内外での環境保全の意識の高まりを受けて制定しました。キユーピーグループ サステナビリティ基本方針と連動し、取り組みを推進します。

キユーピーグループ 環境方針

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体の活動において環境配慮に努めます。

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境の影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応えうる環境管理体制の整備と充実を図ります。

1998年制定、2022年改訂

重点課題と目標の設定

キユーピーグループでは、地球環境への取り組みとして「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」のそれぞれの重点課題の取り組みについて指標（サステナビリティ目標）を設け、実践につなげています。

› 重点課題と推進体制

環境マネジメント推進体制

キユーピーグループでは、サステナビリティ担当役員を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。環境面では、サステナビリティに向けての重点課題の解決に向け、テーマごとに分科会・連携プロジェクトを設け、グループ全体への浸透と定着を図り、取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

キユーピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産65事業所中15事業所がISO14001認証を取得しています（2025年11月末現在）。

環境法規の遵守

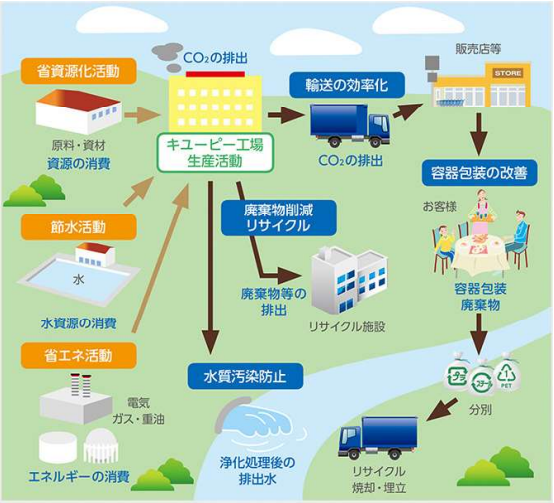
キユーピーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

環境監査

キユーピーグループは、関連法規などの遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況などについての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。この他、ISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や水、CO_2などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様が使用された商品の容器包装は廃棄物になります。
そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キユーピーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キユーピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ（2025年度）

インプット

エネルギーの使用	購買電力	1,701 千GJ（196,917 千kWh）
	燃料※1	955 千GJ
	エネルギー合計	2,671 千GJ
水の使用	水（地下水、水道水）	6,938 千m^3

アウトプット

大気への排出	CO_2	117.6 千トン
	NO_x	33.1トン
	SO_x	5.4トン
水域への排出※2	排出量	5,259 千m^3
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	34.5 千トン(95.4%)

※1 発電燃料含む
※2 河川、公共下水道含む
対象:グループ国内生産工場

> ESGデータ集

廃棄物排出量の削減

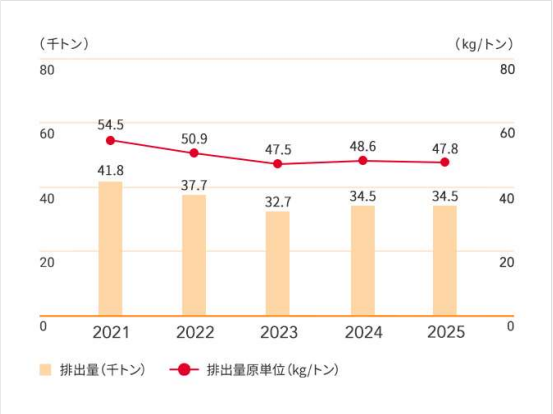
廃棄物排出量の削減目標

- 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キユーピーグループの工場から排出される主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。
製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。
また、卵殻の肥料化や野菜未利用部を含む食品残さの社内再生による再資源化(堆肥化・飼料化)や、廃棄物などとして外部に再資源化(堆肥化)を委託することで、工場で発生する廃棄物などの再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

> ESGデータ集

廃棄物排出量※



対象:キユーピーグループ生産工場
※グループ内で再資源化している副産物を除く

地域への環境配慮

キユーピーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

廃水処理設備で浄化処理後の処理水は自主管理基準を定めて水質などを管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、

地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーションなどは、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラーなどの燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導などを実施しています。

環境コミュニケーション

キユーピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

キユーピーグループecoラベル

2024年2月より、キユーピーグループ独自のecoラベルを表示しています。環境に配慮した商品であることをお客さまに分かりやすくお伝えすることを目的に容器包装に対する環境配慮基準を定め、基準を満たした商品に付与します。

キユーピーグループecoラベル付与商品一覧（416KB）

ラベル一例

デザインに込めた想い

キユーピーグループは「愛は食卓にある。」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、解決をめざしています。その取り組みの一環として、環境に配慮した商品に付与するエコラベルのデザインにも「愛は食卓にある。」の想いを込めました。

食卓に不可欠なお皿とスプーンとフォーク、そして中央にecoのロゴを添えて「環境へのやさしさ」を伝え、oの文字にはアクセントとして葉っぱをつけました。

キユーピーグループecoラベル付与基準

付与項目	ラベル付与基準
プラスチック削減	プラスチック使用量を5%以上削減（2018年を基準として）

再生プラスチック	プラスチック使用量に占める再生プラスチック材料を重量比で25%以上使用
バイオマスプラスチック	プラスチック使用量に占めるバイオマスプラスチック材料を重量比で10%以上使用

表示例

環境教育

キユーピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。
関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。
排水処理管理、廃棄物管理などの教育は定期的に実施しています。
各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
重点課題と推進体制
環境マネジメント
ステークホルダーとの対話
社外からの評価
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史

ステークホルダーとの対話

キユーピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践しています。

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段（2025年度実績）
お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしています。	・お客様相談室（お客様の声 21,554件／年） ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キユーピー マヨネーズ ファンクラブ」（会員数8,059人）
従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進しています。	・従業員意識調査（2年に1回） ・労使委員会による対話 ・役員による事業所訪問 ・キャリア自己申告（1回／年） ・上司と部下の面談を通した人材育成
お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげています。	・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会 ・生産農家・団体との取り組み
株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めています。	・定時株主総会（1回／年） ※事前にご意見をいただける工夫 ・アナリスト向け決算説明会（2回／年） ・個別投資家対話（300回／年） ・個人投資家向けオンライン説明会（延べ3,964名参加）
地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っています。	・オープンキッチン（工場見学）とマヨテラスの見学（73,468人／年） ※オンライン含む ・マヨネーズ教室（食育活動）、SDGs教室（8,854人／年） ※オンライン含む ・食をテーマにした講演会（117回／年） ※オンライン含む ・国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション

キユーピーグループ
オフィシャルブログ

グループ各社の
サステナビリティ活動

		・マッチングギフト制度「QPeace」支援先団体の活動報告会（2回／年）

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
重点課題と推進体制
環境マネジメント
ステークホルダーとの対話
社外からの評価
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史

社外からの評価

ESG関連指標　評価　認定　表彰

ESG関連指標

FTSE4Good Index

FTSE4Good Global Indexは、FTSE Russellが提供するESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した投資指標で、投資家が企業の持続可能性を評価するための基準として使用されます。
キユーピーは、2024年から組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

> FTSE4Good Index Series ウェブページ

FTSE JPX Blossom Japan Index

FTSE JPX Blossom Japan Indexは、FTSE Russellが作成した、日本企業のESG（環境・社会・ガバナンス）対応を評価するインデックスで、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用している投資指標です。キユーピーは、2024年から組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

> FTSE JPX Blossom Japan Indexウェブページ

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。キユーピーは、第三者調査の結果、2022年からFTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

> FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Indexウェブページ

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数※

MSCI（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル）社が提供するESG投資インデックスです。「MSCI日本株 IMI指数」を親指数とし、各業種からESG評価に優れた企業により構成されています。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用対象として採用されており、キユーピーは2024年より構成銘柄に選定されています。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

※ キユーピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキユーピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）※

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から性別多様性スコアの高い企業を選別しています。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用対象として採用され、キユーピーは2017年の初回から2019年までと2022年から連続して構成銘柄に選定されています。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

※ キユーピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキユーピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のパイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。
キユーピーは2020年より連続して構成銘柄に選定されています。

S&P/JPX
カーボン
エフィシェント
指数

ＳＯＭＰＯサステナビリティ・インデックス

ＳＯＭＰＯアセットマネジメント株式会社が、独自の評価に基づきESGの取り組みに優れる約300銘柄を採用し、毎年見直しを行うインデックスです。当インデックスに追随する「サステナブル運用」は、複数の年金基金・機関投資家が採用しています。キユーピーは2019年より連続して選定されています。

評価

CDP

気候変動などの環境分野に取り組む国際NGOで、世界の主要な企業・都市に対して、気候変動や水管理などにどのように取り組んでいるかについて情報開示を求め、調査・評価を行っています。
キユーピーグループは、2025年「水セキュリティ」の分野において最高評価である「Aリスト」に選定されました。また、「気候変動」および「森林」分野においては、「B」の評価を受けました。

認定

健康経営優良法人

キユーピーは、優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2026（大規模法人部門）の認定を受けました。昨年に続き、5年連続の認定となります。健康経営認定に取り組み、社内・社外への周知をする会社が増えており、2026年 月現在で15社とキユーピーグループ全体の半数を超えました。

※健康経営優良法人認定制度とは
地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。

認定状況一覧

健康経営優良法人（大規模）	キユーピー
	アヲハタ

	キユーピータマゴ
健康経営優良法人（中小規模）	ディスペンパックジャパン
	サラダクラブ
	キユーピー醸造
	三英食品販売
	ケイ・システム
	キユーピーあい
健康優良企業 金の認定	デリア食品
健康優良企業 銀の認定	つくば鶏卵加工
	キユーピーデジタルイノベーション
	トウ・キユーピー
	ケイパック
	コープ食品

食育実践優良法人2026

キユーピーは、農林水産省が推進する「食育実践優良法人顕彰制度」において、従業員への食育活動を積極的に実践している企業として「食育実践優良法人2026（大規模法人部門）」に認定されました。

※ 食育実践優良法人とは
農林水産省が従業員の健康的な食生活を支援・実践する企業を認定・顕彰する制度です。

「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キユーピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キユーポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

> 「仙川キユーポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました

プラチナくるみん認定※

キユーピーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん※の認定を受けました。

※ プラチナくるみん認定とは
2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。

えるぼし認定※

女性の活躍推進に向けた取り組みが評価され、2025年11月末時点で以下の3社が厚生労働省の「えるぼし認定」を取得しています。

- キユーピー：3段階目
- ケイ・システム：3段階目
- アヲハタ：2段階目

※ えるぼし認定とは
「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づき、一般事業主行動計画の策定・届出等を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良である等の要件を満たした事業主に対して厚生労働大臣の認定を受けることができる制度です。認定の段階は、「採用」、「継続就業」、「労働時間等の働き方」、「管理職比率」、「多様なキャリアコース」の5項目があり、基準を満たした数に応じて3段階に認定されます。

表彰

2025年	› Motivation Team Award 2025 優秀賞 キユーピー 研究開発本部 未来創造研究所の取り組み
2024年	› 食品産業新聞社主催 食品産業技術功労賞 サステナビリティ部門卵に関する取り組み › 2024日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞 100%再生PET樹脂のドレッシングボトル › 第9回介護食品・スマイルケア食コンクール 噛むことに問題がある人（咀嚼困難者）向けの食品部門 金賞　やさしい献立 やわらかごはん › 第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門 農林水産大臣賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
2023年	› SDGs・災害食大賞©2023ローリングストック部門最優秀賞 キユーピー「やさしい献立」シリーズ › 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用 › 第11回食品産業もったいない大賞農林水産省大臣官房長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用

過去の表彰 −

2022年	> 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」受賞 > 第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞「冷圧フレッシュ製法®」 日本食品工学会第23回年次大会 技術賞「冷圧フレッシュ製法®」 > 2022 日本パッケージングコンテスト　包装部門賞 食品包装部門賞「キユーピー平飼い卵 マヨネーズ」 > 2022 日本パッケージングコンテスト　包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞「レンジでチンするハッピーレシピ」 > 2022日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞「ヴェルデ　ピーナッツホイップ、チョコホイップ」 > 2022年度グッドデザイン賞「ＨＯＢＯＴＡＭＡ」シリーズ3品」
2021年	> 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰 > サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞 > サプライチェーンイノベーション大賞2021
2020年	> 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞 > 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞 > UCDAアワード2020 特別賞 > 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ

資源の有効活用・循環

キユーピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。限りある資源を大切に使い、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体において、地球環境の持続可能性に配慮した取り組みをグループ一丸となって推進していきます。

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率（2015年度比）	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）	90%以上
		商品廃棄量削減率（2015年度比）	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率（2018年度比）	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率（2020年度比）	10%以上

食品ロスの削減・有効活用

容器の改良・賞味期間の延長などでの食品ロス削減に加え、食資源の有効活用に取り組んでいます。

プラスチックの削減・再利用

品質第一主義を守りながら、容器の軽量化・薄肉化や再生材の採用

水資源の持続的利用

人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的な活用に取り組んでいます。

グループ各社の
サステナビリティ活動 ›

など商品・サービスにおける環境
負荷低減に取り組んでいます。

サステナビリティ

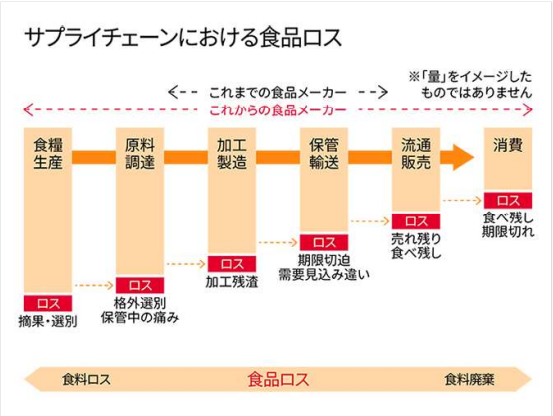
- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ

食品ロスの削減・有効活用

食品ロスの削減・有効活用の考え方　食品ロス削減への対応　有効活用の推進

食品ロスの削減・有効活用の考え方

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キユーピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。
近年、気候変動により原料となる農作物などの収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。
キユーピーグループは、サステナビリティに向けた重点課題「資源の有効活用・循環」の取り組みテーマのひとつに食品ロスの削減・有効活用を掲げ、食品残さ削減、野菜未利用部の有効活用、商品廃棄の削減に注力して取り組んでいます。



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

食品ロス削減への対応

キユーピーグループでは、サプライチェーンの各段階でさまざまな工夫を重ね、グループ内で連携し、食品ロス削減を実現していきます。

製造における食品ロス対応

キユーピーグループでは、効率的な製造ラインの配置や商品設計の工夫などで食品ロスを最小限に抑えるための取り組みを行っています。
さまざまなサラダ・惣菜を製造するデリア食品では、製造工程ごとに生産重量が適正であったかを計量・確認するシステムを導入してデータ化し、現状把握や要因分析、対策を繰り返すことで食品ロスを最小限にするよう取り組んでいます。

商品における食品ロス対応

キユーピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。

また、サラダクラブでは野菜の収穫量が増える旬の時期に増量企画を実施することで消費促進を図り、産地での食品ロス削減への支援を行っています。

対応商品一覧

開始時期	対象	内容
2025年7月	キユーピー マヨネーズ 50g、130g、200g キユーピー マヨネーズ(瓶) キユーピー マヨネーズ・トムとジェリー(瓶)	12カ月から13カ月に延長、賞味期限を年月表示
2025年7月	平飼い卵マヨネーズ	10カ月から13カ月に延長、賞味期限を年月表示
2024年12月	キユーピー マヨネーズ 450g、350g	12カ月から13カ月に延長、賞味期限を年月表示
2024年10月	サラダクラブ Select SALADシリーズ 3品	消費期限を1日延長(加工日に加え4日間)
2024年6月	サラダクラブ カットレタス リーフミックス リーフミックス ビッグパック増量企画全国(北海道・東北・沖縄県を除く)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ全品	13カ月から19カ月に延長 ただし、バジルのみ11カ月から13カ月に延長
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ増量企画(九州エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ増量企画(全国)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ シュレッドレタス増量企画(沖縄)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画(東海・北陸エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年12月	キユーピー３分クッキング 和えの素 3品	7カ月から12カ月に延長
2023年9月	キユーピー やさしい献立5品	19カ月から25カ月に延長
2023年9月	キユーピー あえるパスタソース8品	11カ月から12～19カ月に延長

2023年6月	サラダクラブ カットレタス増量企画（全国）	最盛期の産地廃棄（フードロス）削減への支援
2023年5月	GREEN KEWPIE ドレッシング2品	8カ月から10カ月に延長
2023年3月	サラダクラブ ヤングコーン	19カ月から24カ月に延長
2023年3月	キユーピー デリフィットマヨネーズ 190kg	60日から75日に延長
2023年1月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画（東海・北陸エリア）	最盛期の産地廃棄（フードロス）削減への支援
2023年1月	キユーピー 鉄分入りソフトおせんべい	6カ月から12カ月に延長
2022年9月	キユーピー あえるパスタソースシリーズ全品	「年月表示」に変更 賞味期間延長
2022年9月	キユーピー やさしい献立シリーズ31品	賞味期間を25カ月に延長
2022年6月	サラダクラブ カットレタス増量	生産体制の維持や産地廃棄（フードロス）削減への支援
2022年3月	サラダクラブ加熱用カット野菜 炒めるキャベツ	業界最長クラス 消費期限7日間を実現（加工日＋7日間）
2022年2月	キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素シリーズ	「年月表示」に変更 賞味期間を12カ月から13カ月に延長
2022年	ポテトサラダなどの惣菜	冷圧フレッシュ製法®※による日持ち延長 ※ 食品を低温・高圧処理することで、より素材本来の食感や色味を残し、味わいを維持しながら日持ちを延長できる当社独自の技術

商品廃棄の削減

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどです。各社各部門が連携するのはもちろんのこと、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

需給調整の精度アップへ向けた生産・販売・物流の連携

2015年より関係部署が集まり、隔月に1度のワーキンググループを開催しています。ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。この活動により、社内の食品ロス

削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。
現在は、この取り組みを水平展開し、社内外の連携を進めながらサプライチェーン全体での商品廃棄削減に取り組んでいます。

食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。
野菜の外葉や芯などは捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守るために成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養や機能に優れている場合もあります。
料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたキャベツの芯、レタスの外葉、ブロッコリー茎の活用レシピをご紹介しています。

キャベツの芯をかしこく使いこなす

キユーピーの一社提供番組「キユーピー３分クッキング」では、“簡単、便利、毎日の献立づくり”に役立つレシピを時代に合わせて提供しています。環境への配慮が日常的になってきたこともあり、番組でも「エコ」を取り入れていきます。
食材を無駄なく上手に活用する工夫や、省エネにつながるアイデアなど、毎日の料理に手軽に取り入れられる「エコ」なレシピをご紹介し、「エコ」に取り組むきっかけを提供していきます。

「プラスエコ」ロゴ

有効活用の推進

キユーピーグループは、ステークホルダーとの協働により、さまざまな取り組みを進め食資源の有効活用に取り組んでいます。

食品残さを活用したバイオガス発電※の取り組み

キユーピーグループでは、多品種のマヨネーズを製造する工程で、異なる商品の製造への切り替え時に、配管から排出されるマヨネーズなどの食品残さが発生します。製造過程で発生する食品残さをバイオガス発電へ活用することに成功しました。
この取り組みは、キユーピーの五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場、およびグループ会社の鳥栖キユーピー、ケイパックで行っています。

※ バイオガス発電とは、養豚農家で出る家畜の排泄物と食品残さを混合してメタン発酵後、そこで生成されたバイオガスを利用して発電する仕組み。

家畜のふん尿とマヨネーズなどの「黄金比」を見つけ出し、ようやく安定したガス量を確保へ

製品の切り替え時などに、配管などから
マヨネーズの廃棄物が出る

発酵タンク

ガスの発電機

- 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞
- 第11回「食品産業もったいない大賞」マヨネーズ残さをバイオガス発電に活用する取り組みが農林水産省大臣官房長賞を受賞
- 第45回 食品産業優良企業等表彰 環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞
- 【サステナビリティトピックス】マヨネーズで発電？「もったいない」を価値あるものへ

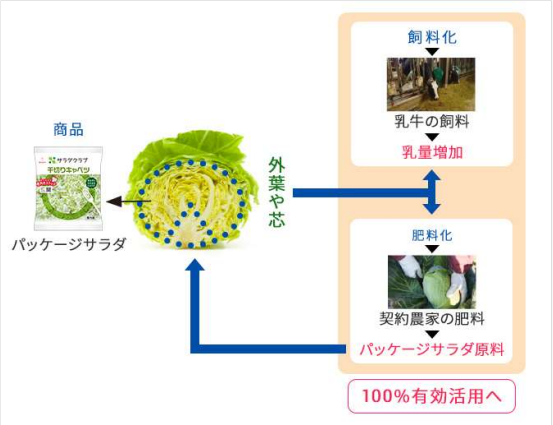
野菜未利用部の有効活用

キユーピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

葉物野菜の未利用部

2017年度、カット野菜工場のグリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキユーピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。
また、サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表



キャベツ未利用部の有効活用

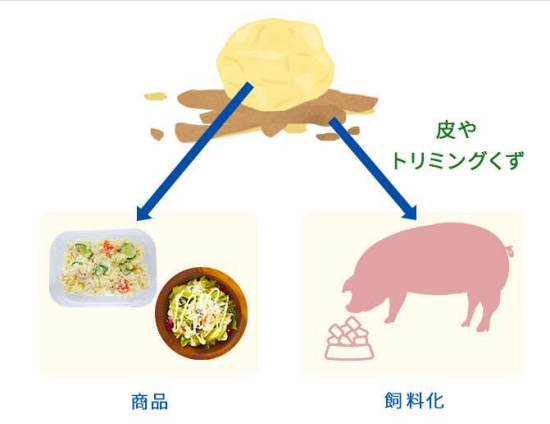
- 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キユーピーグループが内閣総理大臣賞を受賞
- 第6回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞
- サラダクラブ サステナビリティ

じゃがいもの未利用部

ポテトデリカとデリア食品 首都圏事業部では、ポテトサラダの製造工程で発生するじゃがいもの皮(ポテトピール)やトリミングくずの部分を、特殊な技術を活用して液状にして、養豚向けの飼料にしています。この技術は、養豚業界の課題である国産の安全な飼料の生産や安定流通につながり、食品残さを使った循環型社会の構築にも貢献しています。

› デリア食品 サステナビリティ

› ポテトデリカ サステナビリティ



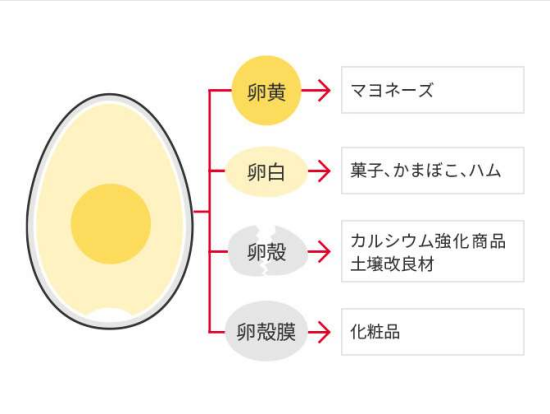
じゃがいも未利用部の有効活用

卵の有効活用

キユーピーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。
「キユーピー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの菓子の食品原料として使われます。
また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用しています。卵殻膜は、化粧品などへ高度利用をしています。卵の100%有効活用に取り組んでいます。

› 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰キユーピーグループが農林水産大臣賞を受賞

› 第7回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞



卵の有効活用

卵殻は米を強くし、ヒトの骨も強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稲への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい※ため、将来的には、キユーピーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。
また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売とあわせ学校や病院への啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※ 農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積および耕地利用率 参照

メッセージ
卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞一つ一つを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性を持つと考えられています。その生理活性の一つとして、カルシウムは高温ストレス時に籾の中へとお米を充填する重要な役割を担っています。カルシウムを多量にふくむ卵殻は、地球規模で気候変動が生じる中、稲の夏バテを防いでおいしいお米を安定的に供給する農業資材として期待できます。

東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壌肥料学研究室
教授 加藤 拓

卵殻膜の機能

キユーピー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリの素となるIII型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キユーピー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢（ようかつす）」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちます。
食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

› お酢と卵でできた葉活酢 キユーピー醸造

卵殻活用のあゆみ

1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始
1981年 卵殻の破砕・乾燥設備を導入（旧仙川工場）
1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売（膜除去技術の確立により実現）
1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
2007年 卵殻を建築材や日用雑貨（壁紙、タイヤなど）の原料として発売
2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始
2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売
2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞
2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞
2021年 「卵の有効活用」動画がサステナアワード2021にて「みどりの食料システム推進賞」を受賞
2024年 2024年 卵に関する取り組みが「食品産業新聞社主催 食品産業技術功労賞 サステナビリティ部門」を受賞

関連する取り組みを知る

野菜の研究

野菜についての研究を紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ

プラスチックの削減・再利用

プラスチック削減・再利用の考え方
キユーピーグループ プラスチック方針
容器包装設計でのプラスチック削減
製造・流通でのプラスチック削減
協働による資源循環に向けた取り組み

プラスチック削減・再利用の考え方

キユーピーグループの食品容器包装などに、プラスチックを最も多く使用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。キユーピーグループでは、プラスチックごみが生態系や環境に影響を及ぼす課題と認識し、石油由来のバージンプラスチック使用量削減、および資源循環に向けた取り組みを進めています。

› 環境省 プラスチック・スマートキャンペーンに参加

キユーピーグループ プラスチック方針

キユーピーグループでは、「キユーピーグループ プラスチック方針」を策定し、事業活動で使用するプラスチックの削減などの取り組みを加速させ、循環型社会の構築に貢献することをめざして取り組みを推進します。

キユーピーグループ プラスチック方針

3R+Renewableを実施し、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- 開発段階から環境配慮設計を行います。
- バリューチェーン全体で協力し推進します。

2019年制定、2022年改訂

今後推進していく主な取り組み

- 軽量化を主体としたプラスチック使用量のさらなる削減
- 再生プラスチック、およびバイオマスプラスチックの導入
- 分別しやすい容器包装設計
- プラスチックの回収・再生を推進する業界の取り組みに参加

マヨネーズキャップの
軽量化

再生プラスチックを
含む容器を採用

容器包装設計でのプラスチック削減

商品の容器包装は、商品の品質やおいしさを保つためには欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。
「キユーピーグループ 容器包装選定の基本方針」のもと容器包装の軽量化・簡素化やバイオマス素材、再生材などの開発を進め、環境負荷が少ない包材の採用を推進しています。

キユーピーグループ 容器包装選定の基本方針（152KB）

容器包装の軽量化・簡略化

開始時期	対象	内容
2026年1月	市販用 深煎りごまドレッシング1000ml	紙パックの採用によりプラスチック使用量約75%削減
2025年11月	キユーピー マヨネーズ700g	軽量キャップの採用によりプラスチック使用量を約17%削減
2025年9月	GREEN KEWPIE 植物生まれのごまドレッシング	小袋の紙化により1袋当たりプラスチック使用量を44%削減
2024年2月	業務用商品 ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ	容器サイズ変更によりプラスチック使用量25%削減
2023年7月	業務用商品 ニューエグスター	ボトルのプラスチック使用量を削減することで軽量化
2023年1月	業務用商品 キユーピー、ほしえぬブランド1000ml・500mlボトル容器入り商品	軽量化によりキャップのプラスチック使用量を約9%削減
2022年9月	キユーピー あえるパスタソースシリーズソースタイプ	個装サイズをスリム化し、プラスチック使用量を約7%削減
2022年8月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ	容器のラミネートチューブに使用している素材の厚みを薄くすることで、プラスチック使用量を約10.9%削減（2023年シリーズすべてに採用）

2022年3月	キユーピー ベビーおやつ 野菜入り ソフトおせんべい	外装・個包装・トレーの資材を変更し、プラスチック使用量 を35%削減。さらに材質を単一素材に変えることで、リサイクルのしやすさにも配慮
2022年2月	ヴェルデ ホイップシリーズ	容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3%削減
2022年2月	サラダクラブ パッケージフィルム	パッケージサラダに使用するフィルムの寸法の縮小化や薄肉化などの規格変更
2022年1月	サラダクラブ パッケージサラダトレー	パッケージサラダに使用するトレーを、従来品と比較して、約10%軽量化
2021年3月	キユーピー すまいるカップシリーズ、キユーピー やさしい献立	上部に付いていた外蓋をなくすことで、使用するプラスチック量を削減
2021年3月	キユーピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろ	外装、内装でのプラスチック使用量を約25%削減

環境負荷の少ない包材 −

開始時期	対象	内容
2025年8月	市販用ドレッシング類の380mlサイズ	再生プラスチックを100%使用したボトルを採用
2024年7月	市販用ドレッシング類の180mlサイズ	再生プラスチックを30%使用したボトルを採用
2024年2月	キユーピー あえるパスタソースシリーズ	外袋を紙パッケージに変更
2024年2月	キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素	外袋を紙パッケージに変更
2023年7月	キユーピー テイスティドレッシング、機能性表示食品ドレッシング	再生プラスチックを100%使用したボトルを採用（国内調味料初：キユーピー調べ）
2023年5月	ヴェルデ パキッテシリーズ	容器の一部（内容物が入っている部分）にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
2021年6月	キユーピー テイスティドレッシング	再生プラスチック※30%を含むボトルを採用 ※主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉砕、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル

		（物理的再生法）」で再生したプラスチック
2020年8月	サラダクラブ 素材パウチシリーズ	植物由来のプラスチック※を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用 （2022年シリーズすべてに採用） ※ 植物由来のプラスチック：再生可能な有機資源（サトウキビの副産物などの植物）を原料に使用したバイオマスプラスチック
2020年2月	キユーピー ドレッシング スティックタイプ	外装に再生プラスチックを約15%使用

製造・流通でのプラスチック削減

キユーピーグループでは、商品容器包装でのプラスチック削減以外にも、調達から製造、流通、消費に至るまでのバリューチェーン全体で排出されているプラスチックの削減に向けた取り組みを行っています。

商品流通容器のリサイクル

液卵用プラスチック容器

キユーピータマゴでは、液卵などの卵製品を入れるプラスチック容器をリサイクルし、リサイクルした再生品を使用する取り組み※を行っています。今まで廃棄していたプラスチック容器がリサイクルされることで、廃プラスチックの削減につながっています。

※ 2020年より開始

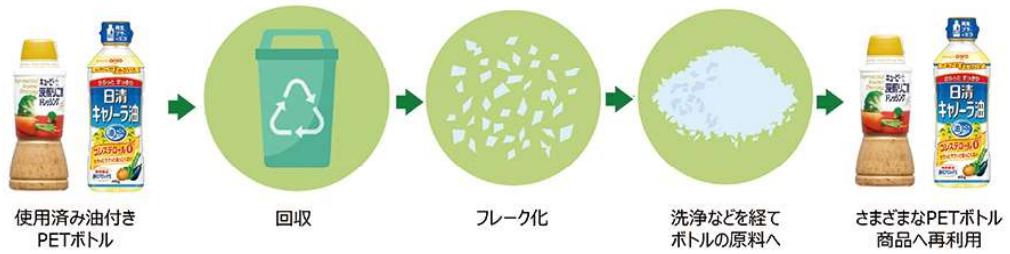
› キユーピータマゴ サステナビリティ

左：リサイクル品　右：既存品

協働による資源循環に向けた取り組み

油付きPETボトル（ドレッシングボトルなど）

キユーピーは、日清オイリオグループ株式会社とドレッシングや食用油に使用されるPETボトルの資源循環に向けて協働を開始しました。
油が付着したPETボトルは、リサイクルの洗浄工程で油が残り、再生PETの品質に影響を与えることが懸念されており、リサイクルの仕組みが社会的に実装されていません。油を使用した商品を取り扱う企業同士が協業することで油を使用した商品のPETボトルが資源循環できる社会をめざします。



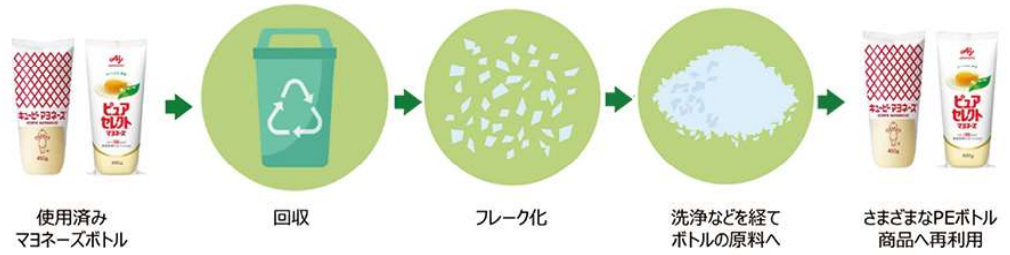
使用済み油付きPETボトル循環のイメージ

マヨネーズボトル

キユーピーは、味の素株式会社と両社が参画する海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて官民連携で取り組む、業種を越えたプラットフォーム CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）の活動として、マヨネーズボトルの資源循環に向けた協働を開始しました。
国内のマヨネーズボトルには、主にポリエチレン（PE）というプラスチック素材が使用されています。PEは食品包装に多く使用されていますが、素材の種類や他素材と複合しているものが多いことから、飲料PETボトルに代表されるような水平リサイクル※1の仕組みが社会的に実装されていません。
また、マテリアルリサイクル※2による水平リサイクルを実現するためには、マヨネーズボトルと同じ素材のプラスチックを回収し、きれいに洗浄した上で、リサイクルすることが重要になります。これらの課題に対して企業の枠を超えて協働することで、マヨネーズボトルを資源循環できる社会をめざします。

2025年度は、株式会社イトーヨーカ堂と協働し、川崎市内のイトーヨーカドー3店舗で使用済みマヨネーズボトルの回収実証実験を実施しました。

※1 水平リサイクルとは、限りある資源を有効に使用するため、使用済み商品の容器・包装を原料として循環させ、再び同じ種類の商品容器・包装を製造することです。
※2 マテリアルリサイクルとは、リサイクル手法の一つで、廃棄物をその性質を変えずに、原料として再利用する方法です。



マヨネーズボトル循環のイメージ

> CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）に参加

茨城プラリレー

茨城県鹿嶋市、リファインバース株式会社、三菱ケミカル株式会社、東洋製罐グループホールディングス株式会社、株式会社カスミ、キユーピーの6者間で、茨城県内におけるプラスチック容器の循環を目指すことを目的に、2025年2月14日に包括連携協定を締結いたしました。本取り組みは「プラリレープロジェクト」と称して、6者それぞれが強みを活かしてプラスチックをリレー形式で繋ぎ、循環を目指す実証実験プロジェクトです。

キユーピーは、本プロジェクトを通して、使用済みプラスチックの再資源化を目指し、循環型社会の構築に貢献してまいります。

鹿嶋市、リファインバース、三菱ケミカル、東洋製罐グループ、キユーピー、カスミの6者連携で、プラスチック容器の循環を目指す包括連携協定を締結（339KB）

使用済みプラスチックの再資源化

キユーピーは、持続可能な社会の実現に向けて、株式会社アールプラスジャパンに資本参加し、使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組みます。本共同出資事業への参画により、使用済みプラスチックの再資源化をさらに推進し、バリューチェーンの一員として持続可能な社会の実現に貢献していきます。

R PLUS JAPAN

› 株式会社アールプラスジャパンへの出資に関するお知らせ

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
食品ロスの削減・有効活用
プラスチックの削減・再利用
水資源の持続的利用
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

水資源の持続的利用

水資源の持続的利用の考え方　水リスク・水ストレスの評価　水資源の効率的活用　節水の取り組み

水資源の持続的利用の考え方

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。
キユーピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。
事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組みます。

水リスク・水ストレスの評価

キユーピーグループにおける水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(World Resources Institute)のAqueductを用いて水ストレス(水需要の逼迫の程度)を評価しています。
国内における洪水・高潮による浸水リスクはハザードマップ、海外における洪水・高潮による浸水リスクはAqueductを通じて評価しています。

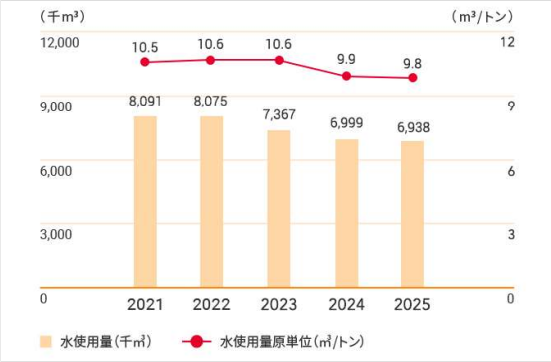
	事業所数	洪水リスク	高潮リスク	水ストレス
日本	65	25	4	0
中国	4	1	2	1
アジア	4	2	1	2
米国・欧州	4	0	0	2

ハザードマップ調べ　Aqueduct調べ

水資源の効率的活用

キユーピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。
2025年度の水使用量は、キユーピーグループ国内生産工場6,938千m³、グローバル生産工場757千m³でした。
生産量1トン当たりの水使用量（原単位）は9.8m³となりました。

› ESGデータ集



対象：グループ国内生産工場

節水の取り組み

キユーピーグループは、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

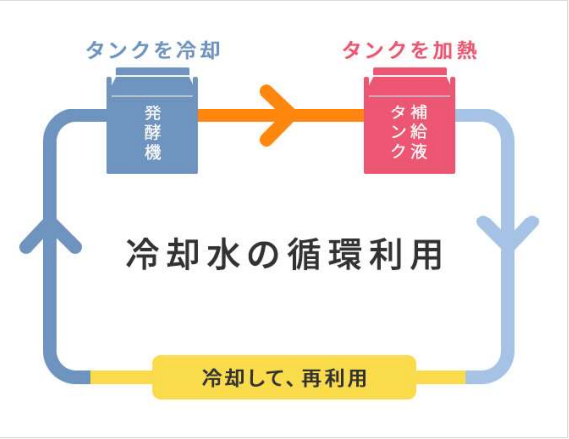
高度処理水の利用

デリア食品では、生産工程での節水活動として、水使用量の見える化やデータ化を行い、現状把握、要因分析、対策により水使用量を最小限にする取り組みを行っています。
さらに首都圏事業部では、生産ラインからの排水の再利用を行うため、膜処理（RO）技術を活用した設備を導入し、排水から平均160トン/日の純水を再生して、加工場内トイレのほかに、樹木への散水、床の洗浄、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。

逆浸透膜（RO）ろ過装置

冷却水の有効活用

キユーピー醸造では、ビネガー生産時に使用した冷却水をそのまま工場外部へ排出せずに、別途温度帯の冷却水として使用することで冷却水の使用量削減を行っています。



過剰給水の抑制

サラダクラブでは、カット野菜の洗浄などで使用する水を常時給水から必要時給水に変更し、さらに過剰給水を抑制するなど管理を徹底することで使用量の削減を行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
CO_2排出量の削減
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

気候変動への対応

気候変動に関するパリ協定が2015年に採択され、脱炭素社会の実現に向けて、企業は、より責任ある行動が求められるようになりました。
キユーピーグループでは、原料調達から、商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO_2排出削減を実現します。

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
気候変動への対応	CO_2排出量の削減	CO_2排出量削減率（2013年度比）	50%以上

CO_2排出量の削減

調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階で省エネルギーやエネルギー転換に積極的に取り組んでいます。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
  - CO_2排出量の削減
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

CO_2排出量の削減

CO_2排出量削減に向けた考え方　TCFDへの取り組み　生産における取り組み
物流における取り組み　オフィスにおける取り組み

CO_2排出量削減に向けた考え方

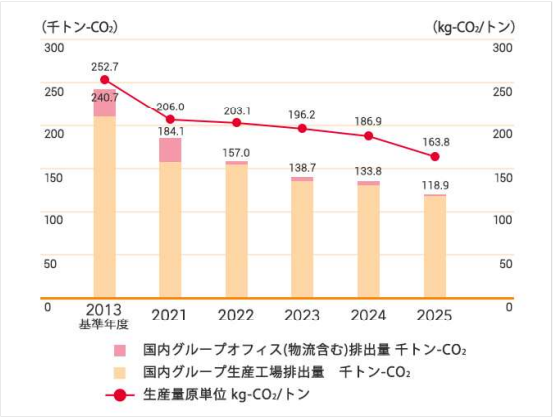
キユーピーグループでは気候変動の原因となるCO_2排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスのバリューチェーン全体において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。
キユーピーグループのサステナビリティに向けての重点課題「気候変動への対応」への取り組みとして、国内グループでCO_2排出量削減目標を設定して、気候変動への対応をさらに推進していきます。

CO_2排出量の削減

キユーピーグループは、サプライチェーン全体でのCO_2排出量の算定を進め、さらなるCO_2排出削減のため取り組みを推進しています。
グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を推進しています。

› 重点課題と推進体制

CO_2排出量



再生可能エネルギーの活用

キユーピーグループは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。
2025年度は、新たに国内事業所1拠点で太陽光パネルを設置しました。これにより国内事業所19拠点、海外事業所6拠点で再生可能エネルギーへの転換をはかり、CO_2排出量削減の取り組みを進めています。
今回、主要10事業所において電力の実質再生可能エネルギー100%への切り替えを実施したことで、CO_2削減量は約2万トンを見込んでいます。

設置状況 −

発電開始時期	拠点名

2026年 1月	鳥栖キユーピー
2026年 2月	デリア食品首都圏事業部昭島生産部（増設）
2025年 1月	サラダクラブ・ケイパック五霞工場
2024年 8月	サラダクラブ 三原工場
2023年 8月	コープ食品 東北工場
2023年 6月	キユーピータマゴ 尾張工場
2023年 5月	キユーピーマレーシア
2023年 5月	広州丘比
2023年 3月	サラダクラブ 遠州工場（第2期）
2023年 3月	キユーピータマゴ 三田工場
2023年 1月	南通丘比
2022年 8月	キタカミデリカ（オンサイトPPAモデル） （現 デリア食品 東北事業部）
2022年 3月	北京丘比
2022年 1月	キユーピー 神戸工場（オンサイトPPAモデル）
2021年12月	キユーピーベトナム
2021年 2月	キユーピータマゴ 飯能工場
2021年 2月	旬菜デリ 青梅工場 （現 デリア食品 首都圏事業部 青梅生産部）
2020年 4月	旬菜デリ 昭島工場 （現 デリア食品 首都圏事業部 昭島生産部）
2020年 2月	キユーピータイランド（第2期）
2018年 4月	キユーピータイランド（第1期）
2017年 3月	グリーンファクトリーセンター白河※（第2期）
2016年12月	キユーピー 五霞工場
2016年 2月	サラダクラブ 遠州工場（第1期）
2015年 9月	キユーピー 富士吉田工場
2015年 1月	グリーンファクトリーセンター白河※（第1期）

2014年 4月	キユーピー醸造 滋賀工場
2013年10月	仙川キユーポート
2013年 4月	ケイパック 本社工場
2012年 3月	キユーピー ファインケミカル本部五霞工場

※ 富士吉田キユーピーは、2021年事業譲渡、グリーンファクトリーセンター白河は、2023年事業撤退しました。その敷地内にキユーピーが設置した太陽光パネルは、現在もキユーピーが保有管理を継続しています。

鳥栖キユーピー㈱敷地内に設置した太陽光パネル 3か所

TCFDへの取り組み

キユーピーグループの事業は、自然の恵みに強く依存しているため、原材料の収量の減少や品質の低下など、気候変動によるさまざまな影響を受ける可能性があります。今後の気候変動に関連する事象を、経営リスクとして捉えて対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略へ生かしていきます。

キユーピーグループは、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）※1」へ賛同し、これに賛同する企業や金融機関などが連携する場としての、「GX フューチャー・コンソーシアム※2」に参画しました。
キユーピーグループ内で「TCFDプロジェクト」を発足し、2021年からTCFDに取り組んでいます。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨しています。
> TCFD

※2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関などの適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関などが取り組みを推進しています。
> GX フューチャー・コンソーシアム

TCFD分析計画

年度	対象範囲	報告書
2025年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜・惣菜（ポテトサラダ）	2025年度TCFD・TNFD報告（2.84 MB）
2024年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜・惣菜（ポテトサラダ）	2024年度TCFD報告（971KB）

2023年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜	2023年度TCFD報告（572KB）
2022年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ（液卵・加工品）	2022年度TCFD報告（497KB）
2021年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2021年度TCFD報告（566KB）

生産における取り組み

生産部門のCO_2排出削減

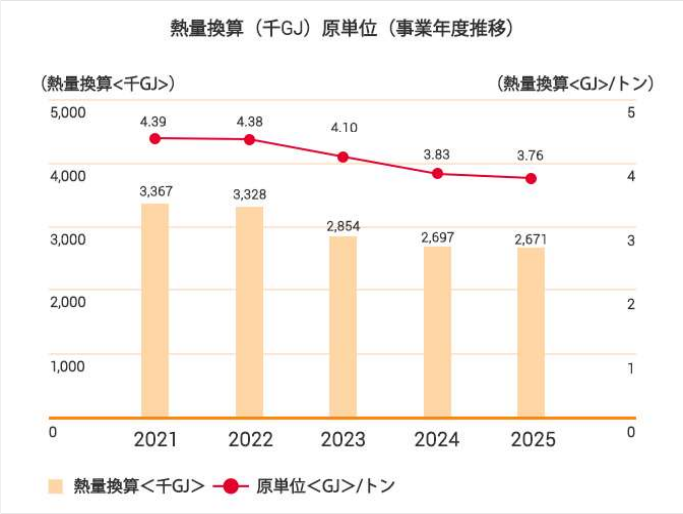
キユーピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO_2排出削減に努めています。

生産部門の省エネルギーの推進

キユーピーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見える化」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器を導入し省エネルギー化を推進しています。

生産部門の省エネルギー削減目標

エネルギー使用量　前年対比1%以上の削減



対象：キユーピーグループ国内生産工場

使用量・原単位の減少の主な原因は、調味料事業の工場再編による効率生産とタマゴ事業の事業再編による効率生産および各事業での計画的な省エネ型の設備更新によります。

自然冷媒冷凍機の活用

キユーピーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO_2削減と脱フロンを実現しています。

アンモニア冷凍機

設置状況 −

設置時期	拠点名
2024年	キユーピータマゴ 筑波工場
2023年	キユーピータマゴ 尾張工場 キユーピータマゴ 筑波工場
2021年	キユーピータマゴ 尾張工場
2020年	キユーピータマゴ 伊丹工場
2018年	キユーピー 中河原工場
2015年	キユーピータマゴ 筑波工場

物流における取り組み

キユーピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。
輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつながるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替（モーダルシフト）を推進して、CO_2排出削減を実現しています。

輸配送によるCO_2排出量

		2024年度	2025年度	前年度比
キユーピー販責商品	輸配送量（千トンキロ）	121,802	118,506	-2.7%
	CO_2排出量（千トン）	19.9	19.4	-2.6%

対象：国内のみ

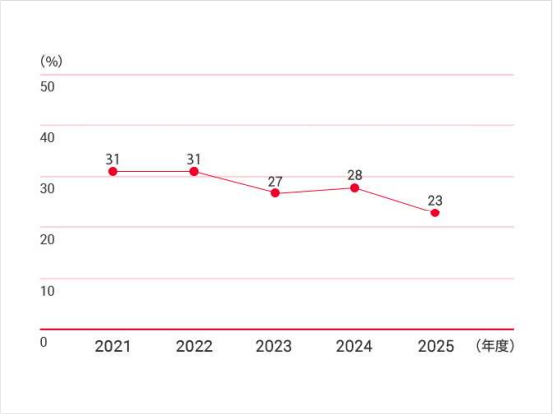
モーダルシフトの推進

専用31フィートコンテナ10基（うち冷凍コンテナ4基）を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト※1を推進しています。
キユーピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。

※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

› 国土交通省「エコレールマーク」のご案内

鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移
※ モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率

異業種での共同輸送の取り組み

キユーピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。
加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO_2削減の効果を高めています。

オフィスにおける取り組み

2022年2月より国内3カ所に設置した太陽光パネルで発電された環境価値（トラッキング付FIT非化石証書※）付きの電力を、東京電力エナジーパートナー株式会社を通して日本卸電力取引所から調達し、渋谷本社と仙川キユーポートの使用電力へと振り替え実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。

※非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書化したものです。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められています。

渋谷オフィスでの取り組み

キユーピーグループの渋谷オフィス（渋谷董友ビル）は、ビル全体を2重のガラスが覆い（ダブルスキン）、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業※に採用されています。

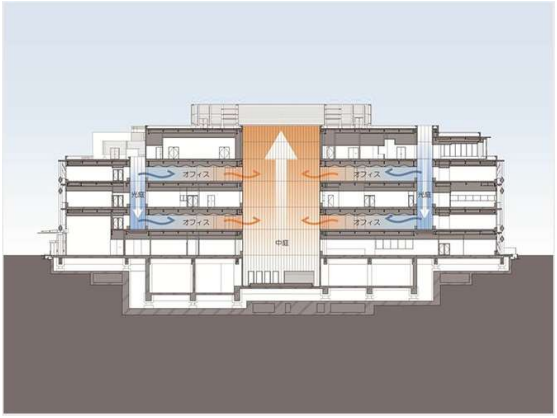
2重ガラスが覆う（ダブルスキン）外観

※グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業：環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キユーポートでの取り組み

仙川キユーポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コジェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キユーポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社との協働により、クラウドサーバー上のAIを利用して、気象予報データと空調器（冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電）の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証し、運転の自動化に向けて、さらなる取り組みを進めています。



自然換気システム

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
生物多様性の保全活動
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

生物多様性の保全

経済活動に伴い、森林伐採による生息地の破壊、環境汚染など生物多様性の損失が急速に進行し危機的状況にあります。
キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っているため、生物多様性の損失は重大な課題であると認識しています。
「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、生物多様性の負の影響を最小限に抑え、環境保全と生態系の回復・再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
生物多様性の保全	生物多様性の保全	持続可能な紙の調達率2025年度までに100%（容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品）	

生物多様性の保全活動

原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努めています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
  - 生物多様性の保全活動
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

生物多様性の保全活動

生物多様性保全の考え方
キユーピーグループ 生物多様性方針
TNFDへの取り組み
調達における生物多様性保全への配慮
キユーピーグループの環境保全活動

生物多様性保全の考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

› 経団連生物多様性宣言イニシアチブに参画

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループは原材料を生み出す豊かな自然に感謝し、生物多様性の保全と生態系の回復、再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。

1. 生物多様性への依存と影響をバリューチェーン全体で把握します。
2. 把握した依存と影響を経営判断に生かし、情報の開示に努めます。
3. 生物多様性への負の影響を最小限に抑え、同時に生態系を回復、再生する活動を積極的に行います。
4. ステークホルダーの皆様との対話と協働により、バリューチェーン全体で生物多様性保全の取り組みを推進します。

2022年11月制定

TNFDへの取り組み

キユーピーグループの事業活動は、原料を生み出す自然の恵みに強く依存しています。そのため自然環境に与える影響を把握すると同時に、生物多様性・水資源・気候変動などの深く関連する課題を包括的に対応していくことが重要であると考えています。

キユーピーグループは、2024年4月に「TNFD（自然関連財務情報タスクフォース）[※1]」に賛同し、TNFDフォーラム[※2]へ参画しました。
さらに、課題に対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略にも生かしていくためのプロジェクトを発足しました。
TNFDフレームワークのLEAPアプローチ[※3]を活用して、キユーピーグループの主要な原料と直接操業（生産拠点）を対象に分析を行っていきます。

※1 TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に続く枠組みとして設立され、自然資本と生物多様性に関するリスクや機会を評価するタスクフォースです。金融機関や企業に情報開示を促し、資金の流れをネイチャーポジティブに転換することをめざし、自然関連リスクに関する情報開示フレームワークの構築を推進しています。
> TNFD

※2 賛同企業が自然資本に関してリスク管理と開示の枠組を構築するために設立された国際組織です。
> TNFDフォーラム

※3 事業が行われる地域やバイオーム（生物群系）に着目しながら、自然関連のリスクと機会を管理するための統合的な評価プロセスのことです。「LEAP」とは、Locate（発見）、Evaluate（診断）、Assess（評価）、Prepare（準備）の4つのフェーズから成り立ちます。

TNFD分析計画

年度	対象範囲	報告書
2025年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2025年度TCFD・TNFD報告（2.84 MB）
2024年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2024年度TNFD報告（2.24MB）

調達における生物多様性保全への配慮

「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

> 持続可能な調達の推進

紙

キユーピーグループは紙調達に関して、環境問題と人権などの社会問題に配慮した調達を行います。2023年12月にキユーピーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定し取り組みを推進しています。

キユーピーグループ 紙調達ガイドライン（217KB）

> サステナビリティ目標

パーム油

2018年にRSPO[※]へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。
※RSPO：持続可能なパーム油のための円卓会議

> ESGデータ集

キユーピーグループの環境保全活動

「生物多様性保全の考え方」のもと、キユーピーグループでは、富士北麓にある森林「キユーピーの森」での植林活動や霧多布湿原における保全活動など、長年にわたり環境保全活動を行ってきました。
キユーピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代につなげるため、キユーピーグループならではの活動を推進していきます。

SHIBUYA Urban Farming Project

キユーピーは一般社団法人渋谷未来デザインとともに、都市の緑地化と生物多様性を促進しながら、渋谷らしいコミュニティ形成と新たな食文化を実現する「SHIBUYA Urban Farming Project」を2024年6月に設立しました。
アーバンファーミングを軸としたコンソーシアムとなっていて、キユーピーグループの強みを生かしながら、参画企業と共にネイチャーポジティブに向けた取り組みを推進していきます。

> SHIBUYA Urban Farming Projectウェブサイト

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史

食と健康への貢献

キユーピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。この想いのもと、「食と健康への貢献」を重点課題として掲げ、健康寿命延伸への貢献と子どもの心と体の健康支援に積極的に取り組んでいます。

グループの強みであるサラダとタマゴを中心に、国内外のお客様に寄り添った商品やサービスを提供し、健康な食生活を支援することで、一人ひとりのウェルビーイングに貢献します。

さらに、より良い社会の実現のため、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動にも取り組んでいます。

› 食と健康への貢献

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	お客様の健康な食生活に貢献するため、サラダの喫食機会向上、タマゴの付加価値化を中心に取り組みを推進	
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数（2019年度からの累計）	100万人以上

健康寿命延伸への貢献

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。

子どもの心と体の健康支援

食を中心としたさまざまな活動により未来を創る子どもたちに栄養面だけでなく食の大切さ楽しさを伝えています。

ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。

キユーピーグループ
オフィシャルブログ

グループ各社の
サステナビリティ活動

社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた継続的な地域貢献活動の実施や、歌やダンスなどの文化を通じた活動を応援しています。

キユーピー 食生活アカデミー

キユーピーでは、おいしいごはんのレシピやお料理の楽しさ、環境や未来につながる食生活など、食とそれにまつわる生活について、読み物やレシピ、クイズで楽しく学べるサイトをご用意しています。

キユーピー 食生活アカデミー

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史

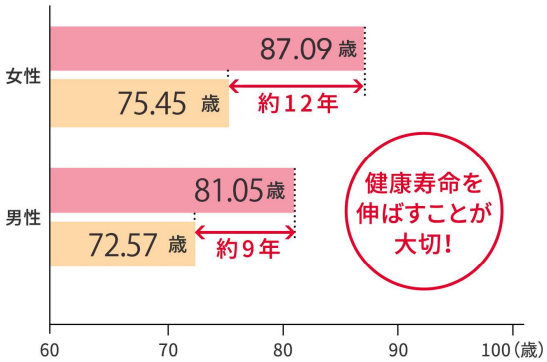
健康寿命延伸への貢献

健康寿命延伸の考え方　サラダの喫食数向上の取り組み　タマゴの付加価値化
健康寿命延伸に向けた協働・研究　健康を支える食生活サポート
ウェルネス領域への挑戦

健康寿命延伸の考え方

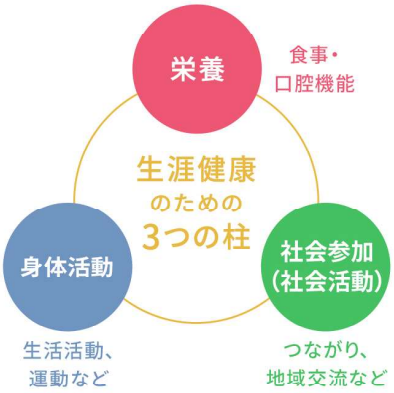
健康寿命延伸とは、健康上の問題で日常生活に制限のない期間を指します。
生涯健康でいきいきとした生活を送るためには、「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの柱を意識してバランスよく取り入れることが大切です。
これらは全世代に共通する重要なポイントです。日々の生活サイクルにこれらを複数組み込むことが、健康な生活の実現につながります。
近年、食と健康に関する課題は多様化しており、日本では健康寿命の延伸が重要課題となっています。メタボリックシンドローム予防、フレイル対策、認知症リスク低減、免疫強化など、生涯健康でいるための取り組みが注目を集めています。
キユーピーグループは、ライフステージに合わせ長期的に一人ひとりの健康を支える食生活をサポートし、人々の生活の質を向上させる取り組みを推進することで、健康寿命の延伸に貢献していきます。

平均寿命と健康寿命のギャップ



平均寿命
健康寿命（介護を必要とせず、自立して過ごせる期間）
第４回 健康日本21（第三次）推進専門委員会資料より
（データは2022年）

キユーピーグループはサラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援します



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱

キユーピーグループが取り組む健康課題

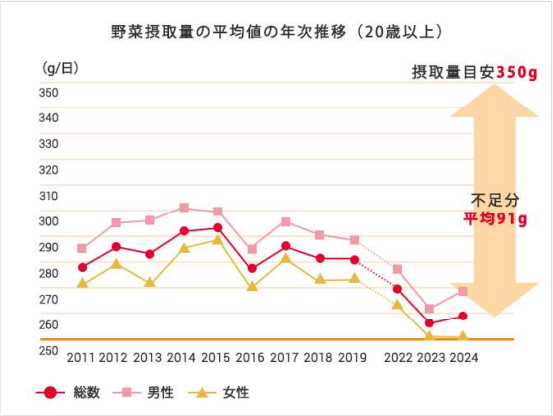
- メタボ
- フレイル ＋ 免疫
- 認知症

サラダの喫食数向上の取り組み

サラダファースト

キユーピーグループは、食卓にサラダがある豊かな生活を提案する「サラダファースト」を推進しています。

私たちはマヨネーズ・ドレッシングを通じ、野菜を多彩な料理へと変えてお届けしてきました。これからも世界各国の食文化に合わせ、野菜を「おいしく、楽しく」食べる提案を続けることで、健康的な食文化を創りあげていきます。
現在、日本の野菜摂取量は目標の350gに対して不足しており、健康への課題となっています。この課題に向け、サラダに関わるグループ内のあらゆる機能と事業を結集し、野菜摂取につながるようサラダの世界を広げていきます。
これによりサラダの喫食機会を増やし、2028年度までに国内のサラダ喫食数105%以上（2024年度比）をめざすとともに、世界中でサラダがあふれる日常を創造していきます。



出典：国民健康・栄養調査（2020年・2021年は中止）

サラダファーストとは「サラダの魅力を発信し続け世界の食と健康に貢献していく」グループ全体の取り組みです。
キユーピーグループでは、だれよりもサラダのことを大切に考え、サラダの価値を引き出し、おいしいサラダをお届けしたい。
その想いを込めて、「サラダファースト」というキャッチフレーズを掲げ、サラダの魅力を伝える取り組みを強化しています。

with ベジタブル

戦略テーマを「with ベジタブル」と設定し、献立に自然と野菜を取り入れるメニューをあらゆる場面で提案していきます。
サラダは、多様な素材との組み合わせで「野菜の価値を最大化」できる最良の食事です。素材本来のおいしさや栄養を活かしきれるサラダだからこそ、変化する生活者の食と健康に最も柔軟に応えることができます。キユーピーグループが培ってきた素材の持ち味を引き出し、おいしさをまとめ上げる設計力と、内食・中食・外食のあらゆる食シーンを支える提案力は、一皿の満足度を高め、野菜摂取を無理なく習慣化させます。

サラダ白書

「サラダ白書」は、サラダの食文化の把握を目的とした年次調査です。2010年より実施しており、毎年野菜の日（8月31日）に合わせて発表しています。2025年度は「野菜・サラダの喫食実態」、「パッケージサラダ」に関する意識に加え、天候不順などから不安が広がる「キャベツ・レタスの価格高騰に関する意識」も調査しました。これら調査結果をもとに、より皆様のニーズに合った商品やご提案につなげていきます。

> サラダ白書2025

サラダに関する研究成果

未来に向けて、野菜やサラダを楽しみ続けていただくために、私たちは、サラダ・野菜の価値を科学的に証明し、社会に役立てる研究に取り組んでいます。地域による食文化の違いや、最新の情緒的価値の研究など、多方面からのアプローチを通じて、一人ひとりに寄り添った新しいサラダのあり方を創造していきます。

研究トピックス

> ポテトサラダが食後の血糖値上昇を抑制する効果の検討

> 親子で料理をする経験が子どもの心の成長に貢献する

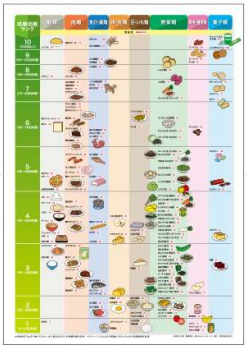
> ピーマンの苦味研究で野菜を好きな子どもたちを増やす

> ポテトサラダに見る、地域毎の食の嗜好性との関連性

> サラダがもたらす情緒的な価値を探る研究が始動

噛むことの大切さを啓発

サラダは噛み応えのある食材である野菜をたくさん摂れるレシピです。食物繊維量が多いほど、よく噛むことが分かっています。
生涯にわたり食事を楽しむためには、噛む力がとても大切です。しかし、「噛む」という動作は、半ば無意識的に行われる運動であり、噛まない習慣が身についてしまっている方にとっては意識して改善していくのは困難です。キユーピーでは“噛むことの大切さ”の啓発を目的に株式会社ロッテと和洋女子大学とで共同研究に取り組んでいます。2022年には、これまで共同で行ってきた食品ごとの噛む回数に関する研究成果をまとめ、ランク付けした「咀嚼回数ランク表」を公開しました。



咀嚼回数ランク表

> よく噛むことを心がけよう！

> 食品の咀嚼回数や咀嚼効果の研究による健康貢献

健康に配慮した商品

キユーピーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

特定保健用食品

機能性表示食品

低カロリー・減塩対応食品

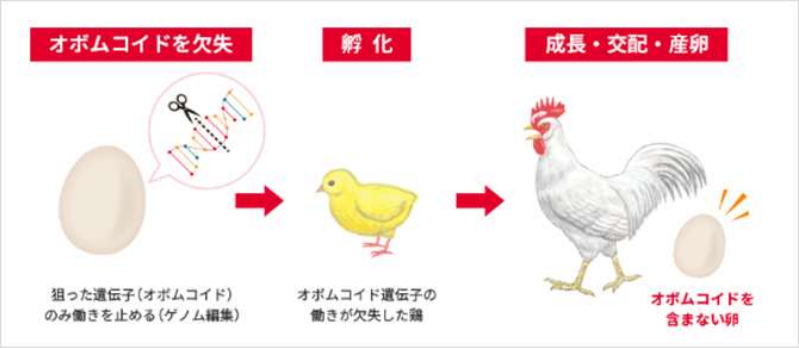
タマゴの付加価値化

創業以来、卵の無限の可能性を追求し続けてきました。単なる食材としてだけでなく、卵黄、卵白、殻、卵殻膜など、卵のあらゆる部分に秘められた価値ある機能を発見し、革新的な商品開発につなげています。
卵の可能性を最大限に引き出す研究開発と活用を通じて、お客様の健康で豊かな生活に貢献していきます。これからも、卵の新たな価値を創造し続け、食品業界のイノベーションをリードしていきます。

卵アレルギー研究

アレルギー低減卵の研究

キユーピーは、卵アレルギーで苦しむ人を「ゼロ」にしたいという思いで、国立大学法人広島大学と共に、2013年からアレルギー低減卵※の共同研究を進めてきました。アレルギー低減卵は、ゲノム編集技術により鶏卵のオボムコイドを狙って働きを止め、その後孵化した鶏が成長し、交配・産卵することにより作出されます。
2022年度から、国のプログラム「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT本格型）」に参加し、これまで一緒に取り組んできた広島大学に加え、パートナー企業など新たな仲間とともに応用研究をさらに進めています。
食の選択肢を広げることで、卵アレルギーの方にも卵のおいしさや健康価値をお届けしたいという想いのもと挑戦を続けていきます。



オボムコイドを含まない鶏卵の作出方法

※ 鶏卵中に含まれる熱や消化酵素に強いたんぱく質を除去することで、アレルギーを低減できる鶏卵のこと。

> PRTIMES STORY「研究者ディスカッション：アレルギー低減卵の可能性と今後の課題」

> アレルギー低減卵でおいしさと低アレルゲン性を両立した菓子メニューの可能性を確認

> アレルギー低減卵の臨床的安全性の検証研究が日本医療研究開発機構（AMED）事業に採択

> 相模原病院・広島大学・キユーピーの共同研究 アレルギー低減卵の臨床試験について経過報告 実施した17症例全てで「アレルギー反応陰性」を確認

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされていましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効※」であることがわかってきました。キユーピーグループは、加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。

加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵素材

※ 2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6ヵ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

卵の機能性成分の研究

卵に含まれる、脳の健康に重要な栄養素である「コリン」。このコリンを研究する社外の専門家と連携して、農林水産省が管轄する「知」の集積と活用の場に研究開発プラットフォームを登録し、様々な観点から研究開発を推進しています。
世界では食事摂取基準で摂取目安量が設定されている国も多い栄養素ですが、日本ではまだあまり知られていません。社外の専門家との研究開発プラットフォームでは、コリンの分析法を公定法化し、日本版のコリンのデータベース作成（どのような食材にどのくらいのコリンが含まれているのかを示すデータベース）、日本人のコリン摂取量の把握をめざしています。
コリンの有用性を国内、海外で認知啓発し、卵の高付加価値化をめざして活動を進めています。

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キユーピーは、卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料（業務用）を学校給食向けに発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月に「キユーピー エッグケア（卵不使用）」を市販向けに発売しました。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。

たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。
「タマゴのリーディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語れる従業員を増やすことが目的です。
三ツ星タマリエ検定取得（日本卵業協会）に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。
全国1,172人（2025年度）の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っていきます。

たまごスター認定証

たまご白書

「たまご白書」は、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告で2017年より実施しています。卵について魅力を感じることや好きな卵料理などのアンケートから、卵の正しい知識の啓発や、卵料理の楽しみ方の提案へと生かしていきます。

> 「たまご白書2025」を公表

健康寿命延伸に向けた協働・研究

フレイル予防の取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）との共同研究

東京大学IOGと連携し、高齢者において、野菜・卵の摂取と食生活および身体機能への関連性について共同研究を行っています。

東京大学高齢社会総合研究機構

日本フレイル予防サービス振興会の設立

キユーピーグループは、誰もがいつまでも心身ともに健康でいられる社会をめざし、フレイル予防の社会実装を推進しています。
産官学が連携した「フレイル予防推進会議」に当初より参画し、普及啓発に向けた議論を重ねてきました。その中で、持続可能な予防サービスを全国へ普及させるため、2025年5月に有志企業と共に「一般社団法人日本フレイル予防サービス振興会」を設立しました。栄養の知見を基軸に、小売り企業や他の食品企業と協力して普及活動に取り組み、フレイル予防が社会インフラとして定着する未来を創造していきます。

> フレイル予防について

> 日本フレイル予防サービス振興会

日本フレイル予防サービス振興会

フレイル予防イベント

運動と食の両面から健康を応援

生涯健康でいるために、「栄養」「身体活動」「社会参加」の３つの要素が大切という想いを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。
子どもから高齢者まで健康に過ごしていただくため、セントラルスポーツの食育イベントやホームページなどを通して、栄養と運動の大切さを発信しています。

> セントラルスポーツ 運動と食サイト

> 運動と食の相乗効果！Qummyの推しサラダ総選挙企画

共同プロジェクトで健康な食生活に役立つ情報を発信

「健康な食生活に貢献したい」という想いを共有する株式会社ABC Cooking Studioと共同プロジェクト「サラダとタマゴの食と健康キッチン」を立ち上げました。野菜不足やたんぱく質不足、塩分の過剰摂取など、食生活の課題に対して、両社の強みや特徴をいかしたWEBコンテンツや、1dayレッスンなどを通じて「サラダとタマゴ」にまつわる健康な食生活に役立つ情報を発信しています。

> ABC Cooking Studio ホームページ

農林水産省「大人の食育プラットフォーム」への参画

キユーピーグループは、農林水産省が2025年6月に創設した「官民連携食育プラットフォーム」に発起人企業として参画し、「朝食を食べようプロジェクト」を推進しています。
2025年度は、農林水産省主催の食育展示会でのセミナー開催や、社内の朝食企画を実施し、社内外に向け朝食摂取機会の推進や朝食の大切さを伝えています。

官民連携
食育プラットフォーム
食べる、生きる、楽しむ。ニッポンの食育。

> 「大人の食育」推進に向けた新たな挑戦 官民連携食育プラットフォームに参画

健康を支える食生活サポート

食をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。
健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。
プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで見たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。
参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

開催中の講演会プログラム >

介護に関するイベント

キユーピーは1998年に日本で初めて市販用介護食を発売しました。日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。
高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。

中国での健康寿命延伸の取り組み

中国各地で健康普及活動を継続して実施しています。また、中国で野菜の日として設定されている3月21日には、学会や他企業と協力して、広州工場にて野菜摂取量増による健康寿命延伸の啓発活動を開催しました。

ウエルネス領域への挑戦

グループの独自素材を活かした開発

マヨネーズの原料となる卵に加え、お酢をつくりだす酢酸菌においても、長年研究を続けてきました。卵に含まれるコリンは認知機能維持への効果が期待されており、酢酸菌には、花粉症や飲酒時の体調改善、免疫バランスの調整、風邪症状の軽減効果が確認されています。これらを始めとするグループ独自素材に関する長年の研究成果を基盤として、メタボリックシンドローム、フレイル、認知症、免疫の4つの健康課題に対応する商品・サービスを拡充していきます。
さらに、DtoCや越境ECなどの新しい販売方法を活用して、より多くのお客様に当社の健康に役立つ商品をお届けします。
また、医療機器開発やライセンスビジネスなど食品以外の分野にも挑戦し、お客さまの健康促進と生活の質(Quality of Life)の向上に貢献していきます。

> 卵黄コリン
> 酢酸菌

酢酸菌GK-1

キユーピーグループでは、独自の製法でにごり酢をつくっており、その原料となる 独自素材「酢酸菌GK-1」の機能に着目し、新たな価値創造につなげる研究を進めています。
これまでの研究により、酢酸菌GK-1は、花粉、ホコリ、ハウスダストによる鼻の不快感を軽減させることを、ヒト臨床試験で確認しています。また、酢酸菌GK-1が唾液中の分泌型IgA量を増加させ、風邪に見られる諸症状を減少させることを確認しました。これらの結果から、酢酸菌のアレルギー症状に対する効果との関連が示唆されました。今後もさらなる研究を進め、商品への活用や原料提供というかたちで社外とも取り組みを進めていく予定です。

> 酢酸菌のヒト臨床試験で「分泌型免疫グロブリンA抗体の増加」と「風邪に見られる諸症状の減少」を確認

未病(がん予防)への取り組み

キユーピーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2019年には将来の発がんリスクを判定する研究を横浜国立大学、東京医科大学と共同で始めています。血液中に存在するマイクロRNAという成分を測定することで、将来の発がんリスクを判定し、マイクロRNAの発現量を改善する食提案で疾病予防の実現をめざしています。
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が運営する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」のプロジェクト(2020-2024)が終了し、現在、事業化に向けて更なる研究を進めています。

› 疾病を発症前に予防する

医療への取り組み

キユーピー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

キユーピーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1（2024年富士経済調べ）となっています。

キユーピーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。

キユーピーのヒアルロン酸は、医療用点眼剤や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管（胃・食道・大腸など）の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キユーピーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

› 検査食

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
健康寿命延伸への貢献
子どもの心と体の健康支援
ユニバーサルデザインへの取り組み
社会貢献活動
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史

子どもの心と体の健康支援

子どもの心と体の健康支援の考え方
食育活動
フードバンク活動の支援
食を通じた「子どもの貧困対策」への支援
ベルマーク運動
WFP「レッドカップキャンペーン」

子どもの心と体の健康支援の考え方

「食」には体をつくる、体の調子を整えるなど、栄養面だけではなく、健全な心を育む力があります。さまざまな活動を通じて食べることの大切さや楽しさを伝えることで子どもたちの生きる力、考える力を支援していきます。

食育活動

キユーピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。
その他、食に関する情報を提供しています。ホームページでも新たに「食生活アカデミー」などの食育コンテンツを設けたり、健康な心と体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。

› 活動内容

食育活動 ›
海外における食育活動 ›

オープンキッチン

キユーピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。
オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。現在も、地域の産業を学ぶ場として、多くの見学者を受け入れています。

キユーピーグループ
オフィシャルブログ ›

グループ各社の
サステナビリティ活動 ›

› 詳しくはこちら

食育コンテンツ

キユーピー公式サイトにて、さまざまな食育コンテンツを開設しています。
子どもたちが主体的に学べたり、一緒に楽しめるコンテンツとして、役立つ情報を随時追加し、内容も充実させていきます。

› 食生活アカデミー

› 子どもと野菜をたのしもう

› みんなの食と健康応援

野菜料理をつくる経験は子どもの心理的発達によい影響があります！

親子で一緒に野菜料理をつくることはお子さんの「こころの健康や成長」にとって非常に重要だということが発達心理学領域の研究からわかりました。
月に1回以上の野菜料理の共同調理経験があるお子さんは、野菜料理以外の共同調理経験のみあるお子さんや共同調理経験がないお子さんと比較して、自己統制力、主張力、協調性、自己肯定感、論理的・集中的態度、好奇心の全6項目の心理的発達項目において、スコアが有意に高いことがわかりました。
「野菜」とひとくちに言っても、その種類は非常に多く、色・形・香りなどもさまざまです。
また、野菜を使った料理も多岐にわたり、健康な食生活という観点からも食卓への出現頻度が非常に高いのが特徴です。これらの特徴が、子どもの心理的発達に野菜料理の共同調理経験が好影響を与える要因である、と推察できます。

› 詳しくはこちら

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約464万トン（2023年度推計値：農林水産省）あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キユーピーは、2007年よりフードバンク活動[※1]を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」の支援を始め、今では全国のフードバンク10団体と、提携を結んだ3つの社会福祉協議会を通じて商品を寄贈しています。この活動は、グループ各社にも広がっています。
また、2020年よりキユーピーみらいたまご財団を通じて、全国食支援活動協力会の立ち上げたMOWLS[※2]への商品寄贈を実施しています。

※1 フードバンク活動：食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動
※2 MOWLS：一般社団法人全国食支援活動協力会が運営する全国のこども食堂などの「居場所」に集う子どもから高齢者などすべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キユーピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キユーピーみらいたまご財団※」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

※ キユーピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。

公益財団法人 キユーピーみらいたまご財団

子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくりと食育に取り組む団体への寄付を中心に、助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しています。

2017年～2025年助成団体数：1,078団体
2017年～2025年セミナー開催数：17回

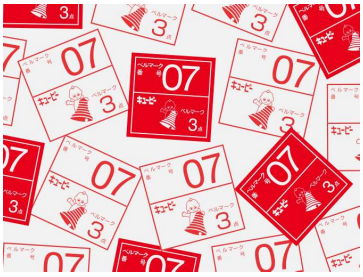
キユーピー みらいたまご 財団

› 公益財団法人 キユーピーみらいたまご財団

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キユーピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。



ベルマークとキユーピー商品

ベルマークはキユーピーのマヨネーズとドレッシングについています。

ベルマークがついている商品

財団法人 ベルマーク教育助成財団

WFP「レッドカップキャンペーン」

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。
キユーピーベビーフード「レンジでチンするハッピーレシピ」は、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。

レッドカップキャンペーン

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
健康寿命延伸への貢献
子どもの心と体の健康支援
ユニバーサルデザインへの取り組み
社会貢献活動
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史

ユニバーサルデザインへの取り組み

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方
ユニバーサルデザインを取り入れた例
ユニバーサルデザインフード

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キユーピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。
キユーピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。

キユーピーグループ ユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

キユーピーグループ
オフィシャルブログ

グループ各社の
サステナビリティ活動

細口や星型のダブルキャップ

キユーピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。料理の仕上げのデコレーションには細口で、たっぷりとかけたいときは星型で。料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に施されています。

軽く持ちやすい容器

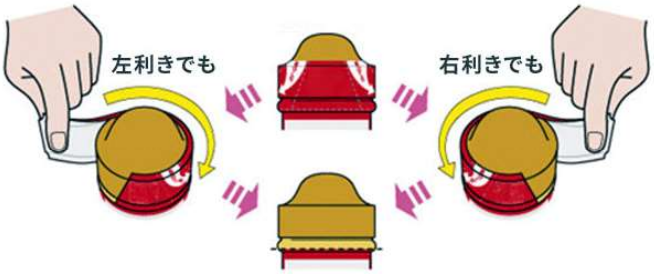
より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

キユーピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「持ちやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの容器を採用しています。

キャップシール

左右どちらでも開けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク（フィルム）は、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封することができます。さらに、シュリンクに上から下までのミシン目も追加し、分別の際のはがしやすさに配慮しています。



多面体デザイン

瓶の上部を多面体にすることで、握りやすさと開けやすさを実現しました。

パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキユーピーのグループ会社であるディスペンパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されています。

分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」

点字表示

「アヲハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。

大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。

ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キユーピーはさまざまな商品を開発してきました。いつまでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人の噛む力、飲み込む力に合わせて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品があります。

ユニバーサルデザインフード（UDF）とは

ユニバーサルデザインフード（UDF）は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟97社：2026年3月現在)は消費者がより分かりやすいように噛む力・飲み込む力に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。

ユニバーサルデザインフード

ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい

噛む力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 （ごはんの調理例）	ごはん ～やわらかごはん 	やわらかごはん ～全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ
かたさの目安 （たまごの調理例）	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し（具なし）

› 日本介護食品協議会ホームページ

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史

社会貢献活動

社会貢献活動の考え方　マッチングギフト制度　地域との連携　その他の社会貢献活動

社会貢献活動の考え方

キユーピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現をめざした貢献をしていきたいと考えています。
そのために、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、地域社会とのより良い共生をめざして社会貢献活動に取り組んでいます。特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、さまざまな地域の発展につながる活動を行っています。

マッチングギフト制度（ＱＰｅａｃｅ）

キユーピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「ＱＰｅａｃｅ(キユーピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2024年度は、グループ26社が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする10の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。

ＱＰｅａｃｅの流れ

1. 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2. 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、ＱＰｅａｃｅに積立
3. 会社は従業員の積立金と同額を支援
4. 各社会・環境活動団体へ寄付

2026年ＱＰｅａｃｅ支援団体（439KB）

地域との連携

キユーピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいきます。

自治体との連携協定（一例）

締結年月	連携自治体名	協定内容
2026年 3月	岡山県岡山市	岡山市民の野菜摂取向上及び健康づくりの推進
2024年12月	大阪府	大阪府民の健康づくり等の推進
2023年 9月	愛知県西尾市	地産地消などの取り組みを通じた健康増進や地域の活性化の推進
2023年 4月	茨城県土浦市	土浦市れんこんサラダ化プロジェクト推進
2021年 3月	東京都府中市	2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた協働に関する地域協定
2019年 2月	山形県	地域の活性化と市民の生活の質の向上を目的とした地域創生の推進
2018年 3月	広島県広島市	地域の活性化と市民の生活の質の向上を目的とした地域創生の推進
2016年12月	東京都渋谷区	地域社会の課題解決を目的とし、新たな取り組みの推進
2015年 3月	兵庫県神戸市	津波緊急待避所としての利用に関する協定書

自治体と連動したサラダファーストの取り組み事例

キユーピーグループは、野菜を自然と取っていただく「withベジタブル」の考えのもと、地産地消やエコレシピ、健康に関わる提案を、様々な形で地域と一緒にサラダを提案しています。

北海道旭川市

東京都品川区

旭川産さつまいもを使ったサラダの取り組み

› 旭川産さつまいもPR企画

しあわせ多彩区をめざすしながわボウルの取り組み

› しながわボウルの取り組み

静岡県

魚メニュー拡大と野菜摂取不足解決に向けた
「やさかな」プロジェクト

›「やさかな」プロジェクト

大阪府

健康に配慮したサラダの取り組み

› 府民の健康づくりをめざす取り組み

広島県

広島県産小松菜を使ったひろしまサラダ

›「ひろしまサラダ」の取り組み

福岡県宗像市

野菜の未利用部を使用したエコサラダの取り組み

› エコサラダレシピコンテスト

清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キユーピーグループ　オフィシャルブログ」でも紹介しています。

› キユーピーグループ オフィシャルブログ

アヲハタ アダプト活動

アヲハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動※への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アヲハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年4回清掃活動などを行っておりその道路には「アヲハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。

従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動を続けていきます。

※アダプトとは英語で「〇〇を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみたて、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。

海外における地域貢献活動

キユーピータイランド（KEWPIE（THAILAND）CO., LTD.）では、「地域医療」「教育」「サステナビリティ」「地域社会」の4つのテーマに沿った貢献活動を実施しています。

主な取り組み

- 病院を支援するプロジェクトへの寄付
- 大学のプロジェクトや奨学金などの支援活動を拡大

なお、これらの活動の一部が認められ、以下の外部評価を受けています。

CSR AWARD 2025

タイ社会保障省（MSDHS）より、社会福祉および持続可能な社会づくりへの貢献が認められ、優秀CSR組織として表彰されました。

LESS（低排出支援制度）認定

継続的な植樹活動を通じ、温室効果ガス削減・吸収に貢献したとして、認定証を授与されました。

その他の社会貢献活動

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キユーピーは、「全日本おかあさんコーラス大会（全日本合唱連盟・朝日新聞社主催）」と「全沖縄おかあさんコーラス大会（全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催）」に協賛しています。
これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。
ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。

全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ700団体が参加する大規模な催しになっています。その中から選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

公式ホームページ

全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井歓全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。
第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール（東京）で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ700団体が参加する大規模な催しになっています。

開催実績 −

開催年（回数）	開催地	会場	あゆみ

2025年 （第48回）	山形県	やまぎん県民ホール	ー
2024年 （第47回）	北海道	札幌コンサートホール Kitara	ー
2023年 （第46回）	兵庫県	アクリエひめじ	ー
2022年 （第45回）	東京都	昭和女子大学人見記念講堂	ー
2021年 （第44回）	静岡県	アクトシティ浜松大ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインイベント「おかあさんコーラス　オンラインフェスティバル2021」を実施
2020年 （第43回）	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインで「バーチャルおかあさんコーラス」を実施
2019年 （第42回）	石川県	金沢歌劇座	ー
2018年 （第41回）	愛媛県	ひめぎんホール	ー
2017年 （第40回）	岡山県	岡山シンフォニーホール	ー
2016年 （第39回）	青森県	リンクステーションホール青森	ー
2015年 （第38回）	北海道	札幌コンサートホールKitara	ー
2014年 （第37回）	新潟県	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館	ー
2013年 （第36回）	大阪府	フェスティバルホール	ー
2012年 （第35回）	東京都	文京シビックホール　大ホール	35回記念大会として、全国大会を3日間開催。
2011年 （第34回）	福岡県	アクロス福岡	ー
2010年 （第33回）	長野県	長野県県民文化会館　ホクト文化ホール	ー
2009年 （第32回）	愛媛県	ひめぎんホール	ー

2008年 （第31回）	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	ー
2007年 （第30回）	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花ホール	ー
2006年 （第29回）	北海道	札幌コンサートホール Kitara	ー
2005年 （第28回）	長崎県	長崎ブリックホール大ホール	ー
2004年 （第27回）	神奈川県	よこすか芸術劇場	ー
2003年 （第26回）	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	ー
2002年 （第25回）	東京都	東京文化会館　大ホール	25回記念大会として、「ひびけ おかあさん in Tokyo !」をサブタイトルに全国大会を3日間開催。
2001年 （第24回）	富山県	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	ー
2000年 （第23回）	香川県	香川県県民ホール グランドホール	ー
1999年 （第22回）	岩手県	岩手県民会館	ー
1998年 （第21回）	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、全国大会１日目の夜に「コーラスジャンボリー」を倉敷チボリ公園で開催。
1997年 （第20回）	北海道	札幌コンサートホール Kitara	ー
1996年 （第19回）	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	ー
1995年 （第18回）	群馬県	群馬音楽センター	ー
1994年 （第17回）	京都府	京都会館　第１ホール	ー
1993年 （第16回）	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
1992年 （第15回）	東京都	東京芸術劇場　大ホール	ー

1991年 （第14回）	愛媛県	愛媛県立県民文化会館　メインホール	ー
1990年 （第13回）	福島県	郡山市民文化センター　大ホール	ー
1989年 （第12回）	広島県	広島厚生年金会館ホール	ー
1988年 （第11回）	北海道	北海道厚生年金会館ホール	ー
1987年 （第10回）	福岡県	福岡サンパレス　大ホール	少年少女合唱祭（第１回）を併催。もう一つのおかあさんコーラス大会と銘打った「おかあさんカンタート」を始める。
1986年 （第9回）	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
1985年 （第8回）	大阪府	フェスティバルホール	ー
1984年 （第7回）	東京都	ゆうぽうと簡易保険ホール	ー
1983年 （第6回）	愛知県	名古屋市民会館　大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
1982年 （第5回）	兵庫県	神戸文化ホール　大ホール	ー
1981年 （第4回）	東京都	普門館	ー
1980年 （第3回）	京都府	京都会館　第１ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
1979年 （第2回）	東京都	東京文化会館　大ホール	ー
1978年 （第1回）	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点に1979年にスタートしました。最初は舞台に立って歌い終わると、そでから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。

全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井歓氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩をしるしました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に開き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催実績 −

開催年（回数）	会場	あゆみ
2025年（第45回）	琉球新報ホール	ー
2024年（第44回）	琉球新報ホール	ー
2023年（第43回）	琉球新報ホール	ー
2022年（第42回）	琉球新報ホール	3年ぶりの開催。オンラインでの同時配信を実施。
2021年	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を延期
2020年（第41回）	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止
2019年（第40回）	琉球新報ホール	ー
2018年（第39回）	豊見城市立中央公民館	ー
2017年（第38回）	豊見城市立中央公民館	ー
2016年（第37回）	浦添市てだこホール	ー

2015年 （第36回）	浦添市てだこホール	ー
2014年 （第35回）	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
2013年 （第34回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2012年 （第33回）	浦添市てだこホール	ー
2011年 （第32回）	浦添市てだこホール	ー
2010年 （第31回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2009年 （第30回）	浦添市てだこホール	ー
2008年 （第29回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2007年 （第28回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2006年 （第27回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
2005年 （第26回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2004年 （第25回）	沖縄市民会館　大ホール	ー
2003年 （第24回）	名護市民会館　大ホール	ー
2002年 （第23回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2001年 （第22回）	那覇市民会館　大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
2000年 （第21回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1999年 （第20回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1998年 （第19回）	那覇市民会館　大ホール	ー

1997年 （第18回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1996年 （第17回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1995年 （第16回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1994年 （第15回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
1993年 （第14回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1992年 （第13回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1991年 （第12回）	沖縄市民会館　大ホール	ー
1990年 （第11回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1989年 （第10回）	那覇市民会館　大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
1988年 （第9回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1987年 （第8回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1986年 （第7回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1985年 （第6回）	那覇市民会館　大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
1984年 （第5回）	労働福祉会館　大ホール	ー
1983年 （第4回）	労働福祉会館　大ホール	ー
1982年 （第3回）	労働福祉会館　大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
1981年 （第2回）	琉球新報ホール	ー
1980年 （第1回）	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キユーピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール（朝日新聞社主催）」に協賛しています。
リズムダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動にとり入れられており、基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現力、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うツールとして、教育面でも非常に期待されています。キユーピーは、今後も元気の源となる食を通じて、仲間と一緒にダンスをがんばる子どもたちの健やかな成長を応援していきます。

提供元：朝日新聞社

全日本小中学生ダンスコンクールのあゆみ

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年に創設された大会です。
2025年に行われた第13回大会には、過去最多の367チーム、約4,800名が参加しました。そのうち、ブロック大会で特に優秀な成績を収めた50チーム、約700名の小中学生が全国大会に出場し、練習の成果を発揮しました。

提供元：朝日新聞社

公式ホームページ

開催実績

開催年（回数）	会場	あゆみ
2025年（第13回）	国立代々木競技場　第二体育館	ー
2024年（第12回）	国立代々木競技場　第二体育館	ー
2023年（第11回）	国立代々木競技場　第二体育館	ー
2022年（第10回）	国立代々木競技場　第二体育館	3年ぶりにブロック大会を開催
2021年（第9回）	国立代々木競技場　第二体育館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためブロック大会が中止。11月に全国大会

		と、オンラインでの発表会を開催。
2020年 （第8回）	ー	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全大会が中止。オンラインでの発表会「全日本小中学生DANCELIVE2020」を開催。
2019年 （第7回）	駒沢オリンピック公園　総合運動場体育館	ー
2018年 （第6回）	駒沢オリンピック公園　総合運動場体育館	ー
2017年 （第5回）	川崎市とどろきアリーナ	ー
2016年 （第4回）	川崎市とどろきアリーナ	東海大会、九州大会を設立
2015年 （第3回）	国立代々木競技場　第二体育館	ー
2014年 （第2回）	国立代々木競技場　第二体育館	西日本大会、東日本大会設立
2013年 （第1回）	渋谷公会堂	大会創設

教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校や大学などにおいて講義・講演を実施するとともに、インターンシップ（職場体験学習）として学生・生徒の受け入れを行い、働くことの大切さや厳しさの理解を深める活動を行っています。
また、アヲハタからの寄付金をもとに、本社所在地である広島県竹原市において「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されました。本基金は給付型の奨学金制度であり、2002年以降、毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

エコキャップ運動

2015年より東京都内のキユーピーグループ各事業所で回収したペットボトルキャップをキユーピーあいで回収し、エコキャップとしてNPOへお渡しして途上国でのワクチン接種の支援につなげています。

2025年度回収実績

重量	個数	預かり寄付金	ワクチン接種人数
457.41kg	196,683個	4,569円	228.45人

学生服リユース活動

2020年から、さまざまな事情で学生服や学用品が買えないご家庭、子どもたちのために「学生服のリユースShop さくらや」の学生服リユース活動に参加しています。
キユーピーグループでは、期間限定で仙川キユーポートと渋谷オフィスに回収ボックスを設置し、制服を回収しました。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
  - 持続可能な調達の推進
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

持続可能な調達

私たちは「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。大切な原資材料は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。サプライチェーンにおける社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、持続可能な調達のための基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進	

持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針とお取引先との協働による取り組みを紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
持続可能な調達の推進
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループ オフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

持続可能な調達の推進

持続可能な調達の推進に向けた考え方
持続可能な調達のための基本方針
キユーピーグループ サプライヤーガイドライン
持続可能な鶏卵の調達
持続可能な野菜の調達
持続可能なパーム油の調達
持続可能な紙の調達
持続可能な果実の調達
アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

持続可能な調達の推進に向けた考え方

私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、持続可能性を高め、良い原料を調達できることにつながると考えます。

› 適切な価格転嫁について

パートナーシップ構築宣言

持続可能な調達のための基本方針

1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。

2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。

3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。

4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。

5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。

6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響やアニマルウェルフェアも考慮した管理を行う。

7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。

8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。

9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

2018年制定、2023年改訂

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン

「キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針」の実現に向けて、キユーピーグループの調達先である大切なお取引先（お取引先を含めたサプライヤー全体を指します）へお願いすることとして「キユーピーグループ サプライヤーガイドライン」を定めます。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン（638KB）

持続可能な鶏卵の調達

基本的な考え方

キユーピーグループにとって鶏卵は、マヨネーズをはじめタマゴ加工品の主要原料であり、グループのさまざまな商品に使用する大切な原料です。持続可能な鶏卵の調達を考えるうえで、鶏卵の品質や環境に及ぼす影響、人権への配慮や採卵鶏のアニマルウェルフェアは重要な課題と認識しています。
キユーピーグループでは、国内各地の養鶏事業者への訪問などコミュニケーションを通じて生の声を聴くと同時に、私たちの商品をご使用いただいているお客様の声を伝え、相互の成長・発展につながる協働体制の構築に努めています。
また、商品とサービスを通じてお客様をはじめとしたバリューチェーン全体で鶏卵の価値を高める活動に努めるとともに、鶏卵に関する環境負荷低減の取り組みを継続して進化させています。
養鶏事業者をはじめとしたサプライチェーンのパートナーに加え、行政や学識経験者・有識者などの関係者とのコミュニケーションや取り組みにも積極的に参画し、鶏卵に関わる産業全体の持続可能性を高めていく考えです。

取り組みについて

調達先である養鶏事業者には品質規格書を取り交わすとともに専門の担当者が計画的に訪問し、基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。
また、鶏卵の優れた栄養バランスを生かしながら、さまざまな食品を支える加工適性などの食品機能に磨きをかけるとともに、「食と健康への貢献」や「卵アレルギーに向き合う研究」などで食にまつわる社会課題の解決につなげる取り組みを進めています。

> 卵の研究

> 卵アレルギーに向き合う研究で子どもたちを笑顔に！

鶏卵を余すことなく有効活用することで地球環境への負荷を低減するなど、サステナビリティへの取り組みを進めています。また食育活動を通じ鶏卵の魅力を伝える活動も行っています。

> 卵の100%有効活用

> 卵の有効活用

持続可能な野菜の調達

キユーピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキユーピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

循環型農業の構築

サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥の原料や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。
契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最低限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができ、「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。

契約産地での堆肥散布の様子

サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。
安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。
毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club（グロワー・オブ・サラダクラブ）」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています。
一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や堆肥の原料にし、堆肥は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。

持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。
こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キユーピーグループは、2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキユーピーグループで調達するパーム油についてRSPOのブックアンドクレーム方式※1による認証クレジットの購入を開始しました。2022年にはキユーピーグループで調達するパーム油100%である原料すべてにおいてブックアンドクレーム方式への切り替えを完了しています。あわせてマスバランス方式※2でのパーム油の受け入れの認証を取得しています。

※1 ブックアンドクレーム方式
RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット（証券）を発行。
その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

※2 マスバランス方式
認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。
物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

> ESGデータ集

持続可能な紙の調達

キユーピーは、2023年12月にキユーピーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定しました。原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組みます。
そのため、森林認証紙（FSC®認証※など）を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※ 責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

キユーピーグループ 紙調達ガイドライン（217KB）

> サステナビリティ目標

> 生物多様性の保全

取り組みについて

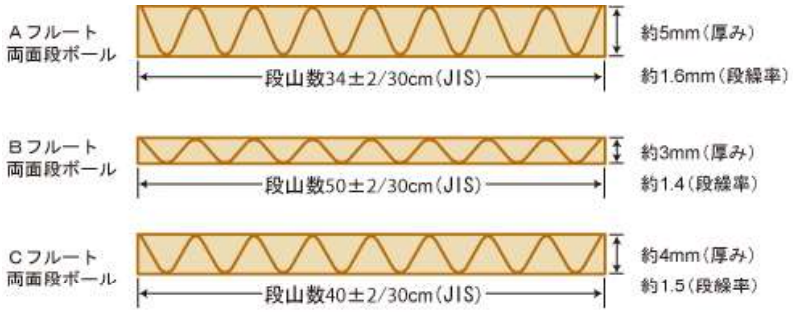
FSC®認証紙などの持続可能な紙の調達と使用

キユーピーグループは、環境や社会に配慮して管理された森林から生産されたFSC®認証紙をはじめ、持続可能な紙の調達と使用を推進しています。

2025年度には、国内グループ全体で対象となる容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品において、持続可能な紙の調達率100%を達成しました。今後も、森林資源の保全に配慮した素材の採用を継続し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

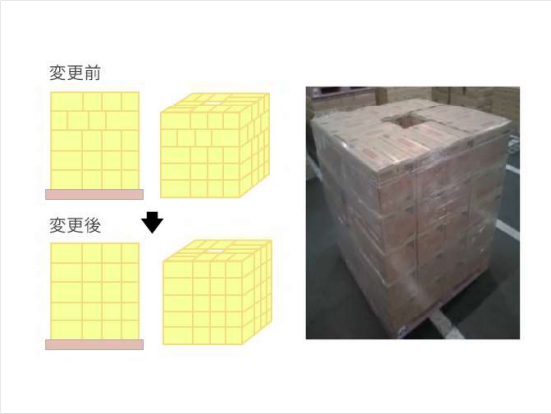
段ボール構造の工夫

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を生かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。



パッケージの省資源の取り組み

アヲハタでは、55ジャムUD150シリーズ・カロリーハーフシリーズに「シェルフレディーパッケージ」を採用し、年間約50トンのカートン削減に加え、2022年には、ヴェルデトーストスプレッドシリーズに使用するカートンのライナー※を変更し、従来の強度を保ったままカートンの軽量化とカートン製造時のCO_2排出量削減を実現しました。

2025年度年間使用枚数	240,000枚
軽減重量	4,300kg/年
カートン製造時CO_2削減量	2,800kg/年

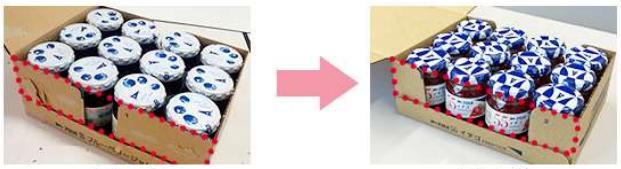
※ライナーとは、段ボールの表面・裏面に使用される段ボール原紙

カートン形状の工夫

「アヲハタ ５５ジャム」（小容量）カートン※

カートンのフラップ寸法の変更を行い、省資源化を進めました。

※2015年から開始



▲変更前　▲変更後

同時に、簡単に開封・陳列できる「パカっとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。

持続可能な果実の調達

アヲハタでは、創業以来受け継がれている「良い商品は、良い原料から」という強い信念のもと、世界各地の農家や冷凍一次加工サプライヤーとともに持続可能な原料調達に取り組んでいます。気候変動の影響により果実を取り巻く環境が厳しさを増す中、主要原料であるイチゴを中心に、育種・育苗から栽培技術の研究までをグループ内で一貫して行うことで、持続可能な調達をめざしています。

＜中国：イチゴの育種・育苗＞ 自社開発品種を開発・販売

出荷前の苗

＜日本国内：イチゴ栽培技術の研究＞ アヲハタ果実研究所（広島県三次市）において、多数のイチゴ品種を取り揃え、栽培技術を研究

アヲハタ果実研究所

アヲハタ果実研究所 イチゴ栽培の様子

アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

基本的な考え方

キユーピーグループは、採卵鶏のアニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。
キユーピーグループは、国際獣疫事務局(WOAH)が示したアニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」※に賛同し、その原則に沿った採卵鶏の飼養が重要であると考えます。また、鶏卵をビジネスの源として利用しているからこそ、採卵鶏の命の尊厳についても適切な配慮をするべきであると考えます。

※アニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」

- 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
- 恐怖および苦悩からの自由
- 物理的、熱の不快さからの自由
- 苦痛、傷害および疾病からの自由
- 正常な行動様式を発現する自由

取り組みについて

日本国内

- 調達している鶏卵は、『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養理指針』※1に即して飼養された鶏の卵であることを確認しており、農林水産省が制定した『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』※2への準拠状況の確認も進めています。
- ケージフリー飼養卵※3の生産を拡大する必要性を感じており、国内の養鶏事業者を支援するとともに、その普及に努め、市場づくりと拡大にも取り組んでいます。
- 持続可能な採卵鶏の飼養管理のあり方を行政や養鶏に関わるサプライチェーンのパートナー、ならびに学識経験者・有識者、NGO・NPOなどの関係者と連携・議論しています。

海外

- 各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。
- ケージフリー飼養卵については、各国・地域の基準に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。また、各事業地域においてお客様のご要望にお応えする商品の提供を行っています。

鶏卵以外の畜産物について

- 農林水産省が制定した畜種毎の『飼養管理等に関する技術的な指針』を参考にしながら、アニマルウェルフェアに配慮された飼養状況の確認を着実に進めていきます。

取り組みの目標について

グローバルについて

- グローバルで製造販売しているキユーピー マヨネーズのケージフリー飼養卵の使用率を、2023年度末の3%から2027年までに10%に引き上げることを目標とします。

日本国内

- 2030年までに国内で製造販売するキユーピー マヨネーズに使用する卵の20%にあたる量の国内のケージフリー飼養卵を調達します。

米国および欧州

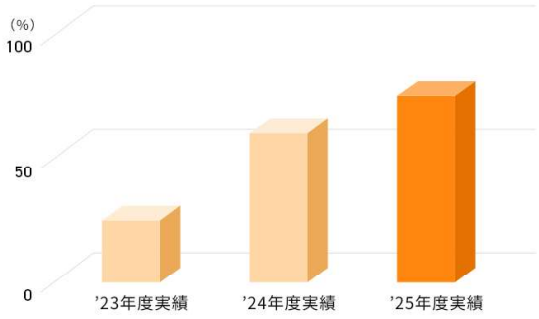
- 米国では調達・使用する鶏卵を、2025年までにケージフリー飼養卵に切り替えることを目標としており、2022年にこの目標を達成しています。
- 欧州では、キユーピーブランド商品の製造に用いる鶏卵を2025年までにケージフリー飼養卵に切り替えることを目標としており、2025年にこの目標を達成しています。

> 米国での鶏卵調達の取り組み
> 欧州での鶏卵調達の取り組み

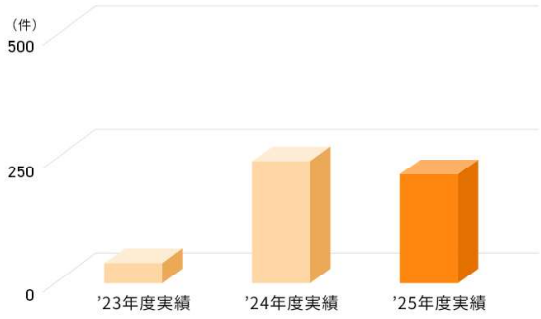
なお、アジア地域などにおいてもケージフリー卵の調達拡大をめざしています。調達が難しいことからサプライヤーなどとの情報や意見交換を進めながら検討していく考えです。

2025年度の取り組み状況について

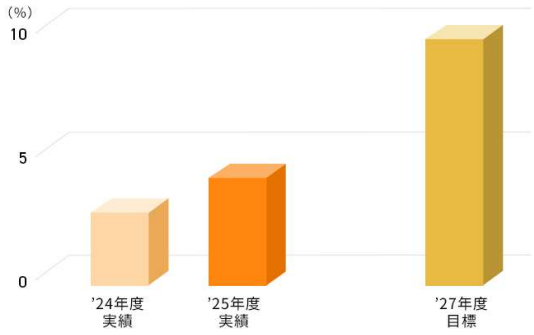
国内で調達する鶏卵生産者の訪問監査実績（調達量ベースの累計）



お取引先へのケージフリー飼養卵の商品提案商談の件数（単年度）

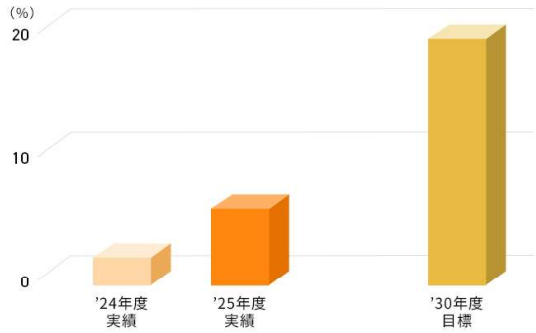


グローバルで製造販売しているキユーピーマヨネーズのケージフリー飼養卵の使用率



国内で調達するケージフリー飼養卵の量

（国内で製造販売するキユーピー マヨネーズに使用する卵の20%にあたる量を調達）



訪問監査時の状況

当社グループが調達を行う日本国内のすべての養鶏事業者に対して、「飼養管理指針」への準拠状況についての調査票に基づくヒアリングを継続して確認しています。

当社が加盟する業界団体である「全国マヨネーズ・ドレッシング類協会」が制定した「採卵鶏のアニマルウェルフェアについての協会の考え方と取組方針」に賛同するとともに、この取り組みに積極的に参画しています。

› 全国マヨネーズ・ドレッシング類協会　採卵鶏のアニマルウェルフェアについての協会の考え方と取組方針

アニマルウェルフェアの推進に向けて、キユーピーグループは継続的な取り組み、透明性ある情報開示、サプライチェーンとの連携を積極的に進めます。

（2026年1月　更新）

※1 公益社団法人 畜産技術協会による『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』第5版（令和2年3月）
※2 農林水産省制定 令和5年7月26日付け5畜産第1066号『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』
※3 いわゆる平飼いなどの飼養方法
なお、『国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について』（農林水産省畜産局長通知 5畜産第1062号 令和5年7月26日）の『1.（2）アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理における一般原則』では、家畜の飼養者がアニマルウェルフェアの原則である「5つの自由」を理解し、日々の観察や記録、丁寧な取扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、弛まぬ努力と改善を行うことであり、特定の施設や設備を整備することのみで達成されるものではないことを関係者が十分認識し、その推進を図っていく必要がある、とされています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 −
  - 人権尊重への取り組み
  - 多様な人材の活躍
  - 健康経営・労働安全衛生
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ

人権の尊重

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、キユーピーグループに関わるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、それぞれの視点やノウハウを生かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めるとともに、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、キユーピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。

サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キユーピーグループ 人権方針」を推進	

人権尊重への取り組み

国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。

多様な人材の活躍

多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切にし、ダイバーシティの推進をはじめとした取り組みを行っています。

健康経営・労働安全衛生

キユーピーグループで働く一人ひとりの健康と安全のため、さまざまな取り組みを推進しています。

グループ各社の
サステナビリティ活動

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
  - 人権尊重への取り組み
  - 多様な人材の活躍
  - 健康経営・労働安全衛生
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ

人権尊重への取り組み

キユーピーグループ 人権方針　人権マネジメント体制
人権デューデリジェンスプロセスの実行　従業員への取り組み
サプライヤーへの取り組み　カスタマーハラスメントへの取り組み

キユーピーグループ 人権方針

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キユーピーグループ人権方針」を定めます。
社是である「楽業偕悦」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キユーピーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

キユーピーグループ人権方針（367KB）

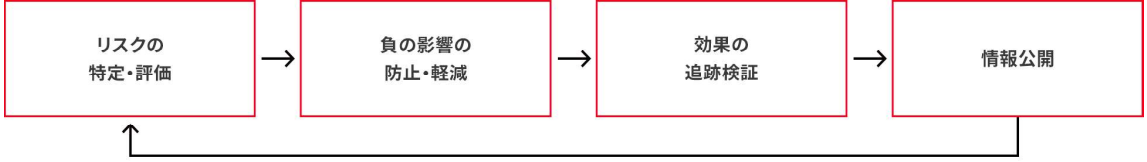
2021年制定、2025年改訂

人権マネジメント体制

キユーピーグループのバリューチェーンでの幅広い人権リスクに向き合うために、サステナビリティ重点課題に「人権の尊重」を掲げ取り組んでいます。
抽出された人権リスクについては、サステナビリティ委員会にて取り上げ、関連する委員会や部門と連携し、対応策の計画や実施を行っています。
また内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。

人権デューデリジェンスプロセスの実行

キユーピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うための実行プロセスとして、人権デューデリジェンスの枠組みに沿って取り組んでいます。



特定された人権リスクのうち、対象をグループ従業員やサプライヤーにおけるものを項目として、それぞれの是正に向けて取り組むこととしました。

2023年に実施した重要人権リスク評価のプロジェクト内で、人権に関する国際基準やヒアリングなどを通じて得られた情報に基づき、外部専門家により特に重要と判断されたリスクは以下のとおりです。なお、今回の評価結果をふまえつつ、引き続き状況確認や評価のアップデートを行っていく予定です。

キユーピーグループの特に注意すべき重要人権リスクと防止・軽減に向けた対応

重要な人権リスク	対象				キユーピーグループにおける対応
	自社従業員	一次サプライヤー	原材料生産者	顧客・消費者	
労働安全衛生	●	●			› 労働安全衛生への取り組み
強制労働	●	●	●		› 人権尊重への取り組み
児童労働	●	●	●		› 人権尊重への取り組み
ハラスメント	●	●			› 人権尊重への取り組み
長時間労働・過重労働	●				• 日々の時間管理の徹底 • 注意喚起と啓発
製品の欠陥による健康・安全の侵害				●	› 商品品質の取り組み

従業員への取り組み

さまざまな方が働いている環境であることから、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境の実現をめざしています。コンプライアンスに対する理解・意識状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的とした全従業員を対象の「従業員意識調査」を2年毎に実施しています。アンケート結果を従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、従業員の啓発活動や研修などに反映させています。

ヘルプラインの運用

• 2025年度のヘルプラインへの通報・相談件数は38件でした。

- 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備などに関するものがありました。
  会計や品質などの不正に関するものはありませんでした。
- 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導などにより是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

> ESGデータ集

サプライヤーへの取り組み

キユーピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、サプライチェーンでの環境や人権に配慮する必要があるとし、このことをお取引先と一緒に取り組むとしています。
「キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針」のもと、お取引先に向けたガイドラインとして、「キユーピーグループ サプライヤーガイドライン」を策定しました。今後は、サプライヤーへのアンケート実施、引き続きのコミュニケーションを通じて、サプライチェーンでの人権リスク低減に努めます。

> 持続可能な調達の推進

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン（638KB）

カスタマーハラスメントへの取り組み

キユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」で世界の人々の食と健康に貢献することをめざし、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。
一方で、お客様から妥当性を欠く内容の要求や言動など、社会通念上の範囲を超える行為により、従業員の人権を侵害し、職場の環境に悪い影響を与えるものもあります。
お客様と従業員の人権を尊重し、お客様からの信頼に応えていくため、「カスタマーハラスメントに対する基本方針」を策定しました。

カスタマーハラスメントに対する基本方針（334KB）

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント +
資源の有効活用・循環 +
気候変動への対応 +
生物多様性の保全 +
食と健康への貢献 +
持続可能な調達 +
人権の尊重 −
人権尊重への取り組み
多様な人材の活躍
健康経営・労働安全衛生
ガバナンス +
品質と安全・安心 +
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

多様な人材の活躍

ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンへの取り組み
人材育成への取り組み
フレキシブルな働き方への取り組み

ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンへの取り組み

キユーピーグループにおけるダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンの考え方

キユーピーグループでは、ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョン（DE＆I）を人的資本経営の重要な戦略の一つと位置づけ、すべての従業員の多様な価値観と能力を生かすことで、グループの持続的成長と社会貢献の実現をめざしています。この方針のもと、従業員同士の対話を大切にするとともに、DE＆Iを理解し体感できる機会づくり、多様な従業員の活躍につながる場づくり、成長実感を持てるキャリアや学びのしくみづくりを進めています。人的資本の価値を最大化するために、グループの従業員一人ひとりの個性と成長意欲を尊重し、能力を最大限に発揮できる企業風土の醸成に取り組んでいます。

新たな価値を創出する企業風土の醸成

従業員一人ひとりの多様な視点・能力・スキルが新たな価値を生み、グループ全体の成長につながるよう、DE＆Iを推進していきます。心理的安全性が高く、目標にむかってチャレンジしやすい風土づくりに努めます。

多様な人材の活躍

個々のスキルや経験を多様化するため、グループ内で人材交流を行っています。またキャリア採用者を積極的に登用し、外からの新たな視点を取り入れています。

アンケートの実施

毎年、ダイバーシティ・エンゲージメントアンケートを実施し、従業員の意識調査を行っています。調査結果は各社・組織にフィードバックされ、人材の活躍とより良い組織風土の醸成に活用されています。

セミナーや勉強会の実施

グループ従業員が参加できるセミナーや勉強会を通じて、ダイバーシティ推進の加速化を図っています。2025年度には渋谷・仙川と、オンラインでユニバーサルマナー検定3級講座を実施し、トータルで225名の従業員が多様な人々と向き合うためのマインドとアクションを学びました。

多様な人材が重要な意思決定の場に参画

重要会議に参加するメンバーの20%以上を多様な人材（年代・性別・スキル・キャリア）から構成し、これまでと異なる視点から意見を引き出し、議論の活性化を図る取り組み「KEEP20」を展開しています。従来の参加メン

バーにとっては新たな気づきが得られ、多様な参加メンバーにとっては、経営情報や事業判断に触れる学びの機会となっています。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

女性従業員の活躍に向けて

2025年度の女性管理職比率は、キユーピー単体で19.9%、グループ全体（海外を含む）で20.5%です。2030年度にはキユーピー単体、グループ全体ともに女性管理職の割合が30%となることをめざしています。キユーピーグループでは女性従業員が約半数を占めており、今後は女性の活躍がますます重要となります。転居を伴わない総合職制度の活用や、地域職から総合職への転換などを進めていくとともに、意欲と実力のある女性従業員がしっかり評価され、活躍できる環境づくりにも力をいれていきます。

人材活躍の重要指数	2025年度 実績	2030年度 目標
女性管理職比率 （キユーピー単体）	19.9%	30%

› ESGデータ集

障がい者雇用の考え方

キユーピーグループでは、障がいのあるなしに関わらず、一人ひとりの能力や個性を大切にし、働く悦びややりがいを実感できる環境づくりをめざしています。
こうした考え方のもと、障がい者雇用においてはグループ適用を行わず、キユーピー単体、キユーピーあい（特例子会社）を含むそれぞれが各地域で雇用を行うことで、地域社会での多様な雇用創出につなげています。

障がい者雇用率の推移（2025年6月1日現在）

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
3.72%	3.78%	3.66%	3.74%	3.47%

› ESGデータ集

グループ各社における取り組み

キユーピーあい（特例子会社）では、館内物流をはじめ、清掃業務や販促物の作成・発送など多岐にわたる業務を担っており、障がい者雇用率は3.06%（キユーピー単体＋キユーピーあい：2025年6月1日現在）となっています。
また、障がい者の雇用、定着支援に留まらず、地域や社会への貢献も積極的に取り組んでいます。具体的には、障がい者就労に向けた実習の受け入れや小学校のユニバーサルデザイン授業への講師派遣、特別支援学級での交流や会社見学を行っています。

グループ各社でも、工場を中心に積極的に障がい者雇用を行っており、グループ全体での障がい者雇用率は3.47%となっています。

› ESGデータ集

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キユーピーグループでは、人材育成の考え方を示す方針として、「一人ひとりの生き方と向き合い、自己実現への挑戦を成長の原動力とする」という人材ポリシーを掲げています。
一人ひとりが主役としてお互いの生き方を尊重し、仕事を通じた自己実現に挑戦することを応援するために、以下のような、各種キャリア支援制度、専門研修、自己啓発プログラムの拡充を進めています。

1.セルフ・キャリアドック

2.キャリア自己申告制度

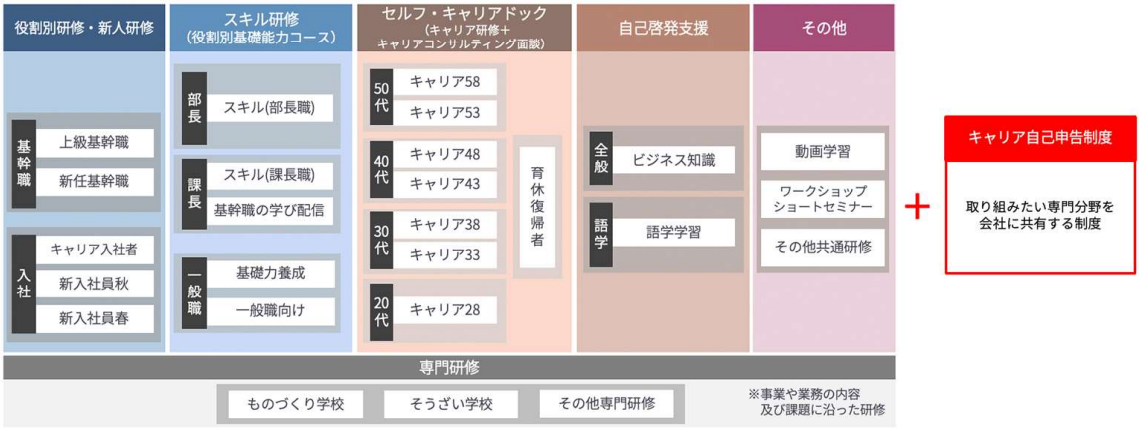
3.自律的な学び（スキル研修、自己啓発支援）の拡充

上司・部下間のキャリア対話をより深化させ、社員一人ひとりの成長を支援するため、2024年度より「セルフ・キャリアドック」を導入しました。キャリアの節目とされる5年に一度は全従業員が原則受講することのできる体制を整えています。
本取り組みは、「キャリア研修」と外部の国家資格保有者による「キャリアコンサルティング面談」を組み合わせたものです。自身が目指すべきキャリアパスと深く向き合う機会を提供しており、自らの将来を主体的に描こうとする意識が全社的に高まっています。

また、社員が描いた「ありたい姿」を着実に形にするための仕組みも整えています。「キャリア自己申告制度」を通じて、自身の志向やキャリアの希望を会社へ直接発信し、自らの手でキャリアを切り拓くことを可能にしています。

さらに、これらのキャリアパスを実現するための「自律的な学び」の場も大幅に拡充しました。役割に応じて必要なスキルを体系的に学べる「スキル研修」に加え、個人の自己実現を後押しする「自己啓発支援」のコンテンツも拡充し続けています。これら学習プラットフォームの利便性向上を定期的に実施した結果、社員一人あたりの学習時間は大幅に伸長しています。

私たちはこれからも、人材ポリシーの実現に向けて、多様な人材が最高のパフォーマンスを発揮し、高いエンゲージメントを持って成長し続けられる組織づくりに邁進してまいります。



キユーピーグループの育成体系図

褒賞制度

キユーピーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒賞制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキユーピーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。
論文の執筆を通した自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

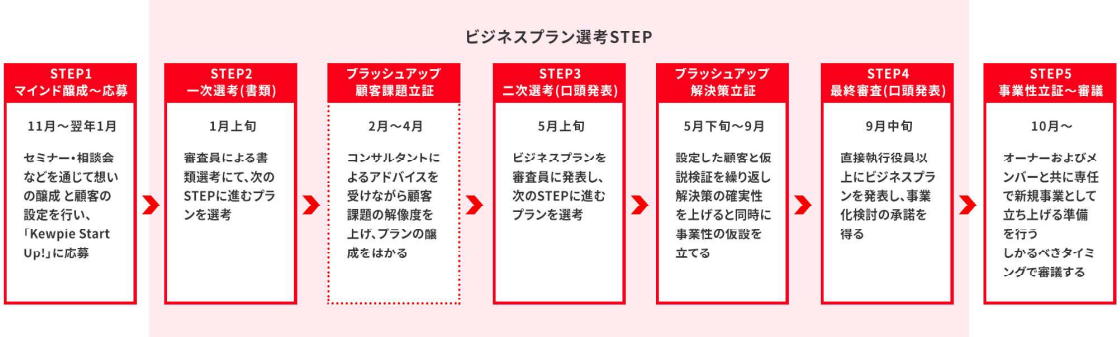
自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社が共に成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キユーピーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築くことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

ビジネスモデル	内容
酢酸菌酵素を配合したサプリメント	ビジネスモデル公募制度の第一号商品。キユーピーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌由来の酵素（アルコール分解酵素、アルデヒド分解酵素）を配合したサプリメント。

	※商品名：よいときOne
酢酸菌GK-1を配合した機能性表示食品	酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメント。 酢酸菌GK-1は、「花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感の軽減」と「免疫機能の維持」という2つの機能が報告されています。 機能性表示食品として、この2つの機能が受理された日本初のサプリメント。 ※商品名：ディアレプラス
GABAポテトサラダ	惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」。 血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されているGABAを配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。
› 深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム	埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる！みんなの笑顔を育むファーム」をコンセプトとする複合型施設を運営

「Kewpie Startup Program」から生まれた商品

深谷テラスヤサイな仲間たちファーム 収穫体験の様子

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キユーピーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。
時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

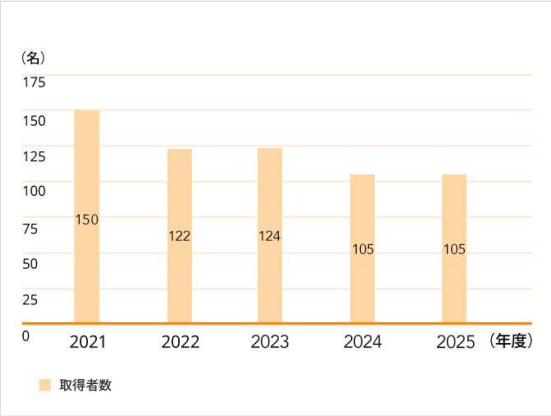
育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。
上司には、育児復帰者に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。
また、お子さまが生まれた男性社員とその上司に個別で育児休業取得を案内をするなど、男性従業員の育児休業取得を促進しており、2025年度の男性育休取得率は102.4%になりました。

育児休業のしおり

育児休業取得状況

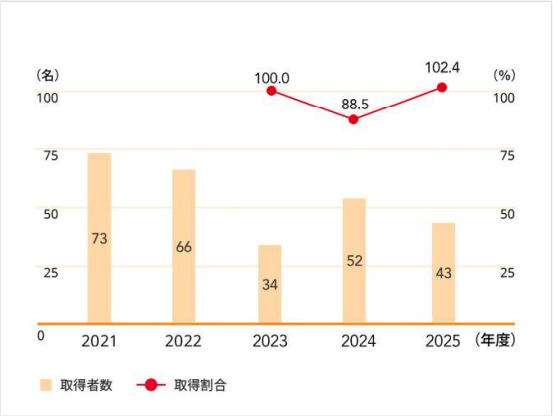
女性従業員

- 当年に育児休業を取得している人数
  （対象：キユーピー単体）



男性従業員

- 取得者数：子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
- 取得割合：子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
  （対象：キユーピー単体）



› ESGデータ集

介護支援の取り組み

介護による時間的制約がある場合でも、仕事と両立しやすい環境づくりに注力しています。介護休業・休暇制度、時短制度、コアタイムのないフレックスタイム制、在宅勤務などを活用し、個々の状況に合わせた柔軟な働き方を支援しています。
また、2025年には全従業員へ「介護ハンドブック」や「仕事と介護の両立セミナー動画」を配布、社内相談窓口を設置しました。安心して働き続けられる環境を整えています。

› ESGデータ集

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
人権尊重への取り組み
多様な人材の活躍
健康経営・労働安全衛生
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

健康経営・労働安全衛生

健康経営への取り組み　労働安全衛生への取り組み

健康経営への取り組み

キユーピーグループ健康宣言

私たちキユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を大切にし、世界中の人々の健やかな生活を食の面から支える企業であり続けるために、サラダとタマゴを中心とした食に関わるさまざまな取り組みを通じて、健康寿命の延伸や子どもの心と体の健康を応援してまいりました。
世界の人々の食と健康に貢献し続けるための原動力となるのは従業員一人ひとりの力です。
高い志をもつ社員の皆さん一人ひとりが会社の大切な財産であり、皆さんが健康で活き活きと働き続けられることが、キユーピーグループのさらなる成長・発展につながると思っています。

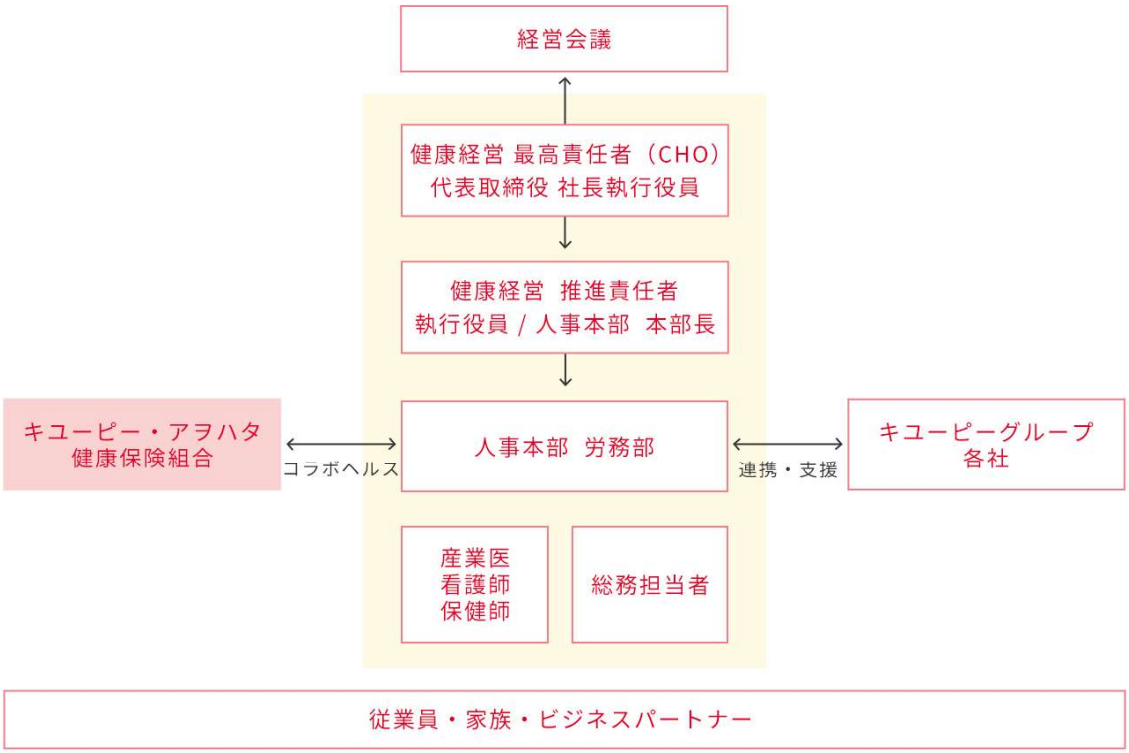
今後もグループ全体で「健康経営」を推進し、社員の皆さんとそのご家族が仕事と私生活の両面で豊かで充実した人生を送ることができるよう、食を通じて健康になることに真剣に向き合いながら、継続的な支援を行っていきます。

健康経営推進 最高責任者
代表取締役 社長執行役員 髙宮 満

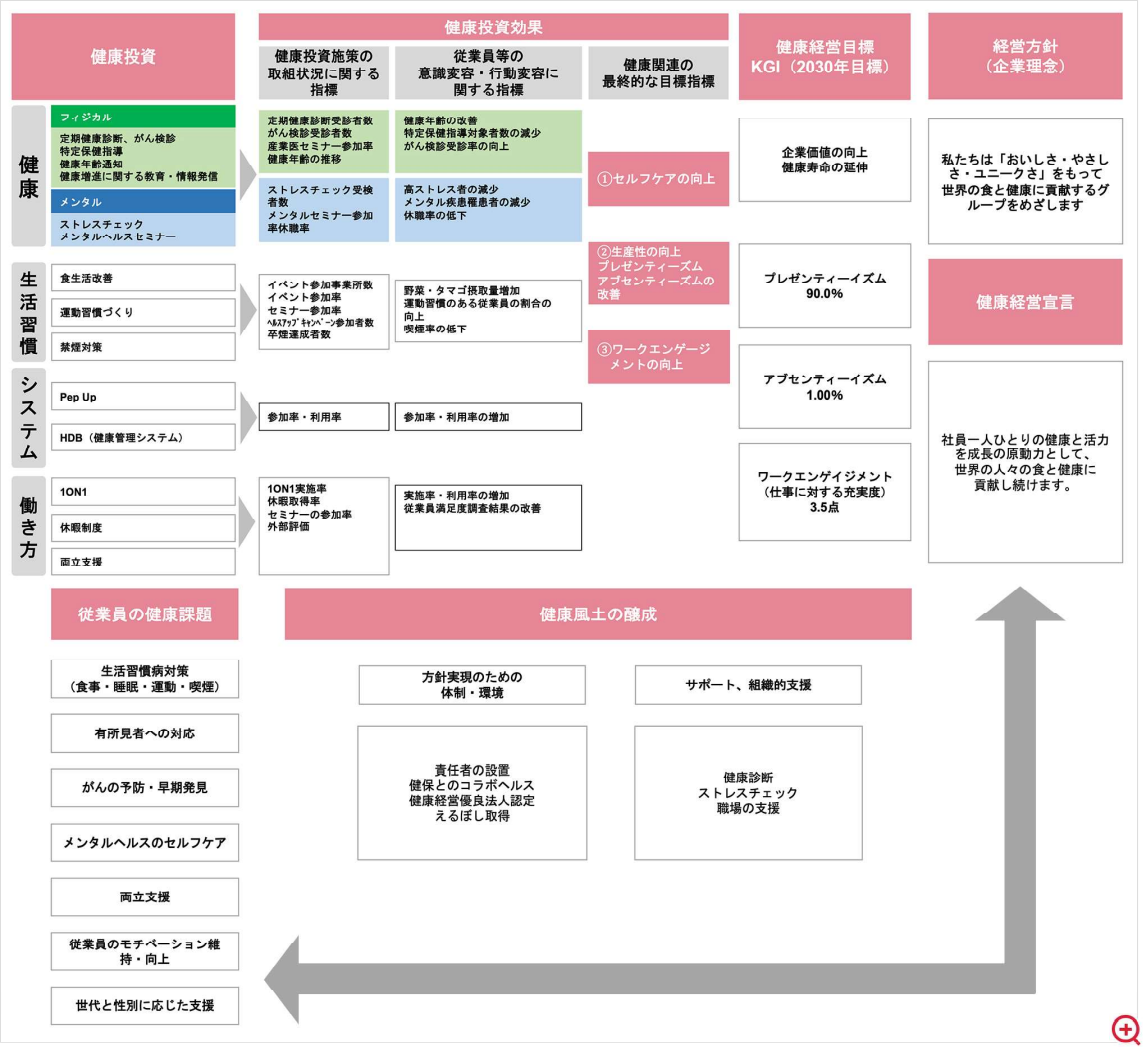
2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

› 社外からの評価

健康経営 推進体制



健康経営戦略マップ



健康課題に対する重点施策

生活習慣の改善

食と運動を通じて、生活習慣病の一次予防の支援をします。
「食」・・・・社内食堂を通じてサラダとタマゴの摂取を後押しおよび情報発信。
「運動」・・毎日のラジオ体操および独自のトレーニング、各種イベントの実施。

がん検診受診率向上

「早期発見・早期治療」を目的とし、社内でのがん検診の実施・がん検診休暇の付与、定期健康診断とがん検診の同日受診など、職域におけるがん検診の受診率向上を推進します。

メンタル対策

精神科産業医と連動し、従業員が心の健康を保ち、いきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

グループ共通健康指標「心と体の総合指標」

プレゼンティーイズム

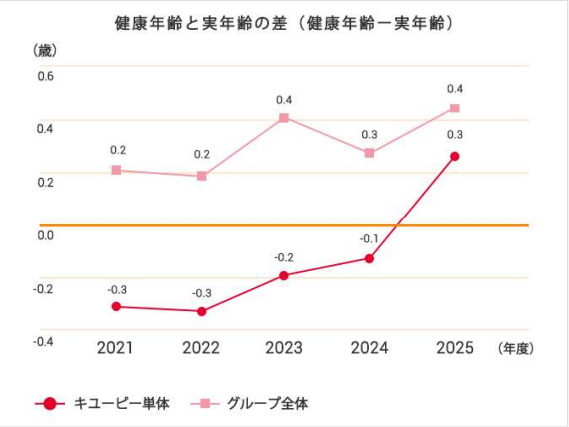
「心と体」の健康状態を数値で「見える化」することで、健康に対して意識改革を促す取り組みを進めています。

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
プレゼンティーイズム平均値※1	キユーピー単体※2	ー	ー	ー	ー	81.0
	グループ※3	ー	ー	ー	ー	79.5
アブセンティーイズム※4	キユーピー単体※5	0.68	0.65	1.03	1.28	1.32

※1 2025年度から東大1項目（SPQ）にて測定。2025年度回答者数単体2,675名、グループ9,366名。2024年度まではグループ独自のメンタル指標にて算出していたため、経年比較掲載なし。
※2 対象：キユーピー籍従業員（臨時従業員含む）
※3 対象：中堅グループ・キユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合を除く
※4 傷病休職制度利用日数の期末人員平均
※5 対象：キユーピー籍社員（臨時従業員を除く）

健康年齢

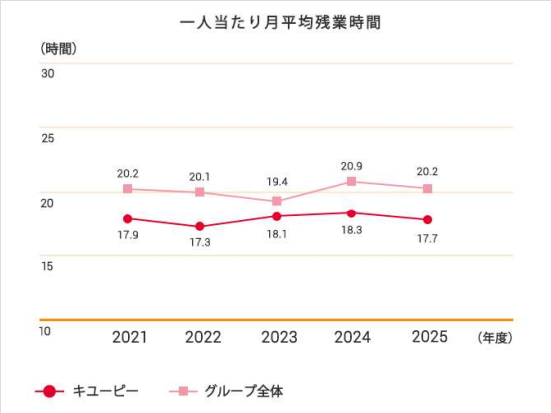
健康診断の結果から算出される年齢と実際の年齢との差を表します。(健康年齢は株式会社ＪＭＤＣの登録商標)



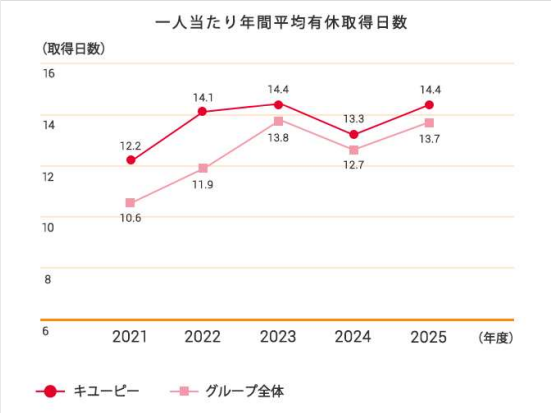
※キユーピーグループ
中董グループ（中島董商店、ｎａｋａｔｏ）およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く

グループ一般指標

働き方の指標

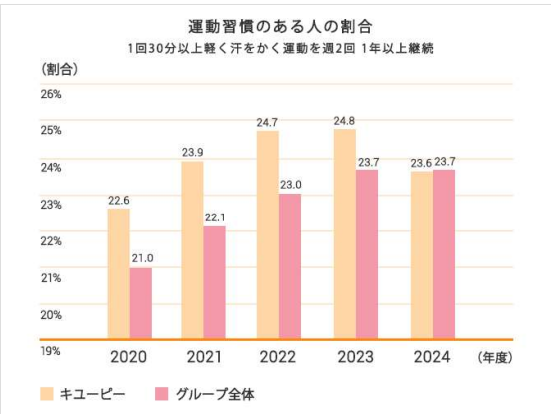


※キユーピーグループ（国内食品事業のみ）

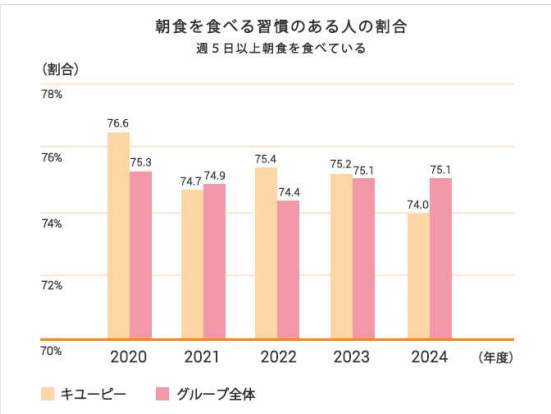


※キユーピーグループ（国内食品事業のみ）

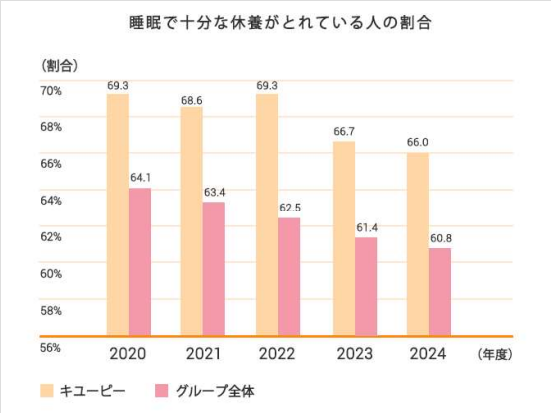
生活習慣の指標

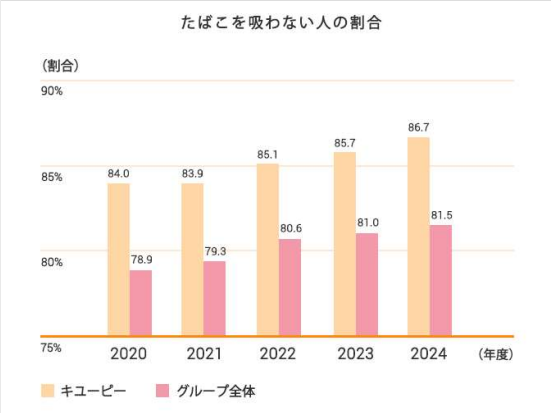


※キユーピーグループ
中董グループ（中島董商店、ｎａｋａｔｏ）およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く



※キユーピーグループ
中董グループ（中島董商店、ｎａｋａｔｏ）およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く

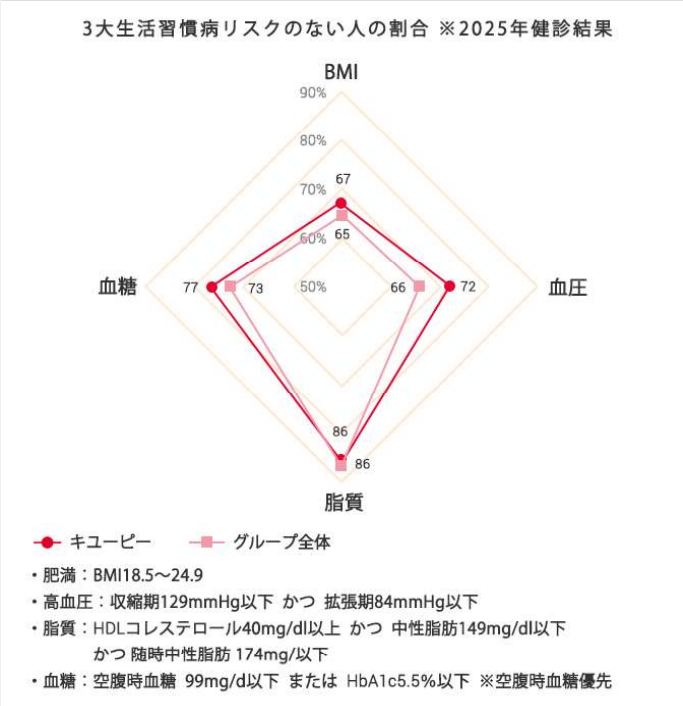




※キユーピーグループ
中董グループ(中島董商店、ｎａｋａｔｏ)およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く

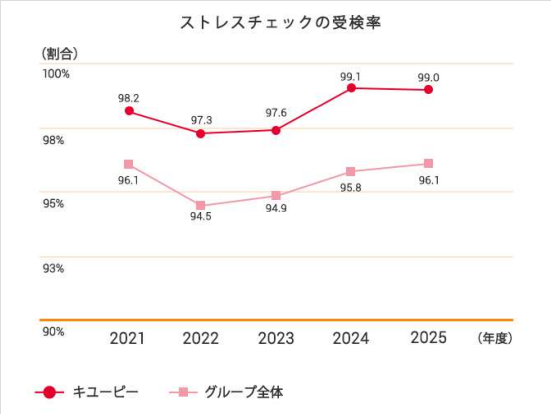
※キユーピーグループ
中董グループ(中島董商店、ｎａｋａｔｏ)およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く

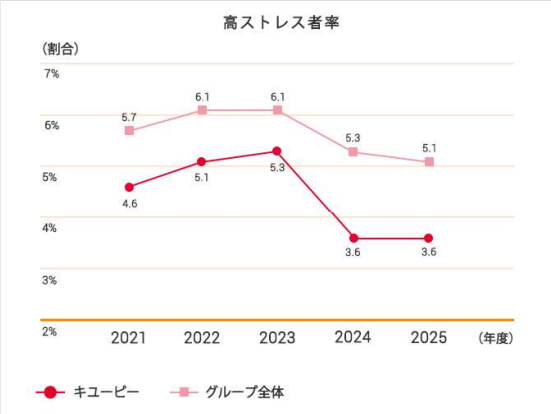
生活習慣病にかかわる指標



※キユーピーグループ
中董グループ(中島董商店、ｎａｋａｔｏ)およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く

メンタルにかかわる指標





※キユーピーグループ
中董グループおよびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合を除く

※キユーピーグループ
中董グループおよびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合を除く

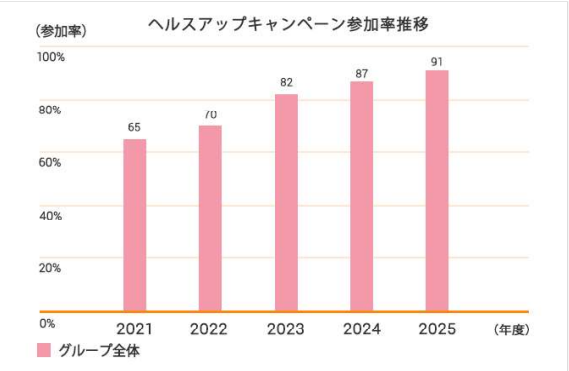
健康経営に向けた具体的な取り組み

わたしの健康アクション

キユーピーグループでは、従業員が健康でいきいきと働き続けられるよう、毎年、健康目標を設定しています。2026年度からは名称を「わたしの健康アクション」に変更し、一人ひとりが自身の健康行動を主体的に決め、実践し、四半期ごとに振り返りを行うことで、健康行動の習慣化をめざします。

ヘルスアップキャンペーン参加率

キユーピー・アヲハタ健康保険組合では生活習慣病改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を年1回実施し、従業員が生活習慣を見直すきっかけづくりにしています。参加者はチャレンジするコースを選択し、一定期間取り組みを行います。2025年度は、「サラダから食べよう」コースが最も選択され、次いで「階段を使おう」コースが人気を集めました。2025年度グループ全体参加率は、過去最高の91%となりました。



※キユーピーグループ、中島董商店グループ、海外駐在員を含む
外部出向、キユーピーアヲハタ健康保険組合を除く

食事：サラダとタマゴから始まるウェルビーイング

従業員一人ひとりが健やかな毎日を送れるよう、「サラダとタマゴ」を起点とした食事を推進しています。インナーブランディングの一環として、「サラダとタマゴ」の価値を理解し、日々の食事から健康になることを食堂からも発信しています。

食堂や各拠点での取り組み

社員食堂では給食会社と連携し、栄養バランスに配慮したメニューを提案。「サラダの日」「サラダファースト」「タマゴ文化祭」といった多彩なイベントを定期開催し、楽しみながら健康的な食習慣を身につける機会を創出しています。また、食堂のない拠点へもパッケージサラダを配布し、グループすべての従業員が健康的な食事を選択できる環境を整えています。

朝食イベント

本社での朝食企画（延べ540名参加）を通じて、欠食防止や栄養摂取の重要性を啓発しています。自社商材による「手軽でおいしい朝食」の体験は、従業員の健康意識を高めるだけでなく、部署を超えたコミュニケーションを生むなど、組織の活力向上にも繋がっています。

イベントの様子

運動イベント

「健康」に対する意識向上を目的とし、各拠点で運動イベントを開催しています。朝のラジオ体操といった日々の習慣づくりに加え、本社（渋谷・仙川）では、「姿勢解析イベント」を実施。数枚の写真撮影・AI姿勢解析・プロのトレーナーによるマンツーマン指導を組み合わせることで、一人ひとりの身体の状態に合わせた個別性の高いアドバイスを行いました。自分の身体と向き合うことで、健康を自分事と意識するきっかけとなりました。

イベントの様子

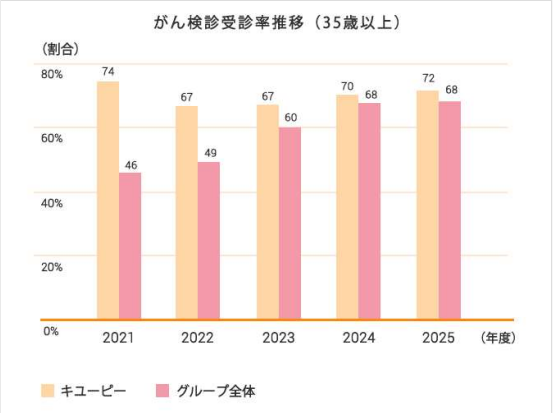
禁煙対策

グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所（渋谷区、調布市）において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。
また、産業医による禁煙セミナーの実施や、世界禁煙デーにあわせたポスター掲示など、禁煙・卒煙に向けた啓発活動に取り組んでいます。2017年からは従業員の卒煙支援を開始し、現在は禁煙外来の受診や禁煙補助薬にかかる自己負担額を補助する制度を設けることで、従業員の卒煙チャレンジを継続的に後押ししています。

がん検診休暇・職域がん検診

キユーピーグループでは、従業員全員の定期健康診断に加え、35歳以上の従業員を対象に人間ドックやキユーピーグループ独自の3点セット検診（胃がん・大腸がん・腹部超音波検査）、20歳以上の女性従業員には婦人科検診（乳がん・子宮頸がん）を推奨しています。この検診はキユーピー・アヲハタ健康保険組合が補助を行っており、2025年度には補助額の見直しを実施しました。
さらに、従業員が受診しやすい環境づくりを強化するために「がん検診特別休暇」の付与、移動検診車による職域集団がん検診や、大腸がん検診の職域実施、近隣医療機関との連携によりキユーピーグループ受診率目標80%に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

2019年～	首都圏で婦人科がん職域集団検診実施
2021年～	首都圏でがん3点セット職域集団検診（胃バリウム・腹部エコー・便潜血検査）実施 がん検診休暇付与開始
2022年～	全国の工場で大腸がん職域集団検診実施 順次エリア拡大中
2024年～	首都圏で近隣医療機関と連携し、がん3点セット検診（胃カメラ・腹部エコー・便潜血検査）実施
2025年～	工場で近隣医療機関と連携し、がん3点セット検診（胃カメラ・腹部エコー・便潜血検査）実施 時間単位（半日単位）のがん検診休暇付与開始



※キユーピーグループ
中董グループ（中島董商店、ｎａｋａｔｏ）およびキユーピー単体の海外駐在員、外部出向、キユーピー・アヲハタ健康保険組合、キユーピーデジタルイノベーションを除く
※3点セット検診のうち1つ以上受診でカウント

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員へも国内同様の健康管理体制を構築しています。年1回の人間ドックを必須とし、必要に応じて保健師からのアドバイスを行っています。メンタル面においても、赴任後のヒアリングやストレスチェックを実施。産業医によるオンライン面談を導入し、世界中どこからでも相談ができる安心な環境を整えています。
従業員がどこにいても健康を維持し、最大限に能力を発揮できるよう支援しています。

女性の健康を支える取り組み

女性従業員が抱える健康課題に寄り添い、安心して働ける環境づくりを進めています。
女性特有の悩みについて相談できる窓口を設け、企業内保健師が丁寧に対応しています。
また、早期発見・適切な治療につなげるための婦人科がん検診の受診促進や、健康に関する情報発信などにも取り組んでいます。
女性従業員が自身の健康と向き合いながら、長く活躍できる環境を整えています。

健康レポート

キユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を大切に、食を通じて人々の健康と豊かな生活に貢献してまいりました。
従業員とそのご家族の健康は、企業の持続的成長を支える基盤であり、健康で活き活きと働ける環境の構築が重要と考えています。
本レポートは、健康経営の取り組み状況を整理・発信することで、今後の更なる推進につなげることを目的としています。

キユーピーグループ健康レポート（2.6MB）

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キユーピーグループの生産事業所では、キユーピー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つ

を実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

1.全生産工場の安全監査（国内66カ所）
2.グループ安全会議
3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キユーピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

1.リスクアセスメントの実施
2.安全教育手順書による教育
3.QBSS(キユーピー・アヲハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
休業災害件数	17	10	11	11	13
度数率※1	0.87	0.52	0.59	0.60	0.74
強度率※2	0.037	0.032	0.035	0.014	0.044

対象：キユーピーグループ国内工場
※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000
※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

> ESGデータ集

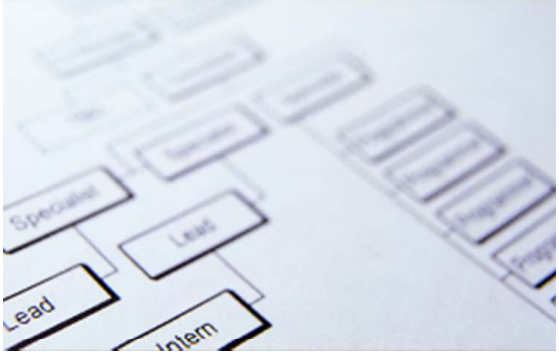
サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
倫理規範
コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

ガバナンス

キユーピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいきます。



倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様に信頼していただける企業活動を行います。

コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みをご案内します。

リスクマネジメント

リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

グループ各社の
サステナビリティ活動

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
倫理規範
コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

倫理規範

倫理規範に基づく取り組み　法令の遵守　人権の尊重
公正・健全な企業活動　情報セキュリティの徹底　反社会的勢力への対応

倫理規範に基づく取り組み

キユーピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるように、私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。
その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。
役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

› 理念
› キユーピーの約束

法令の遵守

企業の永続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キユーピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

› コーポレート・ガバナンス
› キユーピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施しています。

・従業員意識調査アンケート
全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。

・ヘルプライン

公益通報者保護法に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。
社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス調査会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

› 人権尊重への取り組み

キユーピーグループ人権方針（367KB）

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

› 持続可能な調達のための基本方針
› 調達への取り組み

競争法（独占禁止法・取適法）遵守に向けた体制づくり

キユーピーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法（独占禁止法・取適法）の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- 「独占禁止法遵守マニュアル」、「事例問題・Q&A集」の制定
- eラーニングや社内勉強会による、独占禁止法に関する教育・研修の実施
- 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

取適法への対応

- 取適法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- 社内勉強会等による、取適法に関する教育・研修の定期実施
- 「取適法マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、取適法セルフチェックリストの整備
- 関係部門での取適法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

適切な価格転嫁について

キユーピーグループは、「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」にもとづき、以下に取り組みます。

- 受注者との価格交渉・価格転嫁に関して、定期的にコミュニケーションを図ります。
- 価格交渉においては、価格上昇分の影響など受注者の適切な利益に配慮して十分に協議します。
- 価格交渉に関しては、常にサプライチェーン全体での適正な価格設定を念頭に置いた交渉に努めます。
- 価格交渉においては、受注者が提示する公表資料等を尊重するとともに、交渉記録を作成し、双方で保管します。

パートナーシップ構築宣言

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

› プライバシーポリシー

› コーポレート・ガバナンス

› 個人情報のお取り扱いについて

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。
グループ従業員への教育を行うとともに、警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。
また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニングなどのコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

企業情報

企業情報トップ
トップメッセージ
基本方針
キユーピーの約束
コーポレート・ガバナンス
反贈賄基本方針制定について
消費者志向自主宣言
プライバシーポリシー
個人情報のお取り扱いについて
匿名加工情報のお取り扱いについて
会社概要

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方　コーポレートガバナンス体制

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

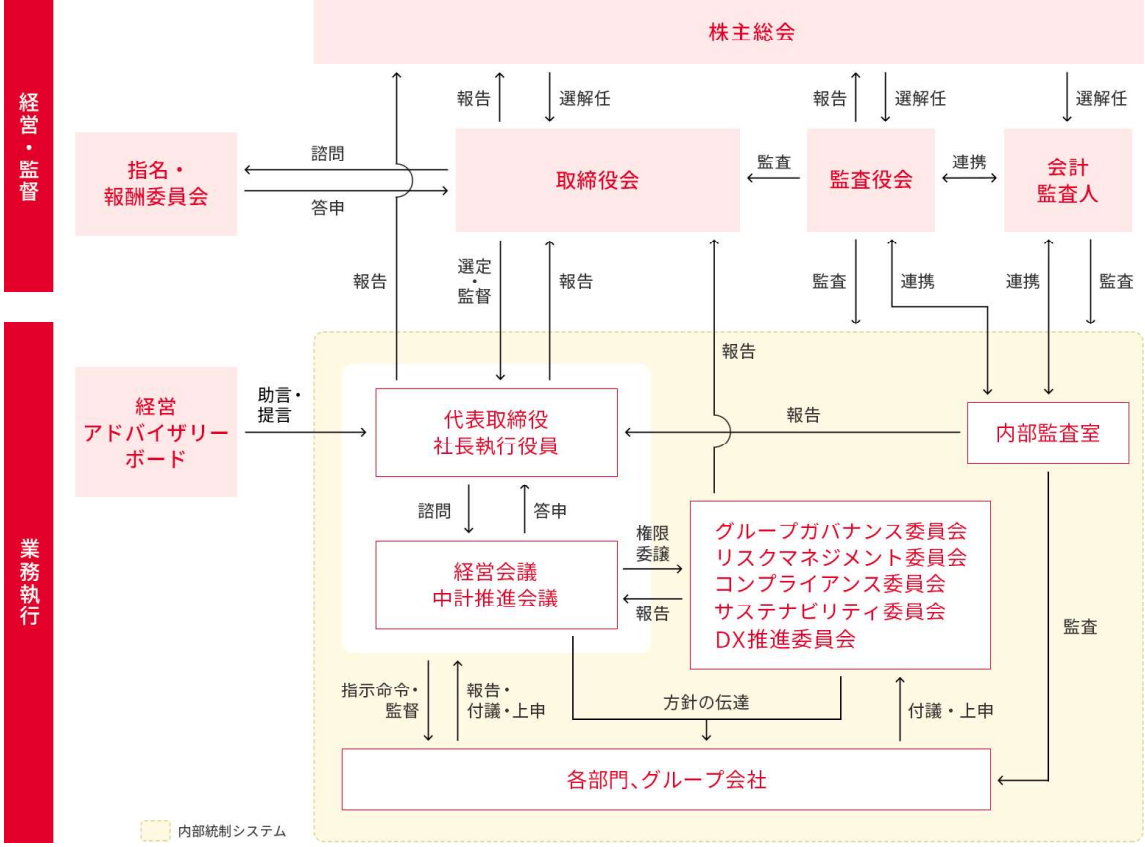
当社は、当社グループのコーポレート・ガバナンスを、グループの理念を実践し、お客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会等のさまざまなステークホルダーの立場等を踏まえたうえで、持続的な成長と企業価値の向上を実現するために、経営の透明性・公正性を高め、かつ迅速・果断な意思決定と実行を確保するための仕組みと定義しています。
当社は、当社グループのユニークさを活かしたコーポレート・ガバナンスを構築することが重要であると認識しており、コーポレート・ガバナンスポリシーにしたがって、さまざまなステークホルダーとの対話を大事にしながら、その在り方を不断に検討し、一層の充実に取り組んでいきます。

コーポレート・ガバナンスポリシー（316KB）

コーポレート・ガバナンスに関する報告書（274KB）

コーポレートガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社です。その機関設計のもと、取締役会の監督機能の強化を進めています。
また、業務執行を適切かつ機動的に進めるために、執行役員制度を採用しています。
取締役および執行役員の任期を1年とすることで、事業年度ごとの経営責任をより明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築しています。



経営・監督

取締役会

取締役会は、グループ全体を俯瞰できる執行役員を中心とした常勤取締役5名と社外取締役4名の体制です。当社グループとしての方針・戦略(中期経営計画等)をはじめとする経営における重要な事項について意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務執行を監督しています。

取締役会の実効性評価(108KB)

監査役会

監査役会は、常勤監査役2名、社外監査役3名の体制です。
代表取締役 社長執行役員との意見交換、重要会議・重要委員会への出席、担当役員や各部門の責任者からの報告、事業所往査などを通じて、内部統制システムの整備・運用状況を監視しています。また、会計監査人や内部監査部門と定期的な情報共有含め連携を図っています。

※社外取締役および社外監査役の7名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

※詳細は役員一覧をご覧ください。

› 役員一覧

取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行うにあたっての方針と手続き(198KB)

役員(取締役・監査役)、執行役員の報酬の考え方について(85.6KB)

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役等の指名・報酬のあり方などに関する客観性、妥当性および透明性を高めることを目的に、取締役会の諮問機関として指名・報酬委員会を設置しています。
5名以上の委員で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。

委員長は、社外取締役の委員の中から、指名・報酬委員会の決議により選定しており、委員会の議長を務めています。

構成（2026年2月27日時点）

委員長	社外取締役 柏木 斉
委員	社外取締役 福島 敦子
	社外取締役 西川 久仁子
	社外取締役 ハロルド・ジョージ・メイ
	取締役会長 中島 周
	代表取締役 社長執行役員 髙宮 満
	取締役 常務執行 山本 信一郎

業務執行

重要会議・委員会

グループの全体方針および最重要事項は、当社の取締役会または経営会議(または中計推進会議)での審議を経て、決定します。グループ横断の重要かつ専門的な課題については、経営会議から権限を委譲された特定の重要会議・委員会が方針の策定・取り組みの推進を担うことで、迅速かつ適切な決裁と実行につなげています。特に内部統制に関する機能は、主に下記の重要会議・委員会が分担しています。

会議体	主催者	主な役割
経営会議	代表取締役 社長執行役員	グループ経営に関わる重要な事項(事業リスク含む)について審議し、モニタリングを行う重要会議です。社内取締役と執行役員が主な参加メンバーです。
中計推進会議	代表取締役 社長執行役員	上記のうち、特に中期経営計画の推進に関わる重要な事項について、業務執行取締役中心のメンバーで審議する重要会議です。
グループ ガバナンス 委員会	取締役 執行役員 （グループ ガバナンス担当）	適切なグループガバナンス構築に関する方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 適切な意思決定・グループ会社管理体制の整備等の施策の推進を行っています。
リスク マネジメント 委員会	取締役 執行役員 （リスク マネジメント担当）	グループ全体のリスクマネジメント方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。全社的なリスクに関して、情報を集約し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを統括しています。
コンプライアンス 委員会	取締役 執行役員 （コンプライアンス 担当）	グループ全体のコンプライアンスに関する体制の整備、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 コンプライアンスに関わる問題点の把握に努めるととも

会議体	主催者	主な役割
		に、コンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行っています。
サステナビリティ委員会	取締役 執行役員（サステナビリティ推進担当）	グループ規範に沿ってサステナビリティの実現に向けた方針の策定、重点課題の決定と取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。サステナビリティ基本方針を策定し、それに基づく社会・環境面の重点課題に取り組んでいます。
DX推進委員会	執行役員 デジタル 推進本部長	グループ全体のデジタル戦略方針の策定、資源投入(コスト・体制など)の適正化、DX人材育成の方針の策定・推進を主な役割とする重要委員会です。直轄組織である情報推進委員会を通じ、グループ全体の情報セキュリティの維持、IT環境の整備、ITリテラシー教育およびIT活用の推進も行っています。

内部統制システム構築の基本方針（180KB）

経営アドバイザリーボード

経営の健全性、公正性、透明性を高め、より良く社会とお客様に貢献できるように助言・提言を得ることを目的に、代表取締役 社長執行役員の諮問機関として、社外の有識者により構成する経営アドバイザリーボードを設置しています。なお、経営アドバイザリーボードミーティングは、定例会を年間で2回開催しているほか、必要に応じて随時開催しています。

内部監査室

合法性と合理性の観点から、自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、内部監査を行っています。また、当社代表取締役 社長執行役員の指名に基づき財務報告に係る内部統制の有効性評価を行っています。

企業情報

企業情報トップ
トップメッセージ
基本方針
キユーピーの約束
コーポレート・ガバナンス
反贈賄基本方針制定について
消費者志向自主宣言
プライバシーポリシー
個人情報のお取り扱いについて
匿名加工情報のお取り扱いについて
会社概要

反贈賄基本方針制定について

キユーピーグループは、創始者である中島董一郎の「永い目で見ると、やはり誠実な人、道義を重んずる人が認められるというのが世の中であります」という言葉を大切にし、目先の損得にこだわらず「何が本当か、何が正しいのか」を判断基準として行動します。

キユーピーグループは、この行動の一環として、2015年に社是社訓・グループ規範を具体化した役員および従業員の重要な規範である「キユーピーグループ反贈賄基本方針」を制定しました。以来、この方針に則った贈賄防止の取り組みを進めています。

方針制定後、グループ従業員を対象とした実態調査と反贈収賄研修・社内教育活動を国内外で実施するとともに、本社および中国・東南アジア・日本国内のグループ会社など、主要各社における贈収賄行為禁止規程を制定しました。
この贈収賄行為禁止規程の運用によって贈賄防止を図るとともに、支払記録の保存や継続的なモニタリング、内部監査による反贈賄監査を実施し、また国内だけでなく海外にも内部通報窓口を設置することで、グループの贈賄防止体制を構築しています。

私たちキユーピーグループは、たとえ目先の利益獲得に繋がるとしても贈賄は行わず、社是社訓・グループ規範の心を明確にしたキユーピーグループ反贈賄基本方針に基づいて行動することを常に選択します。

2022年2月25日
キユーピー株式会社
代表取締役 社長執行役員
髙宮 満

キユーピーグループ反贈賄基本方針

贈賄禁止

私たちキユーピーグループ（以下「私たち」）は、キユーピーグループ（※1）の役員および従業員（※2）が、国の内外を問わず、公務員（※3）ほか利害関係人に対し、直接、間接を問わず、国内外の諸法令に反する贈賄行為（※4）を行うことを禁止します。

贈賄防止体制の構築

私たちは、キユーピーグループ反贈賄基本方針の制定と併せて、贈賄防止体制構築の必要性の高い子会社から順次、社内ルールの整備を行うとともに、内部通報窓口の設置、研修・社内教育活動の実施、継続的なモニタリングや内部監査による監査体制の整備などを行います。また、必要に応じて、経営層の関与の下、贈賄防止体制の有効性を評価し、定期的な見直しを行います。

支払記録の保管

私たちは、適切な内部統制システムの下で会計帳簿を事実に基づき正確に記録し、支払記録を適正に保管します。

懲戒

私たちは、仮に役員および従業員が贈賄を行ったことが明らかになった場合には、贈賄行為を行った役員および従業員を会社規則（就業規則等）に基づいて厳正に処分します。

代理人

私たちは、代理人（※5）に対しても、キユーピーグループ反贈賄基本方針を周知するとともに遵守を要請します。また、これに違反または違反するおそれが認められる代理人とは直ちに取引関係を解消します。

※1 キユーピーグループ：キユーピー株式会社および国内外の子会社を指します。
（なお、上場子会社であるアヲハタ株式会社につきましては、キユーピーグループ反贈賄基本方針の内容を共有しており、キユーピー同様の対応をお願いしております）

※2 役員および従業員：キユーピーグループで働く全ての役員・従業員（派遣社員、パートタイマー等の臨時雇用者を含みます）を指します。

※3 公務員：日本や進出国を含む当該国の政府又は地方公共団体の公務に従事する者、政府関係機関の事務に従事する者、公的な企業の事務に従事する者等であって特に権益を付与された者、国際機関の公務に従事する者、政府等から権限の委任を受けている者を指します。

※4 贈賄行為：取引などにおいて不当な利益を得るために、金品、飲食の接待や名誉・地位、視察旅行などの利益を提供し、約束し、申し出、承認する行為を指します。

※5 代理人：キユーピーグループが国内外での活動のために契約関係を結ぶ、代理店（エージェント）やコンサルタント、その他キユーピーグループに代わり又はその名の下に活動する者などの第三者を指します。

企業情報

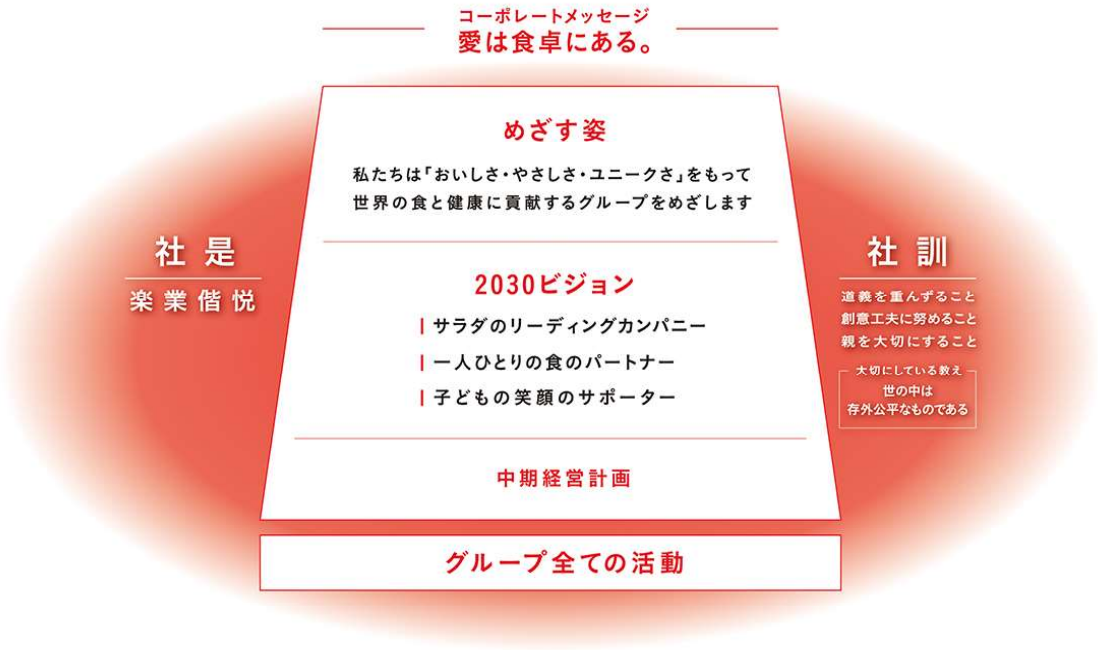
- 企業情報トップ
- トップメッセージ
- 基本方針 +
- キユーピーの約束 −
  - コーポレート・ガバナンス
  - 反贈賄基本方針制定について
  - 消費者志向自主宣言
  - プライバシーポリシー
  - 個人情報のお取り扱いについて
  - 匿名加工情報のお取り扱いについて
- 会社概要 +

消費者志向自主宣言

理念／経営の基本方針

創業以来受け継いできた社是・社訓を大切にしながら、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」で世界の人々の食と健康に貢献することをめざします。

【 理念・ビジョン・コーポレートメッセージの全体像 】



トップコミットメント

キユーピーグループならではの商品とサービスをお届けするとともに、社会課題の解決にも積極的に取り組みます。行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。

取り組み方針

みんなの声を聴き、かついかすこと

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を

高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待にお応えしていきます。

- お客様相談室では、お客様からいただいたお申し出を全件聴き取り、その内容を分析して関連部門に情報を共有しています。
- 品質保証本部長を委員長とする「お客様の声委員会」では、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催され、改善に必要な案件を審議決裁しています。また、その改善の進捗を報告してお客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認しています。

未来・次世代のために取り組むこと

キユーピーグループの食育活動は、創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神のもと、健やかな食生活の実現をめざし、食の大切さ・楽しさをお伝えする重要な活動として、社会貢献の中核に位置づけています。

- ライフスタイルや食生活の多様化が進む一方で、食を取り巻く社会的な課題がますます大きくなっています。従業員が自ら食育活動に関わり、お客様とのつながりを大切にしながら、幅広い世代の方に寄り添った食体験の場や食に関する情報発信をしています。
- キユーピーグループでは、サステナビリティ目標の重点課題の一つとして「食と健康への貢献」を設定し、目標達成に向けて取り組んでいます。
- 創始者の想いを大切にしながら、長年継続している活動や時代に合わせた新たな活動など、各世代に寄り添った食育活動を進めています。

法令の遵守/コーポレート・ガバナンスの強化をすること

キユーピーグループの理念を実践し、お客様をはじめとしたさまざまなステークホルダーの立場等を踏まえ、持続的な成長と企業価値の向上を実現するために、経営の透明性・公正性を高め、かつ迅速・果断な意思決定と実行に努めています。

- 人が生きていくうえで欠かすことのできない食を扱う企業グループとして、グループ規範に「品質第一主義」と掲げ、品質にこだわり、バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高め、安全・安心な商品をお客様にお届けするよう努めます。
- 人と地球にとって食のサステナビリティを実現することが重要と考え、健康的な食と栄養への取り組み、地球環境や社会課題等に配慮した原資材の活用等、価値観の多様化や社会環境の変化に適応した商品やサービスなど新たな価値の創出に努めます。

キユーピー株式会社
代表取締役 社長執行役員
髙宮 満

フォローアップ報告

こちらのPDFをご覧下さい。

2025年度_消費者志向自主宣言 活動報告（1528KB）

企業情報

企業情報トップ
トップメッセージ
基本方針
キユーピーの約束
コーポレート・ガバナンス
反贈賄基本方針制定について
消費者志向自主宣言
プライバシーポリシー
個人情報のお取り扱いについて
匿名加工情報のお取り扱いについて
会社概要

プライバシーポリシー

キユーピーグループプライバシーポリシー

キユーピー株式会社及びその日本国内グループ会社（グループ会社とは、会社法に定める子会社をいいます。以下総称して、「キユーピーグループ」といいます。主要なキユーピーグループ各社はコチラをご参照ください。）の個人情報の取扱いに関して本プライバシーポリシーを策定し、これを遵守するとともに、個人情報を安全かつ適切に取り扱うことを宣言します。
なお、グループ会社が、本プライバシーポリシーとは異なる事項を定めており、当該事項が本プライバシーポリシーと矛盾・抵触する場合は、当該事項が本プライバシーポリシーに優先して適用されるものとします。

1. 個人情報保護に関する法令及びその他の規範の遵守

キユーピーグループは、個人情報の保護に関係する日本の法令、その他の規範、ガイドラインを遵守いたします。

2. 個人情報の管理と継続的実施

キユーピーグループは、個人情報を適切に保護するために、その保管方法を始めとする管理体制や取扱い方法を定め、個人情報統括責任者を任命し、役員及び従業員（臨時従業員、派遣社員などを含む）、その他関係者に周知徹底させて実行いたします。また、管理方法の見直しを継続的に行ってまいります。

3. 役員・従業員教育の実施

キユーピーグループは、役員・従業員に対し個人情報の取扱いに関する教育を定期的に実施し、個人情報の保護を徹底いたします。

4. 情報セキュリティの実施

キユーピーグループは、情報の漏洩や改ざん等の危険を防止するため、情報セキュリティポリシーを策定、運用し、安全対策に努めてまいります。

5. 個人情報の入手

キユーピーグループは、個人情報を適法かつ公正な手段により取得いたします。また、入手の際にはあらかじめその目的と利用範囲をお知らせいたします。

6. 個人情報の利用

キユーピーグループは、ご提供いただいた個人情報の利用につき、あらかじめお知らせ又は公表した利用目的の範囲を遵守いたします。

7. 個人情報の提供

(1) キユーピーグループは、法令等により例外が認められた場合を除き、個人情報をご本人の同意なしに第三者に開示・提供することはありません。

(2) キユーピーグループは、個人情報を取り扱う業務を委託することがあります。その場合、委託先の管理能力を十分検討し、個人情報に関する取り決めを行い、監督し、個人情報の安全管理を徹底いたします。

(3) キユーピーグループ内で個人情報を共同利用する場合には、個人情報の安全管理を徹底するとともに、必要な措置を講じます。

8. 個人情報のお問い合わせ等の対応

キユーピーグループは、キユーピーグループが管理している個人情報に関する苦情、相談、又はその他のお問い合わせに対して適切かつ迅速に対応いたします。また、ご本人から利用目的の通知・開示・訂正・利用停止等、又は第三者への提供の停止のお申し出があったときは、所定の手続に従い、法令に基づいて必要な対応をいたします。

2022年9月28日改訂

個人情報のお問い合せ先：キユーピー株式会社お客様相談室

フリーダイヤル 0120-14-1122 | 受付時間 10:00～16:30 (土・日・祝日は除く)

メールでのお問い合せ

個人情報のお取り扱いについて

匿名加工情報のお取り扱いについて

個人情報のお取り扱いについて

当社（キユーピー株式会社）は、お客様、お取引先様、株主様、役員・従業員等（以下、総称して、「お客様等」といいます。）の個人情報、その他のプライバシーに関連する情報の重要性を認識し、以下の「個人情報のお取り扱いについて」に基づきお客様等の個人情報等を取り扱います。

1. 個人情報の利用目的

当社は、ご提供いただいた個人情報を、お客様等の同意なく利用目的を超えて利用することはいたしません。なお、当社が想定している利用目的の範囲は、以下のとおりです。

お客様の個人情報

当社は、取得するお客様の個人情報を、以下の目的で利用します。

(1) キャンペーン・アンケート調査の実施及び賞品・謝礼の発送・提供
(2) 商品・サービス・イベントに関するご案内
(3) 商品・サンプル品・資料・情報の送付
(4) 商品・サービスの販売、配送、代金のご請求、お支払等に係る業務の遂行
(5) 会員制サービスに登録いただいた方へのサービスの提供・管理
(6) 工場見学・試食会・イベントの実施及びご連絡
(7) 商品・サービスの改善、新商品・新サービスの開発やマーケティング活動のための、年齢、住所、対象サービスのお申込み履歴及びご利用履歴等を集計した統計情報の作成
(8) 商品・広告・その他に関するお問い合わせ・ご指摘をいただいた方へのご返答（お客様からいただく各種お問い合わせ等の内容に応じて、お客様が指定され、又は当社が適当と判断する主体［キユーピーグループを含みますがこれに限られません。］に対してお問い合わせ等の情報を共有し、対応することを含む。）

当社は、当社が提供する各種サービスにおいて、お客様の利便性向上やより適したサービス提供を実現するため、kewpie IDのご登録をいただいております。
当社は、お客様にご登録いただいたkewpie IDの登録及び利用に関するお客様の個人情報のほか、対象サービスにおいて登録し、又はこれを利用することに伴って生じるお客様の個人情報、キユーピーマヨネーズファンクラブの活動履歴（そのウェブサイトの閲覧履歴、商品・サービスの購買履歴等）、及び当社が実施するアンケートの結果をkewpie IDによって統合しております。
これらkewpie IDをご利用のお客様に関する個人情報の具体的な利用目的や、外部データとの連携等のお取り扱い詳細については、専用ページを設けております。該当するお客様は以下よりご確認ください。
kewpie IDに関する個人情報のお取り扱いについて

お取引先様の個人情報

当社は、取得するお取引先様の個人情報を、以下の目的で利用します。

(1) 業務上・契約上の必要な情報の収集・ご挨拶・ご連絡・ご案内
(2) 取引に関する義務の履行及び権利の行使
(3) 商品・サービス・イベントに関するご案内
(4) 商品・サンプル品・資料・情報の送付
(5) アンケート調査の実施
(6) 工場見学・試食会・イベントの実施及びご連絡
(7) 商品・サービスの改善、新商品・新サービスの開発やマーケティング活動のための、年齢、住所、対象サービスのお申込み履歴及びご利用履歴等を集計した統計情報の作成
(8) 商品・広告・その他に関するお問い合わせ・ご指摘をいただいた方へのご返答（お取引先様からいただく各種お問い合わせ等の内容に応じて、お取引先様が指定され、又は当社が適当と判断する主体［キユーピーグループを含みますがこれに限られません。］に対してお問い合わせ等の情報を共有し、対応することを含む。）

株主様の個人情報

当社は、取得する株主様の個人情報を、以下の目的で利用します。

(1) 会社法等の法令に定める株主様の管理及び株主様への配布物・ご優待品の発送
(2) 工場見学・試食会・イベントの実施及びご連絡
(3) 当社に関するお問い合わせ・ご指摘をいただいた場合のご返答（株主様からいただく各種お問い合わせ等の内容に応じて、株主様が指定され、又は当社が適当と判断する主体［キユーピーグループを含みますがこれに限られません。］に対してお問い合わせ等の情報を共有し、対応することを含む。）

役員・従業員等の個人情報

当社は、取得する役員・従業員等の個人情報を、以下の目的で利用します。

(1) 採用募集・インターンシップに応募いただいた方の採用審査及び事務手続き
(2) 従業員の労務・雇用管理及びその他会社が業務上必要とする手続き
(3) 従業員の家族への情報提供・配布物の送付
(4) 退職者へのご連絡及び情報提供・配布物の送付
(5) 問い合せ・指摘を受けた場合のご返答（役員・従業員等から受ける各種問い合わせ等の内容に応じて、役員・従業員等が指定し、又は当社が適当と判断する主体［キユーピーグループを含みますがこれに限られません。］に対して問い合わせ等の情報を共有し、対応することを含む。）
(6) 採用募集・インターンシップに応募いただいた方について、(5)に準じた対応を行うこと

2. 個人情報の共同利用

当社は、ご提供いただいた個人情報を、「キユーピーグループプライバシーポリシー」に定めるキユーピーグループ間（役員・従業員等の個人情報に関してはキユーピーグループに加えて株式会社中島董商店及びそのグループ会社を含みます。）で以下のとおり共同利用する場合があります。

共同利用する個人情報の項目	共同利用の目的
お客様の氏名、住所、郵便番号、電話番号、性別、生年月日、メールアドレス	1.キャンペーン・アンケート調査の実施及び賞品・謝礼の発送・提供 2.商品・サービス・イベントに関するご案内 3.商品・サンプル品・資料・情報の送付

	4.商品・サービスの販売、配送、代金のご請求、お支払等に係る業務の遂行 5.会員制サービスに登録いただいた方へのサービスの提供・管理 6.工場見学・試食会・イベントの実施及びご連絡 7.商品・広告・その他に関するお問い合わせ・ご指摘をいただいた方へのご返答
お客様から入手した商品・サービスに関するアンケート調査の結果	商品・サービスの改善、新商品・新サービスの開発やマーケティング活動のための、年齢、住所、対象サービスのお申込み履歴、及びご利用履歴等を集計した統計情報の作成
お取引先様の氏名、住所、郵便番号、電話番号、性別、生年月日、メールアドレス	1.業務上・契約上の必要な情報の収集・ご挨拶・ご連絡・ご案内 2.取引に関する義務の履行及び権利の行使 3.商品・サービス・イベントに関するご案内 4.商品・サンプル品・資料・情報の送付 5.工場見学・試食会・イベントの実施及びご連絡 6.商品・サービスの改善、新商品・新サービスの開発やマーケティング活動のための、年齢、住所、対象サービスのお申込み履歴及びご利用履歴等を集計した統計情報の作成 7.商品・広告・その他に関するお問い合せ・ご指摘をいただいた方へのご返答
キユーピーグループ役員・従業員等の氏名、住所、郵便番号、電話番号、性別、生年月日、メールアドレス	1.採用募集・インターンシップに応募いただいた方の採用審査及び事務手続き 2.従業員の労務・雇用管理及びその他会社が業務上必要とする手続き 3.従業員の家族への情報提供・配布物の送付 4.退職者へのご連絡及び情報提供・配布物の送付 5.問い合せ・指摘を受けた場合のご返答 6.採用募集・インターンシップに応募いただいた方について、5.に準じた対応を行うこと

共同利用する個人情報の管理について責任を有する者の名称、住所、及び代表者氏名

キユーピー株式会社　〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-4-13
代表者についてはこちらに記載の代表取締役 社長執行役員をご覧ください。

3. 個人情報の第三者提供について

当社は、法令による場合、「個人情報の利用目的」のために必要な限度で個人情報を第三者へ提供する場合（例：商品・サービスの代金支払いに伴う決済事業者・決済代行事業者への必要な情報の共有）又は「Cookieポリシー」に記載の目的のために必要な限度でCookieに関する情報を第三者へ提供する場合のほか、お客様等の同意を得ることなく、お客様等の個人情報を第三者に提供することはございません。

当社は、お客様にご同意頂いた場合、統合分析結果を取得する目的で、kewpie IDを保有するお客様のメールアドレス等の個人情報を当社が提携するデータ提供会社に提供します。当該データ提供会社は、当社から提供を受けた情報に、同社が保有する購買履歴情報等のお客様の個人情報を付加した上で、当社に提供します。当該データ提供会社は、当社が統合分析結果を取得する目的のために限って個人情報を利用し、この目的を達成した後は、速やかにお客様の個人情報を削除します。

4. Cookieについて

Cookieについては、当社Cookieポリシーをご参照ください。

5. 個人情報の安全管理について

当社は、お客様等の個人情報の漏えい、滅失、毀損、その他の個人情報の安全を損なう事態を防止するために、個人情報の安全管理が図られるよう、個人情報の保護に関係する日本の法令、その他の規範、ガイドライン、及び「キユーピーグループプライバシーポリシー」等を遵守するとともに、以下の措置を講じております。

組織的安全管理措置

- 個人情報統括責任者を任命するなど、個人情報保護のための組織体制の整備
- 個人情報保護規程等の整備と規程等に則った運用 等

人的安全管理措置

- 役員及び従業員（臨時従業員、派遣社員などを含む）、その他関係者に個人情報の保管方法をはじめとする管理体制や取扱い方法を周知徹底させて実行すること

物理的安全管理措置

- 個人情報取扱区域で、権限を有しない者が個人情報を閲覧することを防止する措置を実施
- 機器・装置等の物理的な保護 等

技術的安全管理措置

- 個人情報を取り扱うシステムのアクセス制御
- 個人情報を取り扱うシステムの監視 等

外的環境の把握

- 個人情報を保管している国における個人情報の保護に関する制度を把握した上で安全管理措置を実施

その他

- 個人情報を取り扱う業務の委託先の管理能力を十分検討し、個人情報に関する取り決めを行い、監督し、個人情報の安全管理を徹底

6. 個人情報の開示等のお手続きについて

当社の個人情報に関する開示、訂正、追加又は削除、利用停止・消去、第三者への提供の停止、利用目的の通知、及び第三者提供記録の開示（以下、「開示等」といいます。）については、以下のお手続きに従ってお申し出いただきますようお願い申し上げます。

(1) 以下のお問い合わせ先に、お客様のお名前、ご住所、及び開示等を希望する旨をお知らせください。

個人情報のお問い合せ先：キユーピー株式会社お客様相談室

フリーダイヤル 0120-14-1122 | 受付時間 10:00～16:30（土・日・祝日は除く）

メールでのお問い合せ

(2) お知らせいただいたご住所に、当社より開示等請求フォーマット及び請求の仕方を記載したお手紙をお送りいたします。

(3) お送りしたフォーマットに従って必要事項をご記入いただき、以下のとおりご返送ください。

ご返送いただくもの	1.開示等請求フォーマット 2.ご本人様確認書類 (運転免許証・パスポート・保険証・年金手帳のうちいずれか1点のコピー) 3.手数料(切手1,000円分) ※ 本籍地が記載されているご本人様確認書類をご同封いただく場合は、本籍地部分が見えないように隠してコピーをお取りくださいますようお願い申し上げます。
宛て先	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-4-13　キユーピー株式会社　個人情報保護担当 ※ 封筒の表には、朱書きで「個人情報開示等請求書類在中」とお書きください。 ※ 代理人からのご請求について 法定代理人、その他の代理人から開示等のご請求をいただく場合は、前述の書類のほか、代理権を確認できる書類に加え、代理人の本人確認書類をご送付いただくことが必要になります。詳細につきましては、開示請求フォーマットに同封するお手紙をご参照ください。

(4) ご返送いただいたフォーマット及び本人確認書類により、ご本人様からのお申し出であることが確認できましたら、お客様の個人情報をお調べし、開示等の対応を行います。

※ フォーマットの記載事項に不足があった場合は、確認にお時間を頂戴する、又は開示等のお申し出に対応できない場合がございますのでご了承ください。
※ ご本人様からのお申し出であることが確認できなかった場合にはご返答申し上げることができませんのでご了承ください。
※ 直接ご来社いただいてのお申し出はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

(5) お調べした結果については、後日ご連絡申し上げます。なお、本人確認書類につきましては、確認が済み次第速やかに廃棄いたします。

7. お問い合わせ

当社の個人情報の取り扱いに関するご質問、ご相談、その他のお問い合わせについては、以下までご連絡ください。

個人情報のお問い合せ先：キユーピー株式会社お客様相談室

フリーダイヤル 0120-14-1122　受付時間 10:00～16:30 (土・日・祝日は除く)

メールでのお問い合せ

2026年6月18日改訂

企業情報

企業情報トップ
トップメッセージ
基本方針
キユーピーの約束
コーポレート・ガバナンス
反贈賄基本方針制定について
消費者志向自主宣言
プライバシーポリシー
個人情報のお取り扱いについて
匿名加工情報のお取り扱いについて
会社概要

匿名加工情報の取扱いについて

当社は、次に掲げるとおり匿名加工情報を作成し、第三者に提供いたします。また、当社は、今後も継続的に同様の匿名加工情報を作成し、第三者に提供することを予定しております。

(1) 匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目

(a) お客様に関する情報

・居住市区町村
・郵便番号
・性別
・年齢
・生年月日
・購買履歴
・職業
・料理頻度
・家族情報（同居人数・子どもの人数等）
・アンケート結果（特定の個人を識別することができる記述等は削除）

(b) 研究の過程で発生する被験者に関する情報

・年齢
・身体測定の結果（身長・体重等）
・バイタルデータ（血圧等）

(c) 研究の過程で発生する被験者に関する情報

・所属部署
・資格情報
・職歴・休職情報
・研修の受講履歴

(2) 匿名加工情報の提供の方法

サーバーへのアップロード　等

(3) 匿名加工情報の安全管理措置等の適正な取扱いを確保するために必要な措置

当社は、匿名加工時のガイドラインを作成し、当該ガイドラインに従って匿名加工情報を取り扱うことで、匿名加工情報の安全管理措置等の適正な取扱いを確保するために必要な措置を講じています。

匿名加工情報に関するお問い合わせは、「お問い合わせ」までご連絡ください。

2024年5月7日改訂

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
倫理規範
コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ

リスクマネジメント

リスクの評価・選定　リスクマネジメント体制　主なリスクマネジメント活動

リスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

経営への影響度が大きいにも関わらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

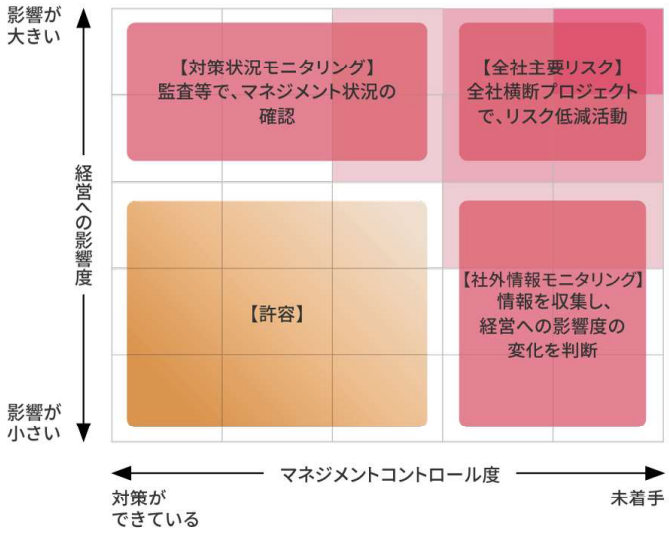
対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロール度が高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。

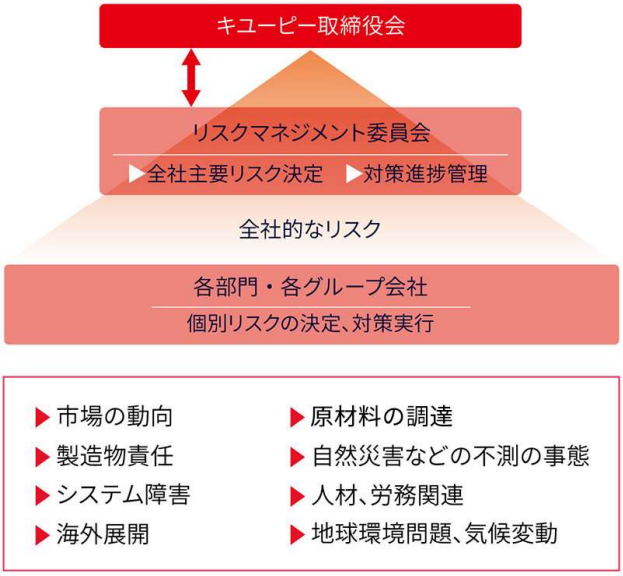
リスクの評価



リスクマネジメント体制

キユーピーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会※で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の8つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。

キユーピーグループのリスクマネジメントの体制と全社主要リスク



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当取締役が定期的に取締役会へ報告しています。

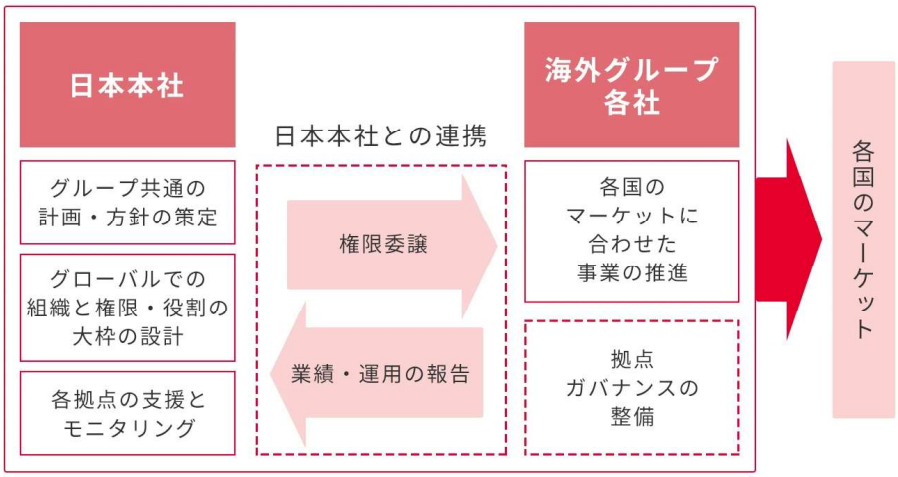
※リスクマネジメント委員会は、キユーピー(株)経営会議メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、キユーピーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。

※地球環境問題、気候変動については、サステナビリティ委員会で対応しています。

主なリスクマネジメント活動

グローバルガバナンスの強化に向けた取り組み「海外ガバナンスプロジェクト」

キユーピーグループは「海外ガバナンスプロジェクト」を始動させ、急速に進むグローバルな事業展開を安全かつ円滑に支える基盤として、グローバルガバナンスの強化に取り組んでいます。
グローバル共通で策定される計画・方針のもと、海外グループ各社がそれぞれの状況に応じた適正な業務運営体制を構築することを基本的な考え方として、グローバルガバナンス体制の構築を進めています。



グローバルガバナンス・ガイドライン(GGG)の策定

キユーピーグループのグローバルガバナンスのめざす姿・基本方針とそれにもとづく体制・活動の全体像を明確にするため、「グローバルガバナンス・ガイドライン(GGG)」を策定しました。GGGにもとづき、各階層・各コーポレート領域の体制・機能の強化を進めています。

現地への権限委譲の推進

キユーピーグループは、国やリージョンによって大きく異なる食文化を深く理解し、それにしっかり寄り添った商品・サービスを提供するため、それぞれのガバナンスの整備度合いに応じて段階的に、現地への権限委譲を進めています。

日常的なガバナンス活動の推進

適正かつ迅速な意思決定と事業推進を支えるため、各コーポレート領域の日常的なガバナンス活動の強化を進めています。日本本社が各コーポレート領域のグループ共通の計画・方針を策定して現地を支援・モニタリングする一方、現地は主体的にそれぞれの状況に合った日常的なガバナンス活動の強化を進めています。

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画(BCP)

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を生かして、キユーピーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し対策に取り組んでいます。
主に下記について備えています。

- 東京の本社機能を関西で代替するための体制の維持
- 非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄
- 生産設備や物流設備の耐震補強
- 生産設備の状態を確認するシステムの整備
- 主要商品の生産拠点や原資材の調達の二拠点化、受注機能の二拠点化
- 全国規模で在宅勤務へ移行できる体制の維持

対策本部会議の様子

危機発生の種類ごとにマニュアルを整備し、それらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練(初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練)を行っています。
これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように備えています。

ランサムウェア※リスクへの対応

国内外でランサムウェアによる企業への攻撃が増加しており、キユーピーグループでもリスクの認識を高め、対応を講じています。
緊急時を想定し、攻撃を受けた際に対応できる環境構築を進めています。ハード面の強化策として、全パソコン、全サーバに対しマルウェア対策を進めるとともに、ソフト面の強化策では、全従業員に対し継続的な社内教育プログラムの実施、および攻撃メールの模擬訓練を実施するなど、従業員へのセキュリティ認識向上にも取り組んでいます。

※感染すると端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にしたうえで、搾取データ開示の脅しだけでなく、復号する対価として金銭を要求する不正プログラム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 −
  - 品質保証体制
  - 商品品質の取り組み
  - バリューチェーン品質の取り組み
  - サプライヤー品質の取り組み
  - 品質基盤の強化
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体

品質と安全・安心

私たちは「食品を作る者は正直であれ」という創始者の思いを100年間、受け継いでまいりました。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様との信頼を大切に、その期待に応えてまいります。

品質保証体制

品質第一主義を貫き、「こころ・しくみ・技術」で全量保証体制の構築に取り組んでいます。

商品品質の取り組み

「トラブルを発生させない、流出させない」を徹底し、安全・安心な商品をお届けします。

バリューチェーン品質の取り組み

商品開発マネジメントの取り組みとともにお客様の声をより良い商品・サービスにいかしています。

サプライヤー品質の取り組み

パートナー企業と一丸となって原料・製造委託品・資材の品質保証を構築しています。

品質基盤の強化

スマートQA（デジタル活用）、人材育成、組織体制整備、食品安全・品質文化醸成により品質向上に取り組んでいます。

キユーピーについてもっと知る

キユーピーグループオフィシャルブログ

従業員より、社会・環境への取り組みを発信しています。

食育活動

キユーピーの食育活動についてご紹介します。

社会・環境活動の歴史 ›

キユーピーグループ
オフィシャルブログ ›

グループ各社の
サステナビリティ活動 ›

研究開発

キユーピーの研究開発について
てご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 −
  - 品質保証体制
  - 商品品質の取り組み
  - バリューチェーン品質の取り組み
  - サプライヤー品質の取り組み
  - 品質基盤の強化
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体

品質保証体制

食品安全・品質方針　「こころ・しくみ・技術」で全量保証体制実現へ
品質保証・品質向上の取り組みの全体像

食品安全・品質方針

私たちは行動規範である「品質第一主義」を貫き、それぞれの「全量保証体制」の構築を推進します。

行動指針

1. お客様・関連法規制の要求事項、社内ルールへの適合【ルール順守】
2. 食品安全マネジメントシステムの定期レビューと継続的な改善【改善】
3. ステークホルダーとのコミュニケーション活動【コミュニケーション】
4. 食品安全・品質の保証に必要な知識・技術の習得・追究【力量】

「こころ・しくみ・技術」で全量保証体制実現へ

キユーピーグループ全体で「こころ」と「しくみ」と「技術」の視点で「全量保証体制」の構築に取り組んでいます。
「全量保証体制」とは、「異常、トラブルを発生させない」「万が一発生しても自分たちで気づいて流出させない」体制であり、お客様に安心していただける商品を提供していきます。

こころ（品質第一の行動）

品質第一主義のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼に応える取り組みを行い、食品安全・品質文化の醸成を図っています。

一緒に働く仲間との挨拶・会話・対話の場などを通じてコミュニケーションを図り、「何かおかしい」と感じた時に「おかしい」と言える風通しの良い職場づくりに努めています。

しくみ（リスク管理と再発防止）

品質トラブル再発防止力

私たちは、グループで過去に経験した品質トラブルや品質リスクを共有し、同様のトラブルを発生させない「発生防止」と、万が一発生した場合でも後工程に流出させない「流出防止」の観点で未然防止活動に取り組んでいます。
グループ品質責任者会議を定期的に開催し、取り組みの推進とレビューを行っています。

リスク抽出力・対応力

食品安全に関する第三者認証の導入（FSSC22000等）

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI承認スキーム※と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。
外部機関の審査を定期的に受けることによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つめ、改善することで、継続的な食品安全・品質レベルの維持・向上を実現しています。

※2000年5月に設立された非営利団体「GFSI（世界食品安全イニシアチブ）」により、食品安全の基準を満たしていると承認された認証規格のことです。オランダ発祥のFSSC 22000やアメリカ発祥のSQFなども、このGFSI承認スキームに含まれます。

全員参画で取り組む品質改善力

わくわくアワード

キユーピーグループでは「お客様と従業員の笑顔につながる品質向上活動」に取り組んでおり、その成果を共有する場として「わくわくアワード」を毎年開催しています。
国内外から選び抜かれたチームにより、改善活動の共有を行い、グループのユニークなさらなる業務品質・商品品質の向上につなげていきます。

「ピカピカ活動」「夢多“採り（むだどり）活動」

グループのユニークな品質向上の取り組みとして、製造現場の正常と異常を見える化するための「ピカピカ活動」や、全員参画の品質向上活動「夢多〝 採り活動」を展開しています。

技術（人材育成・生産技術・分析技術）

人材育成

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての生産部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。
商品の品質管理の入門から応用まで体系的に学べるカリキュラムを整えており、修了したメンバーは各部署の現場でさらに技術を磨き、品質保証体制の向上に努めています。
一人ひとりの学びと実践を積み重ねることで、お客様の安全・安心を支えるものづくりを実現し、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

生産技術（安全・安心）

生産性、品質保証力の向上を目的としたスマートファクトリー化の取り組みを行っています。生産工程に機械・ロボットを導入し、生産効率の向上と生産に携わる人のゆとりを創出し、品質改善につなげています。
また、デジタル活用により、生産時のリアルタイム品質保証体制の構築に取り組んでいます。

分析技術（食品安全科学センター）

キユーピーグループには、分析データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門を設置しています。お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。

危害物質の分析（化学物質、微生物、異物）

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬・動物用医薬、アレルゲン、放射性物質などの定期検査を行っています。工程や商品において、微生物や異物が検出された場合には、お客様の安全や他の商品に影響がないか判断するために、それが何か、由来はどこかを探る分析を行います。

1.成分の抽出・調製

2.分析機器による測定

3.分析結果の解析

品質評価の取り組み

マヨネーズの主な原料である油や卵は、農畜産物を加工したものであり、干ばつや酷暑などの生産環境や加工工程の変更により供給量や品質が変化します。自社分析を行うことで品質の変化を捉え、調達先と協働して持続可能な原料の調達と使いこなしに取り組んでいます。

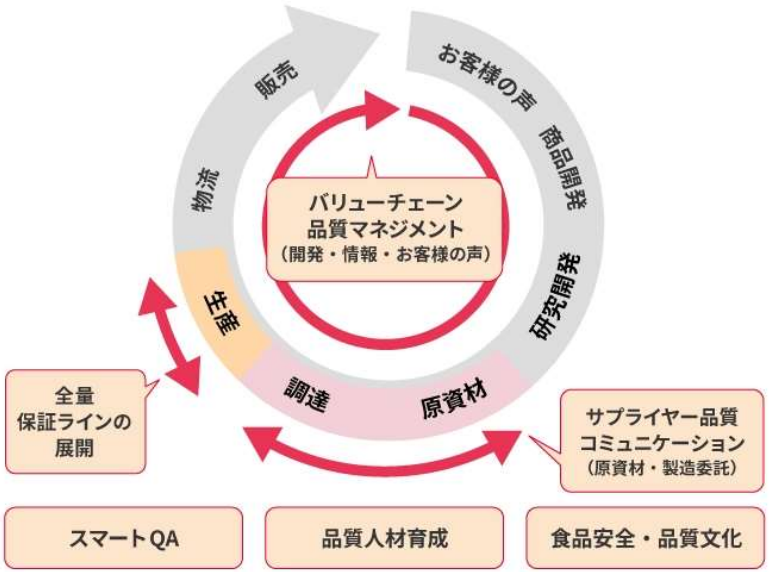
新技術の導入

食品の中に含まれる微生物の同定※に関する技術は、近年急速に進歩しています。かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。
こうした技術の変化に対して、有効な手法を積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。

※微生物の種類を特定すること。

品質保証・品質向上の取り組みの全体像

キユーピーグループは、「食品を作る者は正直・誠実であれ」「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えのもと、バリューチェーン全体で「全量保証体制」を構築しています。私たちの品質マネジメントの核は「お客様の声」にあります。研究開発から調達、生産、販売に至る各プロセスが緊密に連携し、デジタル活用や人材育成を通じて、日々お客様にお届けする価値の向上と、揺るぎない食品安全・品質文化の醸成を図っています。



商品品質の取り組み ›
バリューチェーン品質の取り組み ›
サプライヤー品質の取り組み ›
品質基盤の強化 ›

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
品質保証体制
商品品質の取り組み
バリューチェーン品質の取り組み
サプライヤー品質の取り組み
品質基盤の強化
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体

商品品質の取り組み

全量保証ラインの展開

「全量保証体制」とは、「異常、トラブルを発生させない」「万が一発生しても自分たちで気づいて流出させない」体制のことで、品質等に関わる6つのリスク（異物、微生物、配合・アレルゲン、日付、資材、フードディフェンス）を中心に、グループ全体でリスクレビューと改善の取り組みを実施しています。また、デジタル化・データ活用によるリアルタイム全量保証に取り組んでいきます。
グループの海外工場においてもグローバルガバナンスガイドラインと連動し、国内と同様に「全量保証体制」（Total Process Assurance）構築の取り組みを展開しています。

6つのリスク

1. 異物混入防止

異物が混入する要因としては、使用する原料への混入、人からの混入（毛髪など）、使用設備からの混入などが挙げられます。原料の使用前検査や、毛髪混入防止の徹底（作業着の工夫、エアーシャワー、粘着ロール）、設備の定期的なメンテナンス・使用前後確認などを徹底し、異物の混入を防いでいます。
最終製品については、金属検出機やX線検査装置、ストレーナー（ろ過器）等を設置し、異物混入がないことの確認を行っています。

2. 微生物トラブル防止

微生物の増殖による食中毒の発生や品質劣化を防止するため、HACCP（ハサップ）と呼ばれる食品衛生上の危害の発生を防止するための取り組みを実施しています。また、微生物トラブル防止のための3つの考え方となる「つけない」「ふやさない」「やっつける」に沿った取り組みを実施し、定期的な検査を行って安全性および品質の確認をしています。

3. 配合保証

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合トラブル 未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができるしくみです。
さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合トラブル 未然防止システム」です。

4. 日付トラブル防止

消費期限（安全に食べられる期限）や賞味期限（おいしく食べられる期限）は、商品の安全を守り、お客様に安心して食べていただくための重要な情報です。この日付印字を間違いなく、確実に表示するため、人によるチェックや検査カメラによるチェックなどを実施しています。

5. 包装資材トラブル防止

製造工場ではさまざまな種類の商品を製造しており、その中には、外観が似た商品パッケージなどがあります。商品パッケージには、原材料情報やアレルゲン表示など、お客様の商品選択にとって重要な情報が記載されており、包装資材の間違いは、食品安全事故につながる重大な内容です。人による確認のほか、カメラによる検査などにより、使用する資材が間違いのないようなしくみを構築しています。

6.フードディフェンス

私たちは以下の基本方針に基づいて、意図的な異物混入を防ぐ対策をとっています。

1.製造現場内には決められた者しか入れない
2.意図的な悪戯をさせない
3.問題ないことを後から証明できる
4.従業員との対話を大切にする

意図的な異物混入防止対策 一例

製造現場への入室管理
静脈認証や暗証番号などで管理し、関係者以外は入室できないようになっています。

薬品庫、屋外タンクの鍵管理
社員証がなければキーボックスを開錠できません。さらに、鍵は誰がいつ持ち出し、いつ返却したかも記録されます。

安心カメラ
万が一の不測の事態の際に、当時の製造状況を確認し、安全・安心が証明できるようにしています。

マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全・安心なマヨネーズをお届けするため、全量保証体制をもって細部にまでこだわり製造しています。

1. 割卵
キユーピー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61℃×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。

2. 調合
マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。
油の粒は1000分の2～4mm。手作りよりもキユーピー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。

3. ボトルの口部をカット
マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。

4. 充てん
マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。

5. キャップじめ・印字
マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。

6. 包装・箱詰め
できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、箱に決められた本数が入っているか、全数確認します。

7. 出荷
グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 −
  - 品質保証体制
  - 商品品質の取り組み
  - バリューチェーン品質の取り組み
  - サプライヤー品質の取り組み
  - 品質基盤の強化
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体

バリューチェーン品質の取り組み

商品開発マネジメント　表示の見方　お客様の声

商品開発マネジメント

さまざまなお客様に対し、価値を創出しお届けしていくために、食品安全・食品品質の確保が重要です。私たちは、グループの各部門で連携し、新商品創出のしくみの改善を繰り返し、商品開発のマネジメントをより高め、顧客創造プロセスの進化につなげていきます。

商品表示・商品情報

商品表示・商品情報の提供

商品に関する適切な情報提供は、お客様・お取引先の皆様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。品質保証部門と各部門で連携し、法令の遵守および正確な情報提供を行う体制を構築しています。

商品表示への取り組み

食品の表示には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。

- 義務表示
  義務表示については、法令に則った間違いない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。
- 任意表示
  お客様によりわかりやすい情報を提供するために、キユーピーグループで独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。

マヨネーズの裏面表示

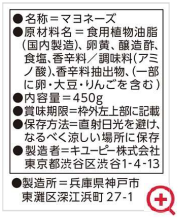
裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。
※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

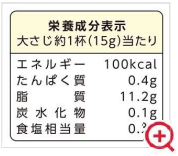
実際の商品

裏面表示

一括表示

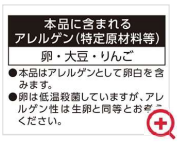


栄養成分表示

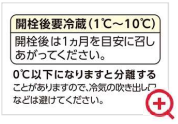


賞味期限

アレルゲンアイコン

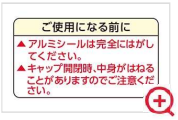


ご使用中の注意事項

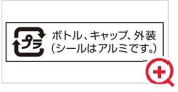


お客様相談室のフリーダイヤル

ご使用になる前に



リサイクル表示



JASマーク

公正マーク

ベルマーク

ドレッシングの裏面表示

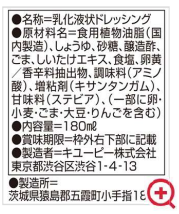
裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。
※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

実際の商品

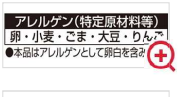
裏面表示

一括表示

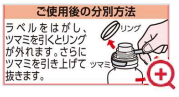


あけ方

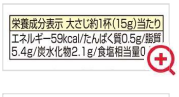
アレルゲンアイコン



中栓の分別方法



栄養成分表示



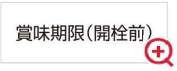
ドレッシングの振り方

その他お伝えしたいこと

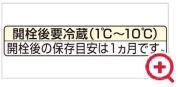
キユーピーグループecoラベル

お客様相談室のフリーダイヤル

リサイクル表示



賞味期限



ご使用中の注意事項

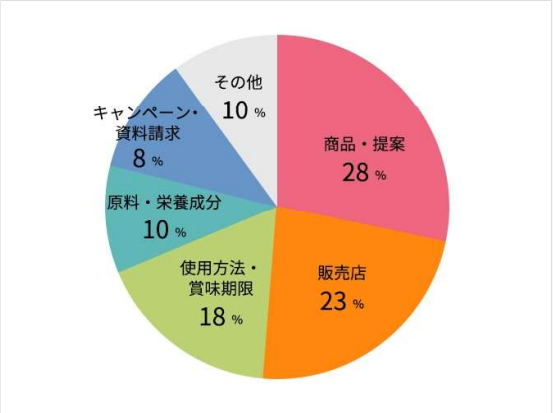
お客様の声

お客様からお寄せいただくご意見やご要望はとても貴重です。
お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう、努めています。
また、いただいたお声は詳細に分析・共有し、商品やサービスのさらなる改善・開発へ反映しています。

お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移

2025年度 お問い合わせ内容



お客様相談室での対応

お客様からは、商品の見直しやサービス向上につながる貴重なご指摘・ご要望を日々いただいています。こうしたお声を社内で共有し、より良い商品・サービスの提供に活かしています。

1. お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。

2. 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。

3. お客様の声委員会で審議

定期的に開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議しています。

4. 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。

5. 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。

6. 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を活かした新しい商品が完成します。

お客様の声に関する情報

お客様相談室

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、お客様の声を生かした商品改善例の掲載を行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
品質保証体制
商品品質の取り組み
バリューチェーン品質の取り組み
サプライヤー品質の取り組み
品質基盤の強化
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体

サプライヤー品質の取り組み

原料・製造委託品の品質　資材の品質

原料・製造委託品の品質

良い商品は良い原料からしか生まれない

キユーピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキユーピー創始者である中島董一郎の想いを大切に、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、全段階で品質第一主義を徹底しています。すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

良い原料を入手するために大切にしていること

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。新規のお取引の場合には、私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。

原料メーカー・製造委託先との品質コミュニケーション

「生産者・原料メーカー・製造委託先と共に品質をつくり上げる」という信念のもと、パートナー企業と一丸となって品質保証体制を構築しています。

現場確認の徹底

原料メーカーや製造委託先へ定期的に訪問し、品質保証体制の確認・検証を行っています。

独自の受入検査

食用油などの主要原料は、納品前に自社で検査を実施し、合格したもののみを受け入れています。

農薬・肥料の管理

肥料や農薬の管理記録を入手し、残留農薬が適正に管理されていることを確認しています。

自主点検の実施

全てのサプライヤーに対し、毎年、キユーピーグループで定める品質管理項目の自主点検の実施とフィードバック改善の取り組みを展開し、定期的な品質保証体制の確認を行っています。

マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキユーピー マヨネーズの主要原料として卵黄、植物油、卵の3つを使用しています。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。

卵の鮮度チェック

植物油

キユーピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キユーピースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。

事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック

輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

酢

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。

マヨネーズ専用酢を作っているキユーピー醸造株式会社

発酵タンク

資材の品質

キユーピーグループ 容器包装選定の基本方針

キユーピーグループ 容器包装選定の基本方針

1. 食品の容器として適切であること
2. 環境汚染物質を発生させないこと
3. 省資源・省エネルギーに努め、多重包装はなくすこと
4. リサイクルへの適正を向上させ、促進すること
5. 環境に配慮した包装技術の確立に努めること

容器包装の品質

品質評価

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。
内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。また、機能性評価や安全性評価は資材メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。

おいしさを守る

容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。

赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。

商品の中身を守る

上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。

流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

安全に快適にお使いいただく

マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。

ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キユーピー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。

口部はアルミシールで酸素を遮断しています（1988年から）。

ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています（1972年から）。さらにキユーピーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます（2005年から）。

資材品質・資材メーカーとのコミュニケーション

容器包装について、日々の会話や工場訪問などを通じて資材メーカーの皆様とのコミュニケーションを大切にしています。社内外の関係部署と協働し、法令順守はもとより機能性や地球環境に配慮した包装設計を進めています。
資材メーカーでの材料変更や製造工程の変化に対しても、機能性やお客様の使い勝手に変化が生じないか必要な評価を行い問題ないことを確認しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント +
資源の有効活用・循環 +
気候変動への対応 +
生物多様性の保全 +
食と健康への貢献 +
持続可能な調達 +
人権の尊重 +
ガバナンス +
品質と安全・安心 −
品質保証体制
商品品質の取り組み
バリューチェーン品質の取り組み
サプライヤー品質の取り組み
品質基盤の強化
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体

品質基盤の強化

スマートQA（品質保証業務の付加価値向上）
品質人材育成・品質組織体制
対話による品質文化醸成

スマートQA（品質保証業務の付加価値向上）

デジタル技術活用による業務品質向上

品質保証データのデジタル化やデジタル技術の活用、業務プロセスの見直しと標準化を通じて、業務品質のさらなる向上、付加価値創出に取り組んでいます。

品質人材育成・品質組織体制

食品安全・食品品質を支えるための品質に携わる人材の育成・教育を、「経験」「知識・技術」「パーソナリティ」の視点で取り組んでいます。海外を含め、多様な事業の品質保証を担う人材を、キユーピーグループの持続的な成長を担う重要な経営資本として捉え、価値創出につなげていきます。
また、グループ全体で動画マニュアルの作成・共有を推進し、人材育成・業務標準化・ヒューマンエラー防止に活用しています。

対話による品質文化醸成

「品質第一主義」の行動が実践できているか、日々の活動を振り返り、品質向上のために一人ひとりが何をすべきかを立ち止まって考える機会として、「品質対話」を実施しています。
日々の会話の中で「品質」について考え、お互いに意見を交換し合う「対話」を実践することを基本としながら、あえて「品質対話」という機会を設け、食品安全・品質文化の醸成につなげています。

社会・環境活動の歴史 ›

キユーピーグループ
オフィシャルブログ ›

グループ各社の
サステナビリティ活動 ›

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

開示方針

基本的な考え方　開示情報　お問い合わせ

基本的な考え方

キユーピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトに網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダードを参照して構成しています。

開示情報

対象組織：キユーピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計81社

対象期間：2025年度（2024年12月1日から2025年11月30日）
※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新
公開：2026年4月

参照ガイドライン：
GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン スタンダード
環境省 環境報告ガイドライン
国連グローバル・コンパクト
ISO26000
SASB スタンダード

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

キユーピー株式会社 広報・サステナビリティ本部 サステナビリティ推進部
東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3331

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

各種報告書

IR情報は以下よりご覧いただけます。

> IRライブラリ

本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。

キユーピーサステナビリティサイトPDF	
2025年	キユーピーサステナビリティサイト2025（30.1MB）
2024年	キユーピーサステナビリティサイト2024（21MB）
2023年	キユーピーサステナビリティサイト2023（19.9MB）
2022年	キユーピーサステナビリティサイト2022（26MB）
2021年	キユーピーサステナビリティサイト2021（17.9MB）
2020年	キユーピーサステナビリティサイト2020（24.9MB）
2019年	キユーピーサステナビリティサイト（旧CSRサイト）2019（7.98MB）

コミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック	
2021年	コミュニケーションブック2021（5.28MB）
2020年	コミュニケーションブック2020（4.2MB）
2019年	コミュニケーションブック2019（6.9MB）

社会・環境報告書は以下よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	ダイジェスト版（3.80MB）	フルレポート（7.12MB）
2017年		フルレポート（7.61MB）

2016年	ダイジェスト版(4.84MB)	フルレポート(7.31MB)
2015年	ハイライト(2.52MB)	フルレポート(3.73MB)
2014年	ハイライト(4.25MB)	フルレポート(2.88MB)
2013年	ハイライト(7.60MB)	フルレポート(4.14MB)
2012年	ハイライト(1.06MB)	フルレポート(4.75MB)
2011年	ハイライト(3.31MB)	フルレポート(4.20MB)
2010年	ハイライト(5.82MB)	フルレポート(8.44MB)
2009年	ハイライト(7.87MB)	フルレポート(5.71MB)
2008年	ハイライト(6.73MB)	フルレポート(6.14MB)
2007年	ハイライト(3.83MB)	フルレポート(3.88MB)
2006年	冊子版(5.15MB)	ウェブ版(3.31MB)
2005年	冊子版(2.30MB)	
2004年	冊子版(1.19MB)	
2003年	冊子版(1.19MB)	
2002年	冊子版(1.19MB)	
2001年	冊子版(1.19MB)	

報告書の変遷

2022年度～	サステナビリティサイト、統合報告書
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2005年度	環境・社会報告書
2001年度～	環境報告書

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

対照表

GRI対照表　SASB対照表

GRI対照表

この対照表は、GRI（Global Reporting Initiative）の「GRIスタンダード」を参照して作成しています。

GRI 1：基礎

利用に関する声明	キユーピーグループは、GRIスタンダードを参照し、当該期間[2024年12月1日から2025年11月30日]について、本GRI内容索引に記載した情報を報告する。
利用したGRI 1	GRI 1：基礎 2021

GRI 2：一般開示事項 2021

番号	開示事項	掲載場所
2-1	組織の詳細	> 会社概要 有価証券報告書：事業の内容 有価証券報告書：関係会社の状況 有価証券報告書：主要な設備の状況 統合報告書2026：会社情報
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	> 開示方針 有価証券報告書：関係会社の状況 有価証券報告書：主要な設備の状況
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	> 開示方針
2-4	情報の修正・訂正記述	> ESGデータ集 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）
2-5	外部保証	> ESGデータ集 > 第三者保証報告書

2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	> グループの事業 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話 有価証券報告書：主要な設備の状況 > 持続可能な調達の推進 > 原料・製造委託品の品質
2-7	従業員	> 会社概要 > ステークホルダーとの対話 > 人権の尊重 > ESGデータ集 有価証券報告書：従業員の状況
2-8	従業員以外の労働者	-
2-9	ガバナンス構造と構成	> 重点課題と推進体制 > コーポレート・ガバナンス 有価証券報告書：コーポレート・ガバナンスの概要 有価証券報告書：役員の状況 コーポレートガバナンス報告書：基本的な考え方 コーポレートガバナンス報告書：機関構成・組織運営等に係る事項 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス
2-11	最高ガバナンス機関の議長	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	> 重点課題と推進体制 > コーポレート・ガバナンス > リスクマネジメント > トップメッセージ 有価証券報告書：監査の状況 コーポレートガバナンス報告書：業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要） コーポレートガバナンス報告書：現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由 コーポレートガバナンス報告書：内部統制システム等に関する事項 統合報告書2026：リスクマネジメント 統合報告書2026：社外役員インタビュー 統合報告書2026：トップメッセージ
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント

		> 人権尊重への取り組み > トップメッセージ PDF 統合報告書2026：トップメッセージ PDF 統合報告書2026：サステナビリティマネジメント PDF 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	> 重点課題と推進体制 PDF 統合報告書2026：サステナビリティマネジメント
2-15	利益相反	> コーポレート・ガバナンス PDF 有価証券報告書：大株主の状況 PDF コーポレートガバナンス報告書：大株主の状況 PDF コーポレートガバナンス報告書：機関構成・組織運営等に係る事項
2-16	重大な懸念事項の伝達	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > ESGデータ集 PDF 統合報告書2026：リスクマネジメント PDF コーポレートガバナンス報告書：業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要）
2-17	最高ガバナンス機関の集合的知見	> 重点課題と推進体制 > コーポレート・ガバナンス > トップメッセージ PDF 統合報告書2026：トップメッセージ
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	> コーポレート・ガバナンス PDF 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス：取締役会の実効性
2-19	報酬方針	> 重点課題と推進体制 PDF 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス：役員の報酬 PDF 有価証券報告書：役員の報酬等
2-20	報酬の決定プロセス	> コーポレート・ガバナンス PDF 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス：役員の報酬
2-21	年間報酬総額の比率	> ESGデータ集 PDF 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス：役員の報酬
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	> トップメッセージ PDF 統合報告書2026：トップメッセージ
2-23	方針声明	> 2030ビジョン > 基本方針

		› キユーピーの約束 › 各種方針
2-24	方針声明の実践	› 重点課題と推進体制 › リスクマネジメント › 環境マネジメント › 人権尊重への取り組み › トップメッセージ PDF 統合報告書2026：トップメッセージ
2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	› 品質と安全・安心 › 人権尊重への取り組み › バリューチェーン品質の取り組み › 健康経営・労働安全衛生
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	› コーポレート・ガバナンス › 人権尊重への取り組み
2-27	法規制遵守	› 環境マネジメント › ESGデータ集 › 人権尊重への取り組み
2-28	会員資格を持つ団体	› イニシアチブ・加盟団体
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	› ステークホルダーとの対話 › 重点課題と推進体制 › 人権尊重への取り組み
2-30	労働協約	› 健康経営・労働安全衛生

GRI 3：マテリアルな項目 2021

番号	開示事項	掲載場所
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	› 重点課題と推進体制
3-2	マテリアルな項目のリスト	› 重点課題と推進体制 › トップメッセージ PDF 統合報告書2026：価値創造プロセス PDF 統合報告書2026：トップメッセージ

GRI101：生物多様性 2024

番号	開示事項	掲載場所
101-1	生物多様性の損失を止め、反転させるための方針	› 重点課題と推進体制 › リスクマネジメント › 環境マネジメント › 生物多様性の保全活動

		> 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
101-2	生物多様性へのインパクトの管理	> 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集
101-3	アクセスと利益配分	> 持続可能な調達の推進 サプライヤーガイドライン
101-4	生物多様性へのインパクトの特定	> 生物多様性の保全活動 2025年度TCFD・TNFD報告
101-5	生物多様性へのインパクトを伴う場所	> 生物多様性の保全活動 2025年度TCFD・TNFD報告
101-6	生物多様性の損失の直接的な要因	> 生物多様性の保全活動
101-7	生物多様性の状態の変化	> 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集
101-8	生態系サービス	> 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集

GRI201：経済パフォーマンス 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > トップメッセージ 統合報告書2026：トップメッセージ
201-1	創出、分配した直接的経済価値	有価証券報告書：連結財務諸表 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > 生物多様性の保全活動
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	有価証券報告書：退職給付関係
201-4	政府から受けた資金援助	開示していません

GRI202：地域経済でのプレゼンス 2016

番号	開示事項	掲載場所
202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率（男女別）	開示していません
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	開示していません

GRI203：間接的な経済的インパクト 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 重点課題と推進体制 › リスクマネジメント › 環境マネジメント › トップメッセージ 統合報告書2026：トップメッセージ
203-1	インフラ投資および支援サービス	› 社会貢献活動 › キユーピーみらいたまご財団
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	› 食と健康への貢献

GRI204：調達慣行 2016

番号	開示事項	掲載場所
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	開示していません

GRI205：腐敗防止 2016

番号	開示事項	掲載場所
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	› リスクマネジメント

205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	> キユーピーの約束 内部統制システム構築の基本方針 > リスクマネジメント 有価証券報告書：内部統制システムの運用状況
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	> ESGデータ集

GRI206：反競争的行為 2016

番号	開示事項	掲載場所
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	> ESGデータ集

GRI207：税金 2019

番号	開示事項	掲載場所
207-1	税務へのアプローチ	> キユーピーの約束 > コーポレート・ガバナンス
207-2	税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	> リスクマネジメント
207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	> キユーピーの約束 > コーポレート・ガバナンス
207-4	国別の報告	> ESGデータ集

GRI301：原材料 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 持続可能な調達の推進 > トップメッセージ 統合報告書2026：サプライチェーン変革の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組

301-1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント > ESGデータ集
301-2	使用したリサイクル材料	> 重点課題と推進体制 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
301-3	再生利用された製品と梱包材	> 重点課題と推進体制 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集 PDF 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）

GRI302：エネルギー 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 PDF 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
302-1	組織内のエネルギー消費量	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書 PDF 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）
302-2	組織外のエネルギー消費量	開示していません
302-3	エネルギー原単位	> CO_2排出量の削減 > ESGデータ集
302-4	エネルギー消費量の削減	> CO_2排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書 PDF 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	> CO_2排出量の削減 > ESGデータ集

GRI303：水と廃水 2018

番号	開示事項	掲載場所

3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
303-1	共有資源としての水との相互作用	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-3	取水	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-4	排水	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-5	水消費	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集

GRI305：大気への排出 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
305-1	直接的なGHG排出（スコープ1）	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書
305-2	間接的なGHG排出（スコープ2）	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書
305-3	その他の間接的なGHG排出（スコープ3）	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集

305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集 PDF 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト(サマリー)
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	開示していません
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	> 環境マネジメント > CO_2排出量の削減 > ESGデータ集

GRI306：廃棄物 2020

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 資源の有効活用・循環 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 PDF 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 資源の有効活用・循環 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-3	発生した廃棄物	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-4	処分されなかった廃棄物	> 環境マネジメント > ESGデータ集

306-5	処分された廃棄物	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集

GRI308：サプライヤーの環境面のアセスメント 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組 統合報告書2026：サプライチェーン変革の推進
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	開示していません
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	> 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み > 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集

GRI401：雇用 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
401-1	従業員の新規雇用と離職	> ESGデータ集
401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	開示していません
401-3	育児休暇	> 多様な人材の活躍 > ESGデータ集

GRI402：労使関係 2016

番号	開示事項	掲載場所
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	開示していません

GRI403：労働安全衛生 2018

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> リスクマネジメント > 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-2	危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	> リスクマネジメント > 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-3	労働衛生サービス	> 健康経営・労働安全衛生
403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	> 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	> 健康経営・労働安全衛生
403-6	労働者の健康増進	> 健康経営・労働安全衛生
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-9	労働関連の傷害	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-10	労働関連の疾病・体調不良	> ESGデータ集

GRI404：研修と教育 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> ESGデータ集
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 多様な人材の活躍
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 多様な人材の活躍

GRI405：ダイバーシティと機会均等 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 多様な人材の活躍 > コーポレート・ガバナンス > ESGデータ集 統合報告書2026：人材戦略 統合報告書2026：コーポレート・ガバナンス 有価証券報告書：コーポレート・ガバナンスの概要 有価証券報告書：役員の状況
405-2	基本給と報酬の男女比	> ESGデータ集

GRI406：非差別 2016

番号	開示事項	掲載場所

3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権の尊重 › 人権尊重への取り組み PDF 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
406-1	差別事例と実施した是正措置	› 人権尊重への取り組み › コーポレート・ガバナンス

GRI407：結社の自由と団体交渉 2016

番号	開示事項	掲載場所
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	開示していません

GRI408：児童労働 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権の尊重 › 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進 PDF 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	› 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進

GRI409：強制労働 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権の尊重 › 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進 PDF 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	› 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進

GRI410：保安慣行 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権の尊重 › 人権尊重への取り組み
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	› 人権尊重への取り組み

GRI411：先住民族の権利 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権の尊重 › 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
411-1	先住民族の権利を侵害した事例	› 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進

GRI413：地域コミュニティ 2016

番号	開示事項	掲載場所
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	› ステークホルダーとの対話 › 社会貢献活動 › キユーピーみらいたまご財団 統合報告書2026：ステークホルダーエンゲージメント
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在化しているもの、潜在的なもの）を及ぼす事業所	開示していません

GRI414：サプライヤーの社会面のアセスメント 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	› 人権尊重への取り組み › 持続可能な調達の推進

		有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	開示していません
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進 > ESGデータ集

GRI415：公共政策 2016

番号	開示事項	掲載場所
415-1	政治献金	> ESGデータ集

GRI416：顧客の安全衛生 2016

番号	開示事項	掲載場所
416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	> 品質と安全・安心 > コーポレート・ガバナンス
416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	> 品質と安全・安心 > コーポレート・ガバナンス

GRI417：マーケティングとラベリング 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 品質と安全・安心 > バリューチェーン品質の取り組み
417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 品質と安全・安心 > バリューチェーン品質の取り組み > ステークホルダーとの対話
417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	開示していません
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	開示していません

GRI418：顧客プライバシー 2016

番号	開示事項	掲載場所
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	開示していません

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

対照表

GRI対照表
SASB対照表

SASB対照表

Sustainability Accounting Standards Board（SASB）は、投資家のニーズを満たすために重要な持続可能性情報の開示を促進する、独立した基準設定組織です。
下表は、SASBの持続可能な産業分類システム（SICS）で定義されている加工食品業界の基準を参照し、該当箇所を示すものです。

タイトル	SASBコード	指標	掲載場所
エネルギー管理	FB-PF-130a.1	(1)エネルギーの総使用量 (2)系統電力からの電気の割合 (3)再生可能エネルギー割合	> 環境マネジメント > 気候変動への対応 > ESGデータ集 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組 統合報告書2026：財務・非財務ハイライト（サマリー）
水管理	FB-PF-140a.1	(1)総取水量 (2)水の総使用量、ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域におけるそれぞれの割合	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
	FB-PF-140a.2	水量および/または水質の許可、標準、規制に関連するコンプライアンス違反の件数	2025年度はコンプライアンス違反はありません
	FB-PF-140a.3	水管理リスクの説明とリスクを軽減する戦略と実践の議論	> 水資源の持続的利用 2025年度TCFD・TNFD報告
食品安全	FB-PF-250a.1	国際食品安全イニシアチブ（GFSI）監査における(1)非適合率、および(2)(a) メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	> 品質保証体制

	FB-PF-250a.2	国際食品安全イニシアチブ(GFSI)に承認された食品安全認証プログラムによって認証されたティア1サプライヤー施設からの調達原料割合	開示していません
	FB-PF-250a.3	(1)受け取った食品安全違反の通知総数、(2)是正した割合	2025年度において食品安全違反通知はありません
	FB-PF-250a.4	(1)発行されたリコール数および(2)リコールされた食品の合計量	› リスクマネジメント
健康・栄養	FB-PF-260a.1	健康・栄養の属性を促進するためにラベルづけおよび/または販売された製品からの収益	› 食と健康への貢献
	FB-PF-260a.2	栄養・健康に対する消費者の懸念に関連する製品と原料を特定、管理するプロセスの議論	› 食と健康への貢献 › 品質と安全・安心
製品ラベリングとマーケティング	FB-PF-270a.1	(1)子どもに対して行われた広告宣伝の割合、および (2)食事ガイドラインに適合した製品を宣伝する、子どもに対して行われた広告宣伝の割合	開示していません
	FB-PF-270a.2	(1)遺伝子組み換え生物(GMO)を含む (2)非GMO、とラベルが付いた製品の収益	開示していません
	FB-PF-270a.3	業界または規制によるラベルおよび/またはマーケティングコードの違反事例数	2025年度において違反事例はありません
	FB-PF-270a.4	表示および/またはマーケティング慣行に関連する法的手続きの結果としての金銭的損失の総額	開示していません
パッケージングライフサイクル管理	FB-PF-410a.1	(1)パッケージングの総重量 (2)リサイクルおよび/または再生可能な材料から作られた割合、および (3)リサイクル可能、再利用可能、および/または堆肥化可能な割合	› プラスチックの削減・再利用 › ESGデータ集

	FB-PF-410a.2	ライフサイクルを通じてパッケージングの環境への影響を減らす戦略の議論	> 環境マネジメント > プラスチックの削減・再利用
原料サプライチェーンの環境および社会的影響	FB-PF-430a.1	第三者機関の環境基準および/または社会基準に認証されている、調達された食品成分の割合、および基準別の割合	> 持続可能な調達の推進 > ESGデータ集
	FB-PF-430a.2	サプライヤーの社会的および環境的責任の監査における(1)不適合率および(2)(a)メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	開示していません
原料調達	FB-PF-440a.1	ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域から調達した食品原料の割合	2025年度TCFD・TNFD報告
	FB-PF-440a.2	優先的な食品原料のリストと、環境および社会的配慮による調達リスクの議論	> 持続可能な調達の推進 2025年度TCFD・TNFD報告
活動指数	FB-PF-000.A	販売された製品の重量	開示していません
	FB-PF-000.B	生産施設の数	> 会社概要

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ESGデータ集

事業活動におけるESG（環境・社会・ガバナンス）データ集は以下よりご覧いただけます。

●データ範囲／期間
E：環境…特記なき限りキユーピーグループ（キユーピー（株）および連結子会社）／ 実績期間は国内12月～翌11月、海外10月～翌9月
S：社会…特記なき限りキユーピー（株）／ 実績期間は12月～翌11月
G：ガバナンス…特記なき限りキユーピー（株）／ 実績期間は12月～翌11月

●補足
・各数値は、表示単位未満を四捨五入
・「*」は、算定定義の見直し等によるデータ修正箇所

E: 環境
- CO_2排出削減 Scope 1,2
- CO_2排出量 Scope 3
- エネルギー関連
- 大気への排出
- 資源の有効活用・循環
- 水資源の持続的利用
- 持続可能な調達
- 生物多様性
- 環境関連投資
- 環境マネジメント

S: 社会
- 従業員
- ダイバーシティ
- 研修関連
- 労働
- 社会貢献活動

G: ガバナンス
- 取締役会の独立性
- 監査役会
- 指名・報酬委員会
- 役員報酬
- 株主権
- 株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催
- コンプライアンス
- 支払法人税額
- 政治献金支出額

更新日：2026年6月8日

E: 環境

CO_2排出削減 Scope 1,2

			単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
CO_2排出量	国内	Scope 1	千トン-CO_2	64.5	63.6	53.6	51.7	50.9	生産工場及びオフィス
		Scope 2	千トン-CO_2	97.5	93.6	85.2	82.3	69.1	
		Scope 1+2	千トン-CO_2	162.0	157.2	138.7	133.9	120.0	
		原単位	kg-CO_2/生産数量トン	205.2	206.7	196.2	190.1	168.7	

	海外	Scope 1	千トン-CO_2	1.3	5.0	4.9	2.8	2.8	生産工場
		Scope 2	千トン-CO_2	29.6	30.8	23.1	25.6	24.1	
		Scope 1 +2	千トン-CO_2	30.9	35.8	28.0	28.4	26.9	
		原単位	kg-CO_2/生産数量トン	167.6	201.9	150.9	145.0	131.3	

CO_2排出量 Scope 3

	算出方法	対象排出原単位等	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
Scope 3 合計			千トン-CO_2	293.9	1,229.1	1,485.0	1,734.3	1,792.4	
1. 購入した製品・サービス	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量	千トン-CO_2	167.8	987.2	1,126.2	1,337.0	1,483.1	
2. 資本財	投資金額あたり原単位	設備投資額	千トン-CO_2	22.4	96.7	46.6	48.4	60.2	
3. Scope 1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	CFP-DB・SC-DB	エネルギー種別の使用量	千トン-CO_2	8.1	5.8	24.2	29.8	21.0	
4. 輸送、配送（上流）	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量	千トン-CO_2	33.4	45.1	127.7	168.2	76.8	
5. 事業活動から出る廃棄物	重量あたり原単位	排出物重量	千トン-CO_2	0.5	10.2	21.8	20.7	18.6	
6. 出張	従業員数あたり原単位	従業員数	千トン-CO_2	0.3	1.4	1.4	1.4	1.4	
7. 雇用者の通勤	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数	千トン-CO_2	1.1	4.9	2.4	2.3	2.4	
8. リース資産（上流）	Scope 1, 2に算入済	Scope 1, 2に算入済	千トン-CO_2	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
9. 輸送、配送（下流）	輸送時の排出原単位	出荷重量製品輸送はシナリオ	千トン-CO_2	9.9	20.7	22.4	24.7	7.2	
10. 販売した製品の加工	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量	千トン-CO_2	0.0	35.8	72.6	72.5	95.6	

11. 販売した製品の使用	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量	千トン-CO_2	1.8	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
12. 販売した製品の廃棄	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量	千トン-CO_2	14.0	21.2	39.8	29.4	26.0	
13. リース資産(下流)	該当なし	該当なし	千トン-CO_2	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
14. フランチャイズ	該当なし	該当なし	千トン-CO_2	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
15. 投資	該当なし	該当なし	千トン-CO_2	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

【対象範囲】
2021年度:キユーピー(株)単体
2022年度:キユーピーグループ国内主要会社(キユーピー(株)、アヲハタ(株)、キユーピータマゴ(株)、(株)サラダクラブ、キユーピー醸造(株)、デリア食品(株)、(株)ケイパック、コープ食品(株))
2023年度以降:キユーピーグループ(キユーピー(株)及び連結子会社)

CO_2排出量

CO_2排出量(Scope1,2およびScope3 カテゴリ1,2,日本国内分のみのカテゴリ4) については、第三者検証を実施し、検証機関から保証書を取得しています。

2025年度温室効果ガス排出量 検証報告書(1.76MB)

エネルギー関連

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
電力購入量	国内	MWh	221,867*	220,505*	210,311*	206,638*	206,267	生産工場及びオフィス
	海外	MWh	34,666*	30,985*	29,905*	33,989*	37,137	生産工場
再生可能エネルギー量	国内	MWh	551*	4,032*	15,482*	18,211*	50,979	生産工場及びオフィス
	海外	MWh	2,328*	3,416*	5,102*	5,675*	8,447	生産工場

大気への排出

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
NOx排出量	トン	39.8	37.9	33.7	33.1	33.1	国内生産工場
SOx排出量	トン	8.3	8.1	6.7	6.1	5.4	国内生産工場

資源の有効活用・循環

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
廃棄物排出量	総量	千トン	41.8*	37.7*	32.7*	34.5*	34.5*	国内生産工場
	原単位	kg/生産数量トン	54.5*	50.9*	47.5*	48.6*	47.8	国内生産工場
廃棄物等総排出量		千トン	66.4	65.1	57.2	56.0	58.5	国内生産工場
廃棄物最終処分量（単純埋立）		千トン	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6	国内生産工場
再資源化率		%	97.4	97.5	97.2	96.9	95.4	国内生産工場
食品残さ削減率（2015年度比）		%	39.0	46.6	59.6	60.6	61.4	国内生産工場
野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）		%	62.1	77.5	82.7	85.3	84.3	国内生産工場
商品廃棄量削減率（2015年度比）		%	61.3	74.8	75.5	65.9	53.1	キユーピー(株)及びアヲハタ(株)の営業部門
プラスチック排出量削減率（2018年度比）		%	10.8	13.8	20.9	22.3	26.9	国内生産工場

水資源の持続的利用

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
エリア別取水量	日本	千m^3	8,091	8,075	7,367	6,999*	6,938	
	日本原単位	m^3/生産数量トン	10.5	10.6	10.6	9.9*	9.8	
	グローバル	千m^3	451	690	694	731	757	
	グローバル原単位	m^3/生産数量トン	2.4	3.8	3.9	3.7	3.8	
	中国	千m^3	237	190	185	213	217	
	アジア（中国以外）	千m^3	173	458	464	475	492	
	北米・欧州	千m^3	41	42	44	43	48	
エリア別排水量	日本	千m^3	6,269	6,241	5,815*	5,644	5,259	
	日本原単位	m^3/生産数量トン	8.2	8.2	8.4	8.0	7.4	
	グローバル	千m^3	269	167	193	233	238	
	グローバル原単位	m^3/生産数量トン	1.5	0.9	1.1	1.2	1.2	
	中国	千m^3	180	99	120	151	149	

	アジア(中国以外)	千m^3	57	56	58	64	74	
	北米・欧州	千m^3	32	12	15	19	15	
水源別取水量	淡水合計	千m^3	8,542	8,765	8,061	7,730*	7,695	
		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	上水	千m^3	1,258	1,288	1,110	1,075*	1,040	
		%	14.7	14.7	13.8	14.0*	13.5	
	工業用水	千m^3	922	912	822	925*	1,012	
		%	10.8	10.4	10.2	12.0*	13.2	
	河川	千m^3	95	366	366	358	364	
		%	1.1	4.2	4.5	4.6	4.7	
	地下水	千m^3	6,268	6,199	5,763	5,372*	5,279	
		%	73.4	70.7	71.5	69.5*	68.6	
	雨水	千m^3	0	0	0	0	0	
		%	0	0	0	0	0	
排出先別排水量	排水合計	千m^3	6,537	6,407	6,009	5,877	5,498	
		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	下水道	千m^3	3,084	2,987	2,711	2,624	2,441	
		%	47.2	46.6	46.6	44.7	44.4	
	河川放流	千m^3	3,273	3,246	3,106	3,069	2,883	
		%	50.0	50.8	51.7	52.2	52.4	
	海域放流	千m^3	185	175	191	184	174	
		%	2.8	2.7	3.2	3.1	3.2	
水使用量(原単位)削減率(2020年度比)		%	2.5	1.7	2.1	7.8	9.7	国内生産工場

持続可能な調達

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
持続可能なパーム油の調達	調達率	%	95.3*	100.0	100.0	100.0	100.0	国内生産工場 RSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了し、あわせてマスバランス方式での受け入れの認証を取得

生物多様性

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
持続可能な紙の調達（容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品）	調達率	%	-	-	-	98.4	100.0	国内全拠点
生物多様性保護政策の有無			有：キユーピーグループ 生物多様性方針（2022年12月策定）					
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護地域内部、もしくは保護地域に隣接している場所の有無			無					

環境関連投資

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
環境保全コスト（投資）	百万円	172	404	85	105	45	キユーピー(株)単体
環境保全コスト（費用）	百万円	611	682	636	658*	761	キユーピー(株)単体
環境保全対策に伴う経済効果	百万円	811	821	1,163	1,150	1,553	国内生産工場

環境マネジメント

		単位	2025年度	備考
第三者認証（ISO14001）	取得事業所	-	15事業所/65事業所	国内生産工場
	取得率	%	23.1	

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
環境関連法規制違反件数	件	0	0	0	0	0	国内生産工場
環境法令違反による罰金件数	件	0	0	0	0	0	国内生産工場
重大環境事故件数	件	0	0	0	0	0	国内生産工場

S: 社会

従業員

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
キユーピーグループ								
従業員数		人	15,885	15,785	15,453	14,830	14,981	
常時雇用者数	合計	人	10,719	10,696	10,642	10,517	10,773	
	男	人	5,348	5,280	5,299	5,253	5,406	
	女	人	5,371	5,416	5,343	5,264	5,367	
平均臨時雇用者数		人	5,166	5,089	4,811	4,313	4,208	
外国人従業員数		人	39	39	40	40	39	臨時従業員を含まず
キユーピー(株)								
従業員数		人	2,931	2,946	2,831	2,766	2,815	
常時雇用者数	合計	人	2,394	2,408	2,332	2,327	2,388	
	男	人	1,296	1,271	1,232	1,232	1,258	
	女	人	1,098	1,137	1,100	1,095	1,130	
平均臨時雇用者数	合計	人	537	538	499	439	427	
	男	人	169	176	182	179	166	
	女	人	368	362	317	260	261	
外国人従業員数		人	18	19	21	19	24	キユーピーグループ(国内)社員のみ ※臨時従業員を含まず
新入社員数	合計	人	24	24	34	46	49	キユーピー(株)籍新卒総合職のみ
	男	人	13	14	21	26	25	
	女	人	11	10	13	20	24	
離職率(新卒者の3年未満の離職率)		%	10.2	6.0	15.1	16.7	4.2	新卒総合職のみ
平均勤続年数	男女平均	年	16.0	16.2	16.2	16.1	16.1	
	男	年	18.6	18.8	18.4	17.9	17.7	
	女	年	13.0	13.4	13.7	14.0	14.2	
平均年齢	男女平均	歳	41.2	41.6	41.7	42.0	42.1	
	男	歳	43.9	44.3	44.1	43.9	43.8	
	女	歳	38.0	38.6	39.1	39.8	40.2	

平均年間給与	男女平均	円	6,131,534	6,131,717	6,393,356	6,878,377	6,888,822	
	男	円	7,473,442	7,519,575	7,697,220	8,238,994	8,193,705	
	女	円	4,547,641	4,580,294	4,933,028	5,347,528	5,436,128	
中途採用		人	9*	15*	21*	34*	41	キユーピー(株)籍総合職
		%	37.5*	62.5*	61.8*	73.9*	83.7	
定年再雇用希望者		人	27	36	33	34	31	キユーピー(株)籍社員
定年再雇用率		%(%)	73(100)	86(100)	72(100)	83(100)	84(100)	キユーピー(株)籍社員 ( )内は希望者の再雇用率

ダイバーシティ

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
女性管理職数	人	132	145	164	181	217	キユーピーグループ国内食品事業全体
	人	72	82	94	104	136	
└うち女性部長職以上	人	4	6	6	7	11	
女性管理職比率	%	9.1	10.0	11.4	12.6	14.5	キユーピーグループ国内食品事業全体
	%	10.9	12.5	14.5	15.9	19.9	
└うち女性部長職以上の比率	%	2.9	4.6	4.3	4.6	7.1	
女性役員比率	%	21.4	28.6	21.4	20.0	21.4	社外役員及び監査役を含む
障がい者雇用率	%	3.72	3.78	3.66	3.74	3.47	キユーピーグループ国内食品事業全体 ※2025年6月1日現在

研修関連

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
社員研修費用(総額)	百万円	172	144	82	91	117	キユーピーグループ従業員
社員研修費用(従業員一人当たり)	円	-	-	12,000	13,000	16,000	
人権研修参加者	人	14,463	14,793	14,913	13,968*	9,284	キユーピーグループ従業員 ※2025年度:2プログ

							ラムを統一したことによる累計減
総研修時間	時間	-	-	18,662	23,750	40,173	キユーピーグループ従業員

労働

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
年間総労働時間（従業員一人当たり）		時間/年	1,995.9	1,967.6	1,967.0	1,908.7	1,897.6	キユーピーグループ国内食品事業一般職のみ
		時間/年	1,937.6	1,895.7	1,879.3	1,837.7	1,824.1	一般職のみ
平均残業時間（従業員一人当たり）		時間/月	18.7	18.7	17.9	19.6	19.1	キユーピーグループ国内食品事業一般職のみ
		時間/月	16.6	16.2	16.9	17.0	16.6	一般職のみ
年次有給休暇平均取得日数		日	10.6	11.9	13.8	12.7	13.7	キユーピーグループ国内食品事業社員のみ
		日	12.2	14.1	14.4	13.3	14.4	
育児休業取得者数	合計	人	223	188	158	157	148	社員
	男	人	73	66	34	52	43	
	女	人	150	122	124	105	105	
育児短時間勤務者数	合計	人	195	192	213	234	193	社員
	男	人	1	0	1	1	1	
	女	人	194	192	212	233	192	
育児休業復職率		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
介護休暇利用者数		人	87	118	112	141	168	キユーピーグループ
介護休業利用者数		人	11	12	7	15	9	キユーピーグループ
ボランティア休暇取得者数		人	1	0	25	41	34	
休業災害件数		件	17	10	11	11	13	キユーピーグループ国内66事業所
休業災害度数率		%	0.87	0.52	0.59	0.6	0.74	キユーピーグループ国内66事業所
休業災害強度率		%	0.037	0.032	0.035	0.014	0.044	キユーピーグループ国内66事業所

社会貢献活動

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
食育活動	開催数	回	39	56	106	170	144	マヨネーズ教室、SDGs教室

	参加者数	人	1,972	4,588	5,617	9,447	8,854	オンライン含む
講演会	開催数	回	58	99	100	123	117	
	参加者数	人	2,013	4,013	4,635	5,282	4,331	
工場見学・見学施設来場者数		人	24,857	25,417	44,266	64,385	73,058	工場（五霞、挙母（2022年まで）、鳥栖、神戸）、マヨテラス、オンライン含む
マッチングギフトQ Peace	支援団体数	団体	10	11	10	10	13	
	支援総額	万円	649	667	662	656	680	
キユーピーみらいたまご財団	助成団体数	団体	102	131	150	177	269	
	助成総額	万円	3,800	4,052	4,614	5,088	5,212	

G: ガバナンス

取締役会の独立性

			単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	6	7	6	5	5	
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		6	7	6	5	5	
	独立社外取締役	男性		1	1	2	2	2	
		女性		2	2	2	2	2	
		合計		3	3	4	4	4	
	合計			9	10	10	9	9	
独立社外取締役比率			%	33.3	30.0	40.0	44.4	44.4	
開催回数			回	12	12	12	11	2027年2月開示予定	

監査役会

	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考

監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2	2	
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		2	2	2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	2	2	2	2	
		女性		2	1	1	1	1	
		合計		3	3	3	3	3	
	合計			5	5	5	5	5	
開催回数			回	13	13	13	12	2027年2月開示予定	

指名・報酬委員会

	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
指名・報酬委員会委員	人	7	7	8	7	7	2026年2月26日現在
社内取締役	人	3	3	3	3	3	
社外取締役・監査役	人	4	4	5	4	4	

役員報酬

		2025年度				備考
		支給人数（人）	月額報酬（百万円）	賞与（百万円）	総支給額（百万円）	
取締役	取締役（社外取締役を除く）	6	155	84	265	
	社外取締役	4	54	-	54	
	合計	10	210	84	320	
監査役	監査役（社外監査役を除く）	2	48	-	48	
	社外監査役	3	38	-	38	
	合計	5	87	-	87	
合計		15	297	84	407	

株主権

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考

買収防衛策の有無	有	無	無	無	無	

株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催

	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	2	2	2027年2月開示予定	

コンプライアンス

		単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
ヘルプライン(内部通報制度)への通報・相談件数		件	28	37	33	38	2027年2月開示予定	キユーピーグループ(国内)
全従業員の意識調査アンケート回答率	国内	%	84.5	-	78.6	-	2027年2月開示予定	キユーピーグループ2年おきに実施
	海外	%	-	-	-	63.1	-	

支払法人税額

	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
連結会計総額	百万円	6,774	5,851	9,083	12,730	2027年2月開示予定	

政治献金支出額

	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	備考
支出額	百万円	0.24	0.11	0.00	0.00	2027年2月開示予定	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 品質と安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

各種方針

グループ規範（倫理規範・行動規範）

キユーピーグループ 経営の基本方針

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

サステナビリティに関連する方針（基本原則・ガイドライン・宣言含む）		サステナビリティ重点課題					
		食と健康への貢献	資源の有効活用・循環	気候変動への対応	生物多様性の保全	持続可能な調達	人権の尊重
環境	キユーピーグループ 環境方針		●	●		●	
	キユーピーグループ 容器包装選定の基本方針（152KB）		●	●	●	●	
	キユーピーグループ プラスチック方針		●	●	●	●	
	キユーピーグループ 生物多様性方針		●	●	●	●	
調達	持続可能な調達のための基本方針		●		●	●	●
	キユーピーグループ サプライヤーガイドライン（638KB）				●	●	●
	キユーピーグループ グリーン購入基本原則（760KB）		●			●	
	キユーピーグループ 紙調達ガイドライン（217KB）			●	●	●	●

人権	キユーピーグループ人権方針（367KB）						●
	カスタマーハラスメントに対する基本方針（334KB）						●

安全・安心	› キユーピーグループユニバーサルデザイン原則	●					
ガバナンス	› キユーピーグループ反贈賄基本方針					●	
	› キユーピーグループプライバシーポリシー					●	
	マルチステークホルダー方針（271KB）						●
宣言	› 消費者志向自主宣言	●					
	› キユーピーグループ健康宣言	●					
	パートナーシップ構築宣言	●		●		●	●

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

イニシアチブ・加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加　加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加

国連グローバル・コンパクト (UNGC)

キユーピーは、2025年2月に「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」へ署名、参加しました。
UNGCとは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則※を支持し、その実現に向けた取り組みを推進していきます。

> 国連グローバル・コンパクト

※【国連グローバル・コンパクトの4分野10原則】

〈人権〉	
原則1	国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
〈労働〉	
原則3	結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
〈環境〉	
原則7	環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を奨励すべきである

〈腐敗防止〉	
原則10	強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）

キユーピーグループは「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」に2021年から賛同し、あわせて「GX フューチャー・コンソーシアム」に参画しています。
TCFDは、G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立したタスクフォースです。これに賛同する企業や金融機関などが連携する場がGX フューチャー・コンソーシアムです。

> TCFD

> GX フューチャー・コンソーシアム

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）フォーラム

キユーピーグループは「TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）フォーラム」に2024年4月に参画しました。
TNFDは、民間企業や金融機関が自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するためのフレームワークを構築する機関として発足しました。TNFDフォーラムとは、TNFDのビジョンとその取り組みに賛同し、TNFDフレームワークの開発作業を支援することを目的とした、TNFDをサポートする有志連合です。

> TNFDフォーラム

経団連生物多様性宣言イニシアチブ

キユーピーは「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に2024年から賛同しています。
経団連生物多様性宣言イニシアチブは、「経団連生物多様性宣言・行動指針（改定版）」が掲げる7項目のうち複数の項目に取り組む、または全体の趣旨に賛同する企業・団体の活動方針や活動事例を、特設ウェブサイトで内外に向けて、発信・紹介するものです。

> 経団連生物多様性宣言イニシアチブ

GPN（グリーン購入ネットワーク）

キユーピーは「GPN（グリーン購入ネットワーク）」に1996年から加盟しています。
GPNは、環境負荷の小さい製品やサービスの市場形成を促し、持続可能な社会経済の構築に寄与するため、グリーン購入活動を促進し、グリーン購入に関する普及啓発や情報提供、調査研究などを行っているネットワークです。

> GPN

RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）

キユーピーグループは「RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）」に2018年から加盟しています。
RSPOは、世界的に信頼される認証基準の策定と、ステークホルダー（利害関係者）の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的として、WWFを含む7つの関係団体が中心となり2004年に設立した非営利団体です。

> RSPO

JaSPON（持続可能なパーム油のためのネットワーク）

キユーピーグループは「JaSPON（持続可能なパーム油のためのネットワーク）」に2019年から加盟しています。
JaSPONは、パーム油生産における社会や環境面のさまざまな問題を解決することをめざし、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させる目的で小売、消費財メーカー、NGOなどによって設立されたネットワークです。

> JaSPON

RTRS（責任ある大豆協会に関する円卓会議）

キユーピーグループは「RTRS（責任ある大豆協会に関する円卓会議）」に2024年から加盟しています。RTRSは2006年にスイスのチューリッヒで設立された責任ある大豆の生産、取引、利用の拡大を促進する非営利団体です。

> RTRS

環境省 プラスチック・スマートキャンペーン

キユーピーは「環境省 プラスチック・スマートキャンペーン」に2020年から参加しています。
プラスチック・スマートとは、環境省が実施している海洋プラスチックごみの削減に向けたキャンペーンの名称です。個人・自治体・NGO・企業・研究機関などのさまざまな主体が連携・協働して取り組んでいる「プラスチックとの賢い付き合い方」を全国的に推進し、発信しています。

> 環境省 プラスチック・スマートキャンペーン

CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）

キユーピーは「CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）」に2020年から参加しています。
CLOMAは、地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用並びにプラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の開発および導入普及を図り、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するため2019年1月に設立されたプラットフォームです。

> CLOMA

あふの環2030プロジェクト ～食と農林水産業のサステナビリティを考える～

キユーピーは「あふの環2030プロジェクト」に2020年から参加しています。
「あふの環2030プロジェクト」は、2030年のSDGs達成をめざし、今だけでなく次の世代も豊かに暮らせる未来を創るべく農林水産省が立ち上げたプロジェクトです。

› あふの環プロジェクト

食環境戦略イニシアチブ（健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ）

キユーピーは「食環境戦略イニシアチブ（健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ）」に2021年3月から参画しています。
食環境戦略イニシアチブは、厚生労働省が立ち上げ、産学官などの連携による推進体制により、食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差に伴う栄養格差などを重大な社会課題と捉え、活力ある持続可能な社会の実現をめざしています。

› 食環境戦略イニシアチブ

› 食環境戦略イニシアチブにおけるキユーピーの公開目標

加盟団体

協会・団体名	役職
一般財団法人 食品産業センター	副会長
食品産業中央協議会	監事
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会	会長
全国ドレッシング類公正取引協議会	会長
公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会	副会長
日本介護食品協議会	会長
フレイル予防推進会議	-
一般社団法人 日本フレイル予防サービス振興会	理事

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
資源の有効活用・循環
気候変動への対応
生物多様性の保全
食と健康への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
品質と安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

社会・環境活動の歴史

対象：キユーピーグループ
本年表は、当時の活動内容を掲載しています

西暦	社会活動	環境活動
2025年	キユーピーグループ、CDP「水セキュリティ」分野で最高評価の「Aリスト」に初選定	
	FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Index、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定	
	経営方針刷新に伴いキユーピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂	
	キユーピーグループ 人権方針を改定（性的思考、性自認を追加）	
	組織再編により、広報・サステナビリティ本部にサステナビリティ推進部を設置	
	キユーピーで女性活躍推進企業として「えるぼし認定(3段階目)」を取得	キユーピー マヨネーズ700gに軽量化キャップ、プラスチック使用量を約17%削減
	農林水産省が創設した「官民連携食育プラットフォーム」に発起人企業として参画	キユーピーのたまご タレで食べるたまごシリーズが再生プラスチックを約15%使用したパッケージへ
	「健康経営優良法人2025」認定	キユーピーとJALUXがサステナブルな商品を共同で企画開発 国内初※1の紙製小袋ドレッシングが一部のJAL国際線機内食に採用決定
	国連グローバル・コンパクトに署名 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンに加入	市販用ドレッシング類の380mlサイズ全10品に100%再生PET樹脂ボトルを採用
	アヲハタ「えるぼし認定(2段階目)」取得	アヲハタ、ジャム工場の電力を100%再生可能エネルギーへ切替え
	2025モチベーションチームアワード 優秀賞を受賞（キユーピー 研究開発本部 未来創造研究所の取り組み）	鹿嶋市、リファインバース、三菱ケミカル、東洋製罐グループ、キユーピー、カスミの6者連携で、プラスチック容器の循環を目指す包括連携協定を締結
		2024年度TCFD報告書を開示
		2024年度TNFD報告書を開示
		サラダクラブ・ケイパック五霞工場で太陽光発電を開始

		江崎グリコ、キユーピー、KRS、T2の幹線輸送の共同検証開始
		使用済みプラスチックの再資源化に向けてキユーピーがアールプラスジャパンに資本参加
		キユーピーとユニバーサル・スタジオ・ジャパンが環境に配慮した卵殻アップサイクル・ステッカー「たまからシール」を制作
2024年	キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針およびキユーピーグループ サプライヤーガイドラインを改訂	
	FTSE4Good Index Seriesに初選定	
	キユーピーグループ 環境ビジョン2050を策定	
	「健康経営優良法人2024」認定	2023年度TCFD報告書を開示
	渋谷未来デザイン特別正会員として入会	業務用商品ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ容器サイズ変更によりプラスチック使用量25%削減
	フレイル予防推進会議に参画	キユーピー あえるパスタソースシリーズ外袋を紙パッケージに変更
		キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素外袋を紙パッケージに変更
		キユーピーが第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門において農林水産大臣賞を受賞（マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用）
		キユーピーグループecoラベル運用開始
		CDP「気候変動」と「水セキュリティ」の2分野で「A-」の評価を獲得
		経団連生物多様性宣言イニシアチブ参画
		TNFDフォーラム参画
		キユーピーと日清オイリオグループが使用済み油付きPETボトルの資源循環に向けて協働、回収を開始
		渋谷未来デザインとの共催でSHIBUYA Urban Farming Project設立

		キユーピーと味の素がマヨネーズボトルの資源循環に向けて協働、回収を開始
		市販用ドレッシング類の180mlサイズ全25品に再生PET樹脂を30%含むボトルを採用
		サラダクラブ 三原工場で太陽光発電を開始
		キユーピーが2024日本パッケージングコンテストにおいて食品包装部門賞を受賞（国内調味料初100%再生PET樹脂のドレッシングボトル）
		キユーピータマゴが食品産業新聞社主催食品産業技術功労賞サステナビリティ部門を受賞（卵に関する取り組み）
2023年	パートナーシップ構築宣言	
	マルチステークホルダー方針を策定	
	北京・杭州・広州の3工場が「食品科学普及教育基地」に認定	2022年度TCFD報告書を開示
	「サステナブルな食」の新ブランドGREEN KEWPIEを発表	業務用商品ニューエグスターボトルのプラスチック使用量を削減することで軽量化
	全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動	業務用商品キユーピー、ほしえぬブランド1000ml・500mlボトル容器入り商品軽量化によりキャップのプラスチック使用量を約9%削減
	「健康経営優良法人2023」認定	南通丘比、キユーピータマゴ三田工場・尾張工場、サラダクラブ遠州工場（第2期）、広州丘比、キユーピーマレーシア、コープ東北で太陽光発電を開始
		Italiante バジルソースボトルタイプの賞味期間延長
		キユーピー（五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場）とケイパックで食品残さによるバイオマス発電を実現
		ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ環境配慮型容器の切り替えによりプラスチック使用量を約10.9%削減（シリーズすべてに採用）

		キユーピー テイスティドレッシング、機能性表示食品ドレッシング再生プラスチックを100%使用したボトルを採用（国内調味料初：キユーピー調べ）
		ヴェルデ パキッテシリーズ容器の一部（内容物が入っている部分）にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
		キユーピーがSDGs・災害食大賞©2023ローリングストック部門において最優秀賞受賞（キユーピー やさしい献立シリーズ）
		キユーピーが令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰においてリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞（マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用）
		キユーピーが第11回食品産業もったいない大賞において農林水産省大臣官房長賞を受賞（マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用）
		RSPOマスバランス方式での受け入れの認証を取得
2022年	キユーピーグループ サステナビリティ基本方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題に持続可能な調達、人権の尊重を追加し、サステナビリティ目標を見直し	
	キユーピーグループ3社（キユーピータマゴ・デリア食品・キユーピー醸造）の公式サイト内に「サステナビリティページ」を新設	
	キユーピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂、あわせてキユーピーグループ生物多様性方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題を見直し生物多様性の保全を追加	
	「健康経営優良法人2022」認定	TCFDフレームワークに基づく情報を開示
	ABC Cooking Studio×キユーピー【サラダとタマゴの食と健康キッチン】共同プロジェクト	野菜廃棄物ゼロ化全7工場で完了（サラダクラブ中河原工場・伊丹工場・鳥栖工場）
	キユーピーが第6回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門【企業の部】において、農林水産大臣賞を受賞	ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3%削減

野菜の魅力を体験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業	キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素シリーズ3品を年月表示
オンラインと出前事業でSDGs教室を開始	アヲハタ まるごと果実シリーズ瓶軽量化
キユーピー、デリア食品、ポテトデリカが第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞を受賞（冷圧フレッシュ製法®）	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ容器薄肉化によりプラスチック使用量を約10.9%削減
日本食品工学会第23回年次大会 技術賞を受賞冷圧フレッシュ製法®）	サラダクラブ パッケージサラダトレー約10%軽量化によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞を受賞（キユーピー 平飼い卵マヨネーズ）	サラダクラブ 加熱用カット野菜 炒めるキャベツ鮮度保持延長技術により業界最長消費期限を実現
2020日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞を受賞（レンジでチンするハッピーレシピ）	サラダクラブ パッケージサラダフィルム規格変更（寸法の縮小化・薄肉化）によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞を受賞（ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ）	渋谷本社および仙川キユーポート使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替え
2022年度グッドデザイン賞を受賞（ＨＯＢＯＴＡＭＡシリーズ）	キユーピー神戸工場（オンサイトPPA）、北京丘比、キタカミデリカ※（オンサイトPPA）で太陽光発電を開始 ※現 デリア食品 東北事業部
	キユーピー ベビーおやつ 野菜入りソフト おせんべいの包材変更によりプラスチック使用量を約35%削減
	サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞を受賞（卵の有効活用動画）
	プラントベースフード ＨＯＢＯＴＡＭＡ（ほぼたま）の市販用発売
	サラダクラブ カットレタス増量企画により産地廃棄（フードロス）削減支援を実施
	キユーピー あえるパスタソースシリーズ「年月」表示へ 切り替え、包材のスリム化によりプラスチック使用量を約7%削減

		キユーピー やさしい献立シリーズ 31品賞味期間延長
		サラダクラブ 素材パウチシリーズ全ての包材・インキを植物由来のバイオマスパウチおよびバイオマスインキへ切り替え完了
		パーム油においてRSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了
2021年	サステナビリティに向けた重点課題（食と健康への貢献、資源の有効活用・循環、気候変動への対応）とサステナビリティ目標を見直し	
	オンライン離乳食教室をキユーピー鳥栖工場で開始	キユーピー広州工場オール電化設備を導入
	共同研究講座「キユーピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所」を開設	キユーピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろパッケージのプラスチック使用量を約25%削減
	「健康応援BOOK」を公開	野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了 （サラダクラブ五霞工場）
	アヲハタ4期連続で「子育てサポート企業」に認定	キユーピー テイスティドレッシング全品に再生プラスチック30%を含むボトルを採用
	キユーピー食育活動「マヨネーズ教室」「食をテーマにした講演会」を対面とオンラインのハイブリッド化 開始	TCFD提言への賛同を表明 TCFDコンソーシアムへ参画
	キユーピーグループ人権方針を策定	サラダクラブ サステナビリティページを開設
	未来を創る子どもたちの生きる力を育む、楽しく学んで試せるサイト「食生活アカデミー」を開設	旬菜デリ青梅工場※、キユーピータマゴ飯能工場、キユーピーベトナムで太陽光発電を開始 ※現 デリア食品 首都圏事業部 青梅生産部
	子どもが野菜をおいしく、楽しく食べられるように応援するサイト「子どもと野菜をたのしもう」を開設	
	各世代で意識したい食生活のポイントとおすすめレシピを紹介するサイト「みんなの食と健康応援」を開設	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部（旧CSR部）を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会（旧CSR委員会）を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	

	健康経営優良法人2020（ホワイト500）3年連続認定	キユーピータイランド（第2期）、旬菜デリ昭島工場※で太陽光発電を開始 ※現 デリア食品 首都圏事業部 昭島生産部
	AIを活用した原料検査装置でキユーピーが第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了 （サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場）
	東京農業大学内にキユーピー「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキユーピーとキユーピータマゴが受賞 （卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献）
	キユーピーが知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	再生プラスチックをキユーピー ドレッシング スティックタイプの外装に採用
	松本市・松本大学と共同研究の成果を発表 健康的な食生活提案	サラダクラブ 素材パウチシリーズ 12品に植物由来のプラスチックを採用 全品の賞味期間延長と年月表示
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	初のオンライン社会科見学をキユーピー挙母工場・キユーピー神戸工場で実施	CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) に加盟
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019（ホワイト500）2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了 (サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室（出前出張）累計参加人数10万人達成	キユーピードレッシング ステッィクタイプの外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キユーピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10ヵ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キユーピー、サンスター、日本パレットレンタルに3者によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送（関西・九州間）を開始
	山形県と包括連携協定を締結（地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進）	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキユーピーとグリーンメッセージが受賞 （野菜の未利用部を活用した資源循環の推進）
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいてで、キユーピーが「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　農林水産大臣賞をキユーピーとキユーピータマゴが受賞 （卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦）

	ディープラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキユーピーが、「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	キユーピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題(健康寿命の延伸、子どもの心と体の健康支援、資源の有効活用と持続可能な調達、CO_2排出量削減、ダイバーシティの推進)」を策定	
	キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定	
	健康経営優良法人2018(ホワイト500)認定	キユーピーで初めて「年月表示」を開始(市販用介護食キユーピー やさしい献立シリーズ レトルトパウチ)
	プラチナくるみん認定	キユーピードレッシングのガラス瓶容器をプラスチックボトル化(原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20%削減)
	広島市と包括連携協定を締結(地産地消や食育、健康増進の取り組みなどを推進)	キユーピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト実行委員会設立(愛知県民の野菜摂取量増加を応援)	平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰をキユーピーとグリーンメッセージが内閣総理大臣賞を受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
		平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰　国土交通大臣表彰を受賞
		RSPO※に加盟 (※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会)
		キユーピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置　環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	キユーピー神戸工場でオープンキッチン(工場見学)を開始	グリーンファクトリーセンター白河(第2期)で太陽光発電を開始
	一般財団法人 キユーピーみらいたまご財団設立(2019年4月に公益財団法人に移行)	キユーピー富士吉田工場　平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰　「事業所　最優秀賞」を受賞 ※2021年譲渡

	第1回 地域の居場所づくりサミット開催（一般財団法人 キユーピーみらいたまご財団）	工場で発生する野菜残さで染めたエプロン（FOOD TEXTILE）をマヨネーズ教室で採用
		野菜残さのサイレージ化を開始（グリーンメッセージ）
2016年	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結	キユーピー マヨネーズ（一部容量）とキユーピーハーフの賞味期間を延長（食品ロス削減）
		「キユーピーの森」第三期活動開始
		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキユーピー神戸工場の操業開始
		遠州デリカ※で太陽光発電を開始 ※現 サラダクラブ遠州工場
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送（500km以上）のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ（一部商品）消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター（第1期）、キユーピー富士吉田工場（※2021年譲渡）に太陽光発電を開始
2014年	仙川キユーポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キユーソー流通システム所沢物流センター、キユーピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入
		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトピール（主にじゃがいもの皮と芽）の飼料化開始（養豚用）
		キユーピー醸造 滋賀工場で太陽光発電を開始
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キユーソー流通システム、キユーピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞

	ダンスコンクールの協賛開始	キユーソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアヲハタとの包括的連携に関する協定」を締結	「キユーピーの森」第二期活動開始
		ケイパック本社工場で太陽光発電を開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行（年1冊ずつ2016年まで実施）	キユーピー ファインケミカル本部五霞工場で太陽光発電を開始
	アヲハタ ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	
	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キッザニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2008年	マッチングギフト制度「ＱＰｅａｃｅ」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞（ブログ部門）受賞	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キユーピー富士吉田工場でISO14001の認証取得 ※2021年譲渡
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キユーピーの森」を山梨県富士吉田市で開始
2006年	「社会・環境報告書」の発行を開始（社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行）	
	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加

2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	
	「環境・社会報告書」の発行を開始（「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加）	
		中河原工場でISO14001の認証取得
2004年	キユーピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰（主催：財団法人消費者教育支援センター）の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2003年		キユーピー全工場で廃棄物の再資源化率100％達成
2002年	マヨネーズ教室を開始	キユーピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学（現 東京海洋大学）大学院に「ヘルスフード科学（中島董一郎記念）寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100％達成
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
		グループ環境マネジメントマニュアルを制定
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定（部門ごとの目標を設定し活動）
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会（委員長：環境担当役員）を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売（商品名「卵醤」） ※現在は販売しておりません
1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点検システムを確立

1992年		容器減量化を推進（ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など）
1991年		環境問題検討委員会を設置（委員長：生産本部長）
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売（膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」）
1980年	「那覇ママさんコーラスまつり」（現「全沖縄おかあさんコーラス大会」）の協賛開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」（現「全日本おかあさんコーラス大会」）の協賛開始	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キユーピーニュース」発行	
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入（1975年に全工場に整備）
1969年		卵殻の破砕・乾燥設備を導入（旧仙川工場）
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1962年	「キユーピー３分クッキング」放映開始	
1961年	オープンキッチン（工場見学）を開始	
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

キユーピーグループ オフィシャルブログ

従業員より、社会・環境への取り組みを発信しています。

食育
- マヨテラス
- オープンキッチン(工場見学)
- グループ
- 食育 その他

環境
- 資源の有効活用
- 気候変動への対応
- 環境 その他

社会
- キユーピーみらいたまご財団
- ダイバーシティ
- 清掃活動
- 社会 その他

お知らせ
- お知らせ

2026年
- 2026年9月
- 2026年8月
- 2026年7月
- 2026年6月

ピックアップ記事

2026.09.07 食育

「野菜が食べられた!」最高の笑顔に出会える五霞工場

2026.09.03 食育

自分でつくると、野菜がもっとおいしい!「ポテトサラダで野菜チャレンジ!」を開催@マヨテラス

最新記事

RSS > RSSについて

2026/09/07 食育

「野菜が食べられた!」最高の笑顔に出会える五霞工場

2026/09/03 食育

自分でつくると、野菜がもっとおいしい!「ポテトサラダで野菜チャレンジ!」を開催@マヨテラス

2026/09/01 食育

【後編】中国3工場の挑戦!"食の楽しさと安心"を届ける工場見学(杭州・北京・広州)

2026/08/31 食育

【前編】中国3工場の工場見学を統括して～これまでの歩みと想い

2026/08/28 環境 食育

「MOTTAINAI」を形に。食材をおいしく生まれ変わらせる、私の小さな挑戦

2026/08/26 食育

遠い存在だと思っていた念願の「マヨスター」へ!「食の楽しさ・大切さ」を伝える私の挑戦

2026年5月 ›
2026年4月 ›
2026年3月 ›
2026年2月 ›
2026年1月 ›
2025年 +
2024年 +
2023年 +
2022年 +
2021年 +
2020年 +
2019年 +

もっと見る ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 食と健康への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 品質と安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

グループ各社のサステナビリティ活動

アヲハタ株式会社

ジャム類（ジャム、マーマレードなど）、産業用加工品類（フルーツ・プレパレーション：主としてヨーグルト・アイス用フルーツソース）などの食料品の製造および販売をしている会社です。

アヲハタ株式会社 サステナビリティ

株式会社サラダクラブ

キユーピーと三菱商事が設立したパッケージサラダの製造・販売をしている会社です。

株式会社サラダクラブ サステナビリティ

キユーピータマゴ株式会社

液卵・乾燥卵などの加工食品の原料から、茹卵・たまごサラダ・厚焼たまご・オムレツなどの商品を製造・販売している会社です。

キユーピータマゴ株式会社 サステナビリティ

デリア食品株式会社

サラダ・惣菜、米飯、麺類、漬物、コミュニケーションフードの製造および販売をしている会社です。

デリア食品株式会社 サステナビリティ

株式会社ポテトデリカ

「じゃがいも」を原料としたポテトサラダなどのお惣菜を開発・製造している会社です。

株式会社ポテトデリカ サステナビリティ

キユーピー醸造株式会社

醸造酢、穀物酢、果実酢の製造販売。漬物、惣菜向け調味酢、調味液の製造販売。食品添加物（品質保持用）などの製造販売をしている会社です。

キユーピー醸造株式会社 サステナビリティ

株式会社ケイパック

マヨネーズ・ドレッシングを中心とした小袋調味料の製造および販売をしている会社です。

株式会社ケイパック 環境対策